

第Ⅱ部 教員活動評価

第1章 教員活動評価について

教員活動評価は、教員が、大学の教育、研究、社会貢献及び大学運営の4分野における自らの活動状況について、自己点検・評価し、その活動の改善と向上に努めることにより、本学の教育、研究及び社会貢献等の活動について、一層の活性化を促すことを目的としている。

各教員は、全学共通の自己点検項目、評価の観点などを示した教員活動自己点検・評価実施基準(資料1-3 以下、「全学実施基準」という。)に、学部・研究科等の特性を考慮した自己点検項目等を加えた学部等教員活動自己点検・評価実施基準に基づいて、前年度分の活動について自己点検・評価を行い、「教員活動自己点検・評価報告書」として、活動状況資料を添え、学部・研究科等の長に提出する。

本学では、自己点検・評価は、3年に1度実施するため、教員活動評価は、自己点検・評価実施年度を含む過去3年度分の活動について、学部・研究科等の長及び部局評価・企画実施委員会が、提出された教員活動自己点検・評価報告書について分析・検証し、その内容を教員活動評価結果として部局評価自己点検・評価報告書にとりまとめ、大学評価・企画実施委員会(以下、「評価委員会」という。)に提出する。今回は、平成20年度から22年度の3年度分の活動評価を自己点検・評価報告書としてとりまとめ、公表するものである。

なお、教員活動自己点検・評価報告書は、各教員の自己評価をもとに分析している。

第2章には、平成20年度から平成22年度の3年間の学部・研究科等の教員活動評価の一覧表とグラフを掲載している。これは、以上のような方法での分析結果をとりまとめたものであり、学部・研究科等の比較を目的としたものではない。

資料1－1 公立大学法人大阪府立大学評価基本方針(抜粋)

公立大学法人大阪府立大学評価基本方針(抜粋)

大阪府立大学(以下「本学」という。)における大学評価は、この方針に基づき行う。

(中略)

第3 評価の種類

- (1) 大学評価は、自己点検・評価、認証評価及び法人評価とする。

自己点検・評価は、大学及び部局を単位として実施する組織評価と大学を構成する教員の活動について実施する教員活動評価とする。

(中略)

第7 評価結果の公表

大学評価の結果の公表は、刊行物への掲載や WEB サイトへの掲載等広く周知を図ることができる方法によることとし、その具体的な内容及び手段は大学評価委員会において定める。

<http://www.osakafu-u.ac.jp/info/disclosure/evaluation/policy.html>

資料1－2 大阪府立大学自己点検・評価実施要領(抜粋)

大阪府立大学自己点検・評価実施要領(抜粋)

I 総則

(中略)

3. 自己点検・評価の構成

自己点検・評価は、組織評価と教員活動評価で構成するものとし、それぞれにつき、教育、研究、社会貢献及び大学運営の4分野に分類する。

4. 自己点検・評価報告書の作成

部局評価・企画実施委員会(以下「部局評価委員会」という。)においては、原則として自己点検・評価実施年度の翌年度 6 月末までに組織評価結果、教員活動評価結果を部局自己点検・評価報告書としてとりまとめ、大学評価委員会に提出する。

大学評価・企画実施委員会(以下「大学評価委員会」という。)においては、部局自己点検・評価報告書をとりまとめ、原則として自己点検・評価実施年度の翌年度 7 月末までに自己点検・評価報告書を作成する。

(中略)

III 教員活動評価

1. 教員活動評価の対象

教員活動評価の対象となる教員は、本学専任の教授、准教授、講師、助教及び助手とする。

(中略)

2. 教員活動自己点検・評価実施基準の策定

教員活動評価の実施に当たっては、大学評価委員会において、全学共通の自己点検項目、自己点検の観点及び内容を示した教員活動自己点検・評価実施基準(以下「全学実施基準」という。)を定める。

部局評価委員会においては、全学実施基準に、学部等の特性を考慮した自己点検項目、自己点検評価の観点及び内容を加えた学部等教員活動自己点検・評価実施基準(以下「学部等実施基準」という。)を定める。

3. 教員活動自己点検・評価報告書の提出

教員は、原則として毎年度4月末までに、前年度分の活動について当該教員が所属する学部等の学部等実施基準に基づき自己点検・評価を行い、教員活動自己点検・評価報告書として活動状況資料を添え、当該教員が所属する学部等の長に提出する。

4. 教員活動評価の実施

学部等の長及び部局評価委員会は、自己点検・評価実施年度の翌年度5月末までに、自己点検・評価実施年度を含む過去3年度分の教員活動自己点検・評価報告書について分析・検証する。

5. 教員活動自己点検・評価報告書の非公表

教員活動自己点検・評価報告書及び活動状況資料は、公表しない。

資料1－3 教員活動自己点検・評価実施基準(全学実施基準)

教員活動自己点検・評価実施基準(全学実施基準)

1 目的

教育、研究、社会貢献及び大学運営の4分野における教員個人の活動状況について、教員自身が自己点検・評価し、自らの活動の改善と向上に努めることにより、本学の教育、研究及び社会貢献等の活動について、一層の活性化を促すことを目的に行う。

2 教育活動

本学が掲げる教育目的に照らして、教育活動の質の維持・向上を図る取組を不断に行っているかについて、自己点検・評価を行う。

活動分野	点検項目	評価の観点	自己点検・評価内容
教育活動	授業活動 (学部、大学院を含む)	学部等が掲げる教育目的のもと、個々の授業目標に従って、授業展開を積極的に行ったか。	活動状況について次に4段階により評価するとともに、その理由を具体的に記載 S 非常に積極的に行った A 積極的に行った B 普通であった C 積極的でなかった (授業を持たない教員除く。)
	教育改善活動	学部等が掲げる教育目的に応じた授業内容、教材、教授技術等の改善を積極的に行ったか。	活動状況について次の4段階により評価するとともに、その理由を具体的に記載 S 非常に積極的に行った A 積極的に行った B 普通であった C 積極的でなかった (授業を持たない教員は除く。)
	研究指導活動 (学部、大学院を含む)	学位取得に向けた指導を積極的に行ったか。	活動状況について次の4段階により評価するとともに、その理由を具体的に記載 S 非常に積極的に行った A 積極的に行った B 普通であった C 積極的でなかった (研究指導活動を行わない教員は除く。)

3 研究活動

本学が掲げる研究目的に照らして、研究活動が活発に行われているか。また、研究成果からみて質が確保されているかについて、自己点検・評価を行う。

活動分野	点検項目	評価の観点	自己点検・評価内容
研究活動	学術論文等による研究発表活動	学術論文等による研究発表活動を活発に行ったか。	活動状況について次の4段階により評価するとともに、その理由を具体的に記載 S 非常に活発であった A 活発であった B 普通であった C 活発でなかった

		学術論文等により、質の高い研究発表活動がなされたか。	活動内容について次の4段階により評価するとともに、その理由を具体的に記載 S 特段に高い質が確保された A 高い質が確保された B 普通であった C 不十分であった
	学会等における研究発表活動	学術講演、学会発表による研究発表活動を活発に行ったか。	活動状況について次の4段階により評価するとともに、その理由を具体的に記載 S 非常に活発であった A 活発であった B 普通であった C 活発でなかった
	競争的資金の申請・獲得状況	競争的資金獲得のため、代表者として積極的に申請したか。	申請状況について次の3段階により評価するとともに、Cの場合、その理由を具体的に記載 A 積極的に申請した B 申請した C 申請しなかった
		競争的資金の申請を行った結果、採択されたか。	獲得状況について次の3段階により評価する A 複数採択された B 採択された C 採択されなかった

注1:競争的資金とは、科研費、国プロジェクト、NEDO、JSTなど、公募によるものをいう。

2:申請とは、新規申請のことをいう。

4.社会貢献活動

地域社会への貢献にかかる活動は積極的に行われたかについて、自己点検・評価を行う。

活動分野	点検項目	評価の観点	自己点検・評価内容
社会貢献活動	府等の委員会への参画活動	国・府・市町村等の委員会への参画により、行政課題に対応した研究・提言を積極的に行ったか。	活動状況について次の4段階により評価するとともに、その理由を具体的に記載 S 非常に積極的に行った A 積極的に行った B 普通であった C 積極的でなかった
	地域に密着した学習支援活動	社会人向けの公開講座、高大連携講座等を通じて、地域に密着した学習支援活動を積極的に行ったか。	活動状況について次の4段階により評価するとともに、その理由を具体的に記載 S 非常に積極的に行った A 積極的に行った B 普通であった C 積極的でなかった

5 大学運営活動

本学の教育、研究活動等を円滑に推進するため、大学の運営に係る取組に寄与したかについて、自己点検・評価を行う。

活動分野	点検項目	評価の観点	自己点検・評価内容
大学運営活動	各種委員会活動	大学、学部等の各種委員会等に参画し、その運営に寄与したか。	活動状況について次の4段階により評価するとともに、その理由を具体的に記載 S 十分に寄与した A 寄与した B あまり寄与しなかった C 寄与しなかった

第2章 学部・研究科等の状況

第1節 評価結果の数値化と全学の状況

各学部・研究科等の教員活動評価にあたり、点検項目の評価の観点ごとの自己点検・評価の結果を下記のとおりの点数とし、数値化を行う。

S:3点、A:2点、B:1点、C:0点

次節以降に、各学部・研究科等の結果を、表及びグラフで示す。グラフは、各点検項目について、職位ごとに、自己評価の区分ごとの人数を棒グラフで、平均点を折れ線グラフで表示している。

全学共通項目に関しては、全学の状況を、資料2-1に示す。

資料2-1 全学共通項目の全学の状況

○ 提出率

職位	H20 年度			H21 年度			H22 年度			3年間平均		
	在籍 人数	提出 人数	提出 率	在籍 人数	提出 人数	提出 率	在籍 人数	提出 人数	提出 率	在籍 人数	提出 人数	提出 率
教授	264	246	93%	259	238	92%	253	244	96%	259	243	94%
准教授・ 講師	306	281	92%	293	267	91%	282	270	96%	294	273	93%
助教・助手	148	147	99%	137	124	91%	140	134	96%	142	135	95%
合計	718	674	94%	689	626	91%	675	648	96%	694	649	94%

1 教育活動

(1) 授業活動

職位	点検・評 価内容	H20 年度		H21 年度		H22 年度		3年間平均	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
教授	S	65	26%	69	29%	66	27%	67	28%
	A	141	57%	132	56%	141	58%	138	57%
	B	39	16%	34	14%	36	15%	36	15%
	C	1	0%	0	0%	1	0%	1	0%
	平均点	2.1		2.1		2.1		2.1	
准教授・ 講師	S	66	24%	50	19%	63	24%	60	22%
	A	181	65%	185	70%	167	63%	178	66%
	B	33	12%	29	11%	37	14%	33	12%
	C	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	平均点	2.1		2.1		2.1		2.1	

職位	点検・評価内容	H20 年度		H21 年度		H22 年度		3年間平均	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
助教・助手	S	21	16%	21	18%	22	17%	21	17%
	A	81	62%	77	68%	92	70%	83	66%
	B	25	19%	15	13%	18	14%	19	15%
	C	3	2%	1	1%	0	0%	1	1%
	平均点	1.9		2.0		2.0		2.0	
合計	S	152	23%	140	23%	151	23%	148	23%
	A	403	61%	394	64%	400	62%	399	63%
	B	97	15%	78	13%	91	14%	89	14%
	C	4	1%	1	0%	1	0%	2	0%
	平均点	2.1		2.1		2.1		2.1	

(2) 教育改善活動

職位	点検・評価内容	H20 年度		H21 年度		H22 年度		3年間平均	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
教授	S	57	23%	60	25%	62	26%	60	25%
	A	143	58%	132	56%	136	56%	137	57%
	B	41	17%	41	17%	40	16%	41	17%
	C	4	2%	4	2%	5	2%	4	2%
	平均点	2.0		2.0		2.0		2.0	
准教授・講師	S	74	26%	59	23%	70	26%	68	25%
	A	162	58%	159	61%	153	57%	158	59%
	B	44	16%	43	16%	43	16%	43	16%
	C	0	0%	1	0%	1	0%	1	0%
	平均点	2.1		2.1		2.1		2.1	
助教・助手	S	18	14%	19	16%	21	16%	19	15%
	A	78	59%	76	66%	86	64%	80	63%
	B	32	24%	18	16%	23	17%	24	19%
	C	4	3%	3	3%	4	3%	4	3%
	平均点	1.8		2.0		1.9		1.9	
合計	S	149	23%	138	22%	153	24%	147	23%
	A	383	58%	367	60%	375	58%	375	59%
	B	117	18%	102	17%	106	16%	108	17%
	C	8	1%	8	1%	10	2%	9	1%
	平均点	2.0		2.0		2.0		2.0	

(3) 研究指導活動

職位	点検・評価内容	H20 年度		H21 年度		H22 年度		3年間平均	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
教授	S	74	31%	86	39%	83	37%	81	36%
	A	115	48%	95	43%	103	46%	104	46%
	B	43	18%	38	17%	35	16%	39	17%
	C	7	3%	1	0%	1	0%	3	1%
	平均点	2.1		2.2		2.2		2.2	
准教授・講師	S	66	27%	63	27%	72	30%	67	28%
	A	125	51%	117	50%	116	48%	119	50%
	B	46	19%	46	20%	47	20%	46	19%
	C	8	3%	8	3%	6	2%	7	3%
	平均点	2.0		2.0		2.1		2.0	
助教・助手	S	35	27%	30	27%	38	29%	34	27%
	A	66	50%	63	56%	66	50%	65	52%
	B	27	21%	17	15%	25	19%	23	18%
	C	3	2%	3	3%	3	2%	3	2%
	平均点	2.0		2.1		2.1		2.0	
合計	S	175	28%	179	32%	193	32%	182	31%
	A	306	50%	275	49%	285	48%	289	49%
	B	116	19%	101	18%	107	18%	108	18%
	C	18	3%	12	2%	10	2%	13	2%
	平均点	2.0		2.1		2.1		2.1	

2 研究活動

(1) 学術論文等による研究発表活動

職位	点検・評価内容	H20 年度		H21 年度		H22 年度		3年間平均	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
教授	S	49	20%	54	23%	61	25%	55	23%
	A	91	37%	82	35%	99	41%	91	38%
	B	78	32%	75	32%	58	24%	70	29%
	C	28	11%	25	11%	24	10%	26	11%
	平均点	1.7		1.7		1.8		1.7	
准教授・講師	S	48	17%	53	20%	49	18%	50	19%
	A	102	37%	87	33%	96	36%	95	35%
	B	86	31%	85	32%	85	32%	85	32%
	C	42	15%	37	14%	37	14%	39	14%
	平均点	1.6		1.6		1.6		1.6	

職位	点検・評価内容	H20 年度		H21 年度		H22 年度		3年間平均	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
助教・助手	S	22	14%	18	14%	26	19%	22	16%
	A	58	38%	47	38%	51	37%	52	38%
	B	44	29%	37	30%	39	28%	40	29%
	C	28	18%	23	18%	21	15%	24	17%
	平均点	1.5		1.5		1.6		1.5	
合計	S	119	18%	125	20%	136	21%	127	20%
	A	251	37%	216	35%	246	38%	238	37%
	B	208	31%	197	32%	182	28%	196	30%
	C	98	14%	85	14%	82	13%	88	14%
	平均点	1.6		1.6		1.7		1.6	

(2) 学会等による研究発表活動【活発さ】

職位	点検・評価内容	H20 年度		H21 年度		H22 年度		3年間平均	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
教授	S	46	19%	63	27%	61	25%	57	23%
	A	93	38%	77	32%	95	39%	88	37%
	B	61	25%	55	23%	53	22%	56	23%
	C	42	17%	42	18%	36	15%	40	17%
	平均点	1.6		1.7		1.7		1.7	
准教授・講師	S	51	18%	52	20%	55	21%	53	20%
	A	103	37%	93	35%	89	33%	95	35%
	B	83	30%	61	23%	79	30%	74	28%
	C	41	15%	58	22%	43	16%	47	18%
	平均点	1.6		1.5		1.6		1.6	
助教・助手	S	22	15%	19	15%	21	15%	21	15%
	A	66	45%	43	35%	65	47%	58	43%
	B	38	26%	42	34%	39	28%	40	29%
	C	22	15%	20	16%	12	9%	18	13%
	平均点	1.6		1.5		1.7		1.6	
合計	S	119	18%	134	21%	137	21%	130	20%
	A	262	39%	213	34%	249	38%	241	37%
	B	182	27%	158	25%	171	26%	170	26%
	C	105	16%	120	19%	91	14%	105	16%
	平均点	1.6		1.6		1.7		1.6	

(2) 学会等による研究発表活動【質の高さ】

職位	点検・評価内容	H20 年度		H21 年度		H22 年度		3年間平均	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
教授	S	19	26%	19	26%	19	26%	19	26%
	A	42	58%	42	58%	42	58%	42	58%
	B	8	11%	8	11%	8	11%	8	11%
	C	4	5%	4	5%	4	5%	4	5%
	平均点	2.0		2.0		2.0		2.0	
准教授・講師	S	9	13%	9	13%	9	13%	9	13%
	A	39	57%	39	57%	39	57%	39	57%
	B	14	21%	14	21%	14	21%	14	21%
	C	6	9%	6	9%	6	9%	6	9%
	平均点	1.8		1.8		1.8		1.8	
助教・助手	S	11	18%	11	18%	11	18%	11	18%
	A	35	56%	35	56%	35	56%	35	56%
	B	12	19%	12	19%	12	19%	12	19%
	C	4	6%	4	6%	4	6%	4	6%
	平均点	1.9		1.9		1.9		1.9	
合計	S	39	19%	39	19%	39	19%	39	19%
	A	116	57%	116	57%	116	57%	116	57%
	B	34	17%	34	17%	34	17%	34	17%
	C	14	7%	14	7%	14	7%	14	7%
	平均点	1.9		1.9		1.9		1.9	

(3) 競争的資金の申請状況

職位	点検・評価内容	H20 年度		H21 年度		H22 年度		3年間平均	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
教授	A	102	42%	106	45%	106	44%	105	44%
	B	86	35%	76	32%	75	31%	79	33%
	C	57	23%	54	23%	61	25%	57	24%
	平均点	1.2		1.2		1.2		1.2	
准教授・講師	A	125	45%	110	42%	100	38%	112	42%
	B	106	38%	110	42%	100	38%	105	39%
	C	45	16%	43	16%	61	23%	50	19%
	平均点	1.3		1.3		1.1		1.2	

職位	点検・評価内容	H20 年度		H21 年度		H22 年度		3年間平均	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
助教・助手	A	67	46%	50	40%	55	0%	57	42%
	B	63	43%	64	52%	66	48%	64	47%
	C	17	12%	10	8%	16	12%	14	10%
	平均点	1.3		1.3		1.3		1.3	
合計	A	294	44%	266	43%	261	41%	274	43%
	B	255	38%	250	40%	241	38%	249	39%
	C	119	18%	107	17%	138	22%	121	19%
	平均点	1.3		1.3		1.2		1.2	

(3) 競争的資金の獲得状況

職位	点検・評価内容	H20 年度		H21 年度		H22 年度		3年間平均	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
教授	A	47	27%	51	26%	59	30%	52	28%
	B	67	38%	68	35%	56	28%	64	34%
	C	62	35%	77	39%	82	42%	74	39%
	平均点	0.9		0.9		0.9		0.9	
准教授・講師	A	35	16%	44	19%	31	14%	37	16%
	B	56	25%	72	31%	65	29%	64	29%
	C	129	59%	117	50%	126	57%	124	55%
	平均点	0.6		0.7		0.6		0.6	
助教・助手	A	14	11%	15	13%	16	13%	15	13%
	B	47	38%	27	23%	33	27%	36	29%
	C	62	50%	75	64%	74	60%	70	58%
	平均点	0.6		0.5		0.5		0.5	
合計	A	96	18%	110	20%	106	20%	104	19%
	B	170	33%	167	31%	154	28%	164	31%
	C	253	49%	269	49%	282	52%	268	50%
	平均点	0.7		0.7		0.7		0.7	

3 社会貢献活動

(1) 府等の委員会への参画活動

職位	点検・評価内容	H20 年度		H21 年度		H22 年度		3年間平均	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
教授	S	42	18%	50	22%	46	19%	46	19%
	A	50	21%	55	24%	54	23%	53	22%
	B	53	22%	46	20%	51	21%	50	21%
	C	94	39%	81	35%	88	37%	88	37%
	平均点	1.2		1.3		1.2		1.2	
准教授・講師	S	31	11%	25	10%	24	9%	27	10%
	A	40	14%	33	13%	46	18%	40	15%
	B	44	16%	48	19%	52	20%	48	18%
	C	162	58%	151	59%	139	53%	151	57%
	平均点	0.8		0.7		0.8		0.8	
助教・助手	S	4	3%	3	3%	5	4%	4	3%
	A	17	12%	12	10%	13	10%	14	11%
	B	23	16%	21	18%	22	17%	22	17%
	C	96	69%	82	69%	91	69%	90	69%
	平均点	0.5		0.5		0.5		0.5	
合計	S	77	12%	78	13%	75	12%	77	12%
	A	107	16%	100	16%	113	18%	107	17%
	B	120	18%	115	19%	125	20%	120	19%
	C	352	54%	314	52%	318	50%	328	52%
	平均点	0.9		0.9		0.9		0.9	

(2) 地域に密着した学習支援活動

職位	点検・評価内容	H20 年度		H21 年度		H22 年度		3年間平均	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
教授	S	47	19%	58	25%	56	23%	54	22%
	A	68	28%	76	32%	81	34%	75	31%
	B	63	26%	57	24%	53	22%	58	24%
	C	66	27%	45	19%	51	21%	54	22%
	平均点	1.4		1.6		1.6		1.5	
准教授・講師	S	52	19%	49	19%	53	20%	51	19%
	A	64	23%	58	22%	66	25%	63	23%
	B	43	16%	60	23%	53	20%	52	19%
	C	118	43%	94	36%	94	35%	102	38%
	平均点	1.2		1.2		1.3		1.2	

職位	点検・評価内容	H20 年度		H21 年度		H22 年度		3年間平均	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
助教・助手	S	13	9%	8	7%	16	12%	12	9%
	A	23	16%	30	25%	31	23%	28	21%
	B	36	25%	22	18%	22	17%	27	20%
	C	72	50%	60	50%	63	48%	65	49%
	平均点	0.8		0.9		1.0		0.9	
合計	S	112	17%	115	19%	125	20%	117	18%
	A	155	23%	164	27%	178	28%	166	26%
	B	142	21%	139	23%	128	20%	136	21%
	C	256	38%	199	32%	208	33%	221	35%
	平均点	1.2		1.3		1.3		1.3	

4 大学運営活動

(1) 各種委員会活動

職位	点検・評価内容	H20 年度		H21 年度		H22 年度		3年間平均	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
教授	S	107	43%	115	49%	122	50%	115	47%
	A	111	45%	101	43%	95	39%	102	42%
	B	27	11%	16	7%	19	8%	21	9%
	C	1	0%	5	2%	7	3%	4	2%
	平均点	2.3		2.4		2.4		2.4	
准教授・講師	S	70	25%	64	24%	66	25%	67	25%
	A	149	53%	150	57%	150	56%	150	56%
	B	37	13%	30	11%	32	12%	33	12%
	C	24	9%	19	7%	18	7%	20	8%
	平均点	1.9		2.0		2.0		2.0	
助教・助手	S	18	12%	16	13%	19	14%	18	13%
	A	77	53%	65	54%	78	59%	73	55%
	B	22	15%	23	19%	24	18%	23	17%
	C	28	19%	16	13%	11	8%	18	14%
	平均点	1.6		1.7		1.8		1.7	
合計	S	195	29%	195	31%	207	32%	199	31%
	A	337	50%	316	51%	323	50%	325	51%
	B	86	13%	69	11%	75	12%	77	12%
	C	53	8%	40	6%	36	6%	43	7%
	平均点	2.0		2.1		2.1		2.1	

第2節 工学研究科

■教員活動自己点検・評価報告書の提出率

(人)

	工学研究科						機械工学分野						航空宇宙工学分野					
	H20		H21		H22		H20		H21		H22		H20		H21		H22	
	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数
教授	73	75	70	71	75	75	12	12	12	12	12	12	5	5	5	5	6	6
	提出率	97.3%	提出率	98.6%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
准教授・講師	70	75	72	73	70	70	7	7	10	10	9	9	6	6	6	6	5	5
	提出率	93.3%	提出率	98.6%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
助教・助手	62	63	51	52	51	53	11	11	9	9	8	9	6	6	3	4	4	4
	提出率	98.4%	提出率	98.1%	提出率	96.2%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	88.9%	提出率	100.0%	提出率	75.0%	提出率	100.0%
合計	205	213	193	196	196	198	30	30	31	31	29	30	17	17	14	15	15	15
	提出率	96.2%	提出率	98.5%	提出率	99.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	96.7%	提出率	100.0%	提出率	93.3%	提出率	100.0%
	海洋システム工学分野						数理工学分野											
	H20		H21		H22		H20		H21		H22		H20		H21		H22	
教授	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数
	5	5	4	4	5	5	6	7	7	7	7	7	6	7	7	7	7	7
准教授・講師	5	6	5	5	5	5	9	9	8	8	9	9	9	9	8	8	9	9
	提出率	83.3%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
助教・助手	5	5	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2	2
	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
合計	15	16	12	12	13	13	19	20	19	19	18	18	19	20	19	19	18	18
	提出率	93.8%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	95.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
	電子物理工学分野						電気情報システム工学分野											
	H20		H21		H22		H20		H21		H22		H20		H21		H22	
教授	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数
	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	7	7	6	6	6	6
准教授・講師	6	6	6	6	7	7	7	8	6	7	6	6	7	8	6	7	6	6
	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	87.5%	提出率	85.7%	提出率	100.0%
助教・助手	6	7	6	6	6	6	5	5	4	4	6	6	5	5	4	4	6	6
	提出率	85.7%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
合計	19	20	19	19	20	20	19	20	16	17	18	18	19	20	16	17	18	18
	提出率	95.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	95.0%	提出率	94.1%	提出率	100.0%
	知能情報工学分野						応用化学分野											
	H20		H21		H22		H20		H21		H22		H20		H21		H22	
教授	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数
	8	8	8	8	8	8	10	11	8	8	10	10	10	11	8	8	10	10
准教授・講師	6	6	7	7	6	6	9	11	9	9	8	8	9	11	9	9	8	8
	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	81.8%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
助教・助手	7	7	7	7	6	7	8	8	8	8	9	9	8	8	8	8	9	9
	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	85.7%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
合計	21	21	22	22	20	21	27	30	25	25	27	27	27	30	25	25	27	27
	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	95.2%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	90.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
	化学工学分野						マテリアル工学分野											
	H20		H21		H22		H20		H21		H22		H20		H21		H22	
教授	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数
	5	5	5	6	6	6	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
准教授・講師	6	7	5	5	5	5	9	9	10	10	10	10	9	9	10	10	10	10
	提出率	85.7%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
助教・助手	5	5	4	4	4	4	5	5	3	3	3	3	5	5	3	3	3	3
	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
合計	16	17	14	15	15	15	22	22	21	21	21	21	22	22	21	21	21	21
	提出率	94.1%	提出率	93.3%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%

※提出がなかった主な理由

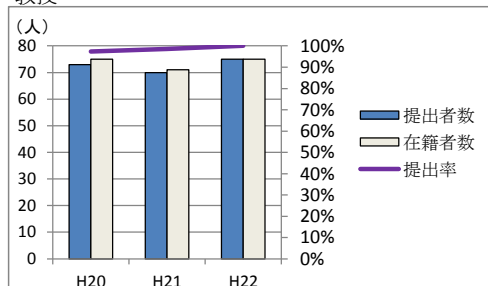
H20年 退職(6人)産休(0人)その他(異動1人, 休職1人)

H21年 退職(1人)産休(0人)その他(休職1人)

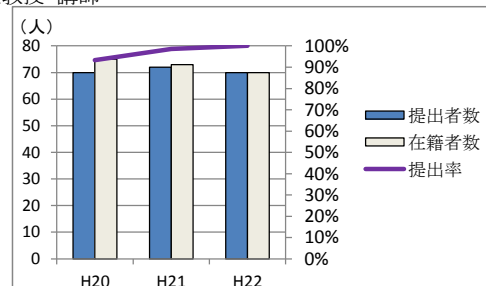
H22年 退職(2人)産休(0人)その他(0人)

【グラフ】

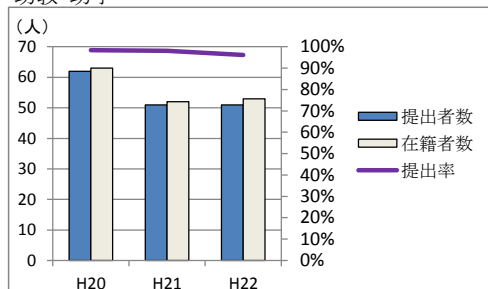
教授



准教授・講師



助教・助手



【教員活動自己点検・評価報告書の提出率についての分析結果】

実質提出率は、ほぼ100%で、教員個人の意識が高い。

■教員活動自己点検・評価実施基準(全学実施基準)

1. 教育活動

(1) 授業活動

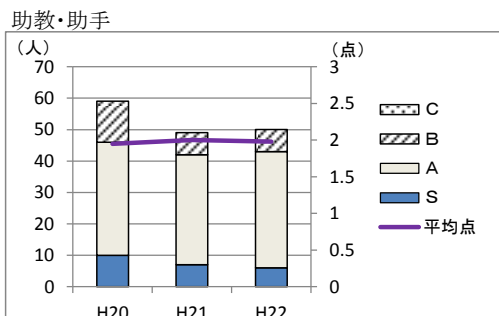
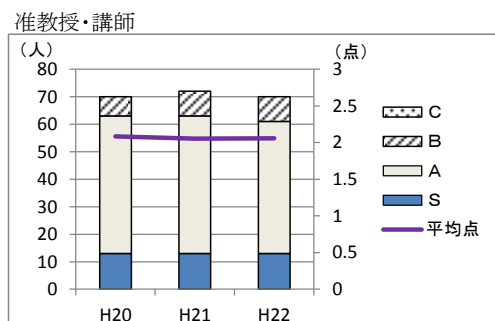
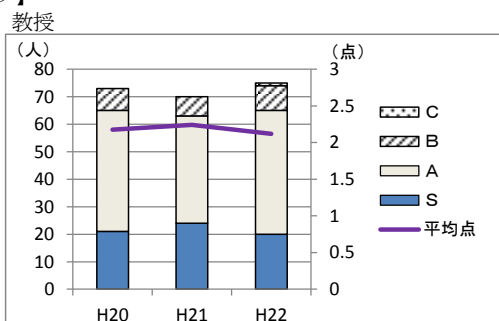
【評価の観点1】: 学部等が掲げる教育目的のもと、個々の授業目標に従って、授業展開を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		工学研究科			機械工学分野			航空宇宙工学分野			海洋システム工学分野			数理工学分野			電子物理工学分野		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	21	24	20	2	4	4	1	1	1	1	1	1	2	1	1	3	2	2
	准教授・講師	13	13	13	1	2	1	1	1	0	2	0	0	2	4	4	1	0	1
	助教・助手	10	7	6	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
A	教授	44	39	45	9	7	7	3	3	4	3	2	2	3	4	5	3	4	4
	准教授・講師	50	50	48	6	7	8	3	3	3	2	5	4	6	3	5	5	6	6
	助教・助手	36	35	37	7	6	5	2	3	4	4	2	3	4	4	2	4	6	4
B	教授	8	7	9	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	0	1	1	1
	准教授・講師	7	9	9	0	1	0	2	2	2	1	0	1	1	1	0	0	0	0
	助教・助手	13	7	7	2	2	3	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
C	教授	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	2.2	2.2	2.1	2.1	2.3	2.3	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.8	2.2	1.9	1.9	2.3	2.1	2.1
	准教授・講師	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	1.8	1.8	1.6	2.2	2.0	1.8	2.1	2.4	2.4	2.2	2.0	2.1
	助教・助手	1.9	2.0	2.0	1.8	1.8	1.6	2.0	2.0	2.0	1.8	2.3	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
		電気情報システム工学分野			知能情報工学分野			応用化学分野			化学工学分野			マテリアル工学分野					
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	2	1	1	2	3	2	3	4	3	2	3	3	3	4	2			
	准教授・講師	0	0	1	0	0	0	5	5	4	0	1	2	1	0	0			
	助教・助手	0	0	0	1	2	2	5	3	3	1	1	0	0	0	0			
A	教授	5	5	5	5	5	4	7	4	7	3	2	3	3	3	4			
	准教授・講師	6	5	4	5	6	5	4	2	2	6	4	3	7	9	8			
	助教・助手	4	4	6	4	4	3	1	3	5	2	1	3	4	2	2			
B	教授	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	2	1	2			
	准教授・講師	1	1	1	1	1	1	0	2	2	0	0	0	1	1	2			
	助教・助手	1	0	0	2	1	1	2	2	1	2	2	1	0	0	0			
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
平均点	教授	2.3	2.2	2.2	2.1	2.4	2.0	2.3	2.5	2.3	2.4	2.6	2.5	2.1	2.4	2.0			
	准教授・講師	1.9	1.8	2.0	1.8	1.9	1.8	2.6	2.3	2.3	2.0	2.2	2.4	2.0	1.9	1.8			
	助教・助手	1.8	2.0	2.0	1.9	2.1	2.2	2.4	2.1	2.2	1.8	1.8	1.8	2.0	2.0	2.0			

【グラフ】



【特記事項】

特になし

(2)教育改善活動

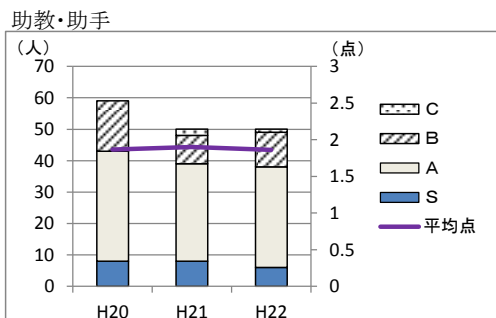
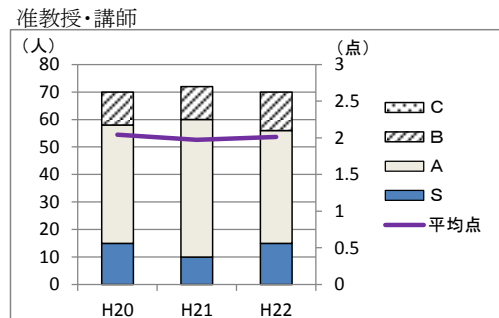
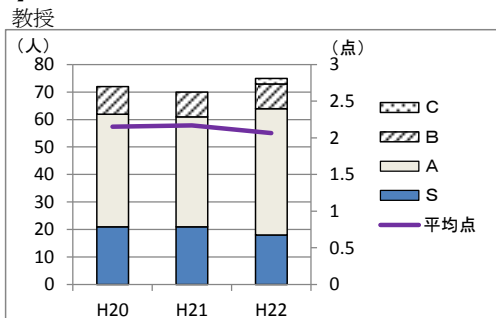
【評価の観点2】:学部等が掲げる教育目的に応じた授業内容、教材、教授技術等の改善を積極的に行ったか。

S(3点):非常に積極的に行った A(2点):積極的に行った B(1点):普通であった C(0点):積極的でなかった

(人)

		工学研究科			機械工学分野			航空宇宙工学分野			海洋システム工学分野			数理工学分野			電子物理工学分野		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	21	21	18	2	4	3	0	0	0	0	0	0	2	2	2	1	0	0
	准教授・講師	15	10	15	1	1	1	0	0	0	2	0	1	4	3	4	1	1	1
	助教・助手	8	8	6	0	1	0	1	0	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0
A	教授	41	40	46	10	7	8	4	4	5	4	4	2	3	3	3	5	7	6
	准教授・講師	43	50	41	4	7	6	4	5	4	2	5	4	5	5	4	5	4	5
	助教・助手	35	31	32	7	6	5	2	2	2	4	1	1	3	3	1	5	5	4
B	教授	10	9	9	0	1	1	1	1	1	0	0	3	1	2	0	1	0	1
	准教授・講師	12	12	14	2	2	2	2	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1
	助教・助手	16	9	11	2	2	3	3	1	1	0	0	0	1	1	1	1	1	1
C	教授	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
平均点	教授	2.2	2.2	2.1	2.2	2.3	2.2	1.8	1.8	1.8	2.0	2.0	1.4	2.2	2.0	1.7	2.0	2.0	1.9
	准教授・講師	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.7	1.8	1.8	2.2	2.0	2.2	2.4	2.4	2.3	2.2	2.0	2.0
	助教・助手	1.9	1.9	1.9	1.8	1.9	1.6	1.7	1.7	2.0	2.2	2.7	2.7	1.8	1.8	1.5	1.8	1.8	1.5
		電気情報システム工学分野			知能情報工学分野			応用化学分野			化学工学分野			マテリアル工学分野					
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	3	2	2	3	4	2	5	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3
	准教授・講師	0	0	1	0	0	0	1	4	4	5	2	0	1	1	1	0		
	助教・助手	0	1	1	2	2	1	4	2	1	0	0	0	0	0	0	0		
A	教授	4	4	4	2	2	5	3	4	7	3	2	3	3	3	3	3		
	准教授・講師	6	6	4	5	5	4	4	4	1	4	5	4	4	4	5			
	助教・助手	4	3	4	3	4	5	2	3	5	2	2	3	3	2	2			
B	教授	0	0	0	3	2	1	2	1	0	0	0	0	2	2	2			
	准教授・講師	1	0	1	1	2	1	1	1	2	0	0	0	0	4	5			
	助教・助手	1	0	1	2	0	0	2	2	3	3	2	1	1	0	0			
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	助教・助手	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0			
平均点	教授	2.4	2.3	2.3	2.0	2.3	2.1	2.3	2.3	2.3	2.4	2.6	2.5	2.1	2.1	2.1			
	准教授・講師	1.9	2.0	2.0	1.8	1.7	2.0	2.3	2.3	2.4	2.3	2.0	2.2	1.7	1.6	1.5			
	助教・助手	1.8	2.3	2.0	2.0	2.0	2.2	2.3	1.8	1.8	1.4	1.5	1.8	1.8	2.0	2.0			

【グラフ】



【特記事項】

特になし

(3) 研究指導活動

【評価の観点3】: 学位取得に向けた指導を積極的に行ったか。(研究指導活動を行わない教員は除く)

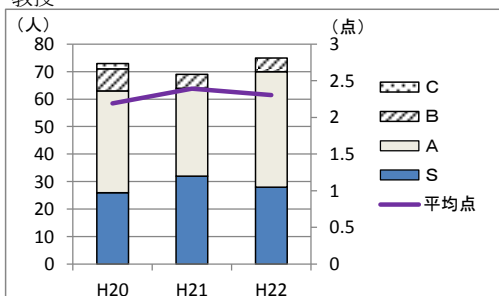
S(3点): 非常に積極的にを行った A(2点): 積極的にを行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

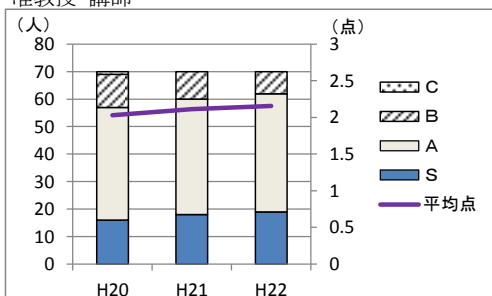
		工学研究科			機械工学分野			航空宇宙工学分野			海洋システム工学分野			数理工学分野			電子物理工学分野		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	26	32	28	3	3	4	1	3	1	1	1	2	1	1	1	4	4	4
	准教授・講師	16	18	19	2	4	4	0	0	0	1	1	1	4	4	2	0	0	1
	助教・助手	20	15	17	4	1	2	2	0	1	2	2	2	0	0	0	2	3	3
A	教授	37	32	42	9	9	8	3	2	4	2	1	2	3	4	4	3	3	3
	准教授・講師	41	42	43	4	5	4	5	4	4	3	3	4	4	3	6	4	5	5
	助教・助手	29	25	23	5	5	2	3	2	2	2	1	1	1	1	1	4	3	2
B	教授	8	5	5	0	0	0	1	0	1	2	2	1	1	1	2	0	0	0
	准教授・講師	12	10	8	1	1	1	1	2	1	1	1	0	1	1	1	2	1	1
	助教・助手	11	10	11	2	3	4	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1
C	教授	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	准教授・講師	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	2.2	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.0	2.6	2.0	1.8	1.8	2.2	1.7	2.0	1.9	2.6	2.6	2.6
	准教授・講師	2.0	2.1	2.2	2.1	2.3	2.3	1.8	1.7	1.8	2.0	2.0	2.2	2.3	2.4	2.1	1.7	1.8	2.0
	助教・助手	2.2	2.1	2.1	2.2	1.8	1.8	2.2	1.7	2.0	2.2	2.7	2.7	1.5	1.5	1.5	2.3	2.5	2.3
				電気情報システム工学分野			知能情報工学分野			応用化学分野			化学工学分野			マテリアル工学分野			
				H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	
S	教授				3	4	2	3	5	4	5	5	4	2	2	2	3	4	4
	准教授・講師				1	0	1	1	1	1	4	4	6	1	2	2	2	2	1
	助教・助手				1	1	1	3	3	2	5	5	5	1	0	1	0	0	0
A	教授				4	2	4	4	2	4	5	3	6	3	3	4	1	3	3
	准教授・講師				3	6	5	3	5	4	5	3	1	5	3	2	5	5	8
	助教・助手				3	3	5	3	3	3	1	0	2	2	2	2	5	5	3
B	教授				0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1
	准教授・講師				3	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	1	2	1	1
	助教・助手				1	0	0	1	1	1	2	2	2	2	2	1	0	0	0
C	教授				0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師				0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手				0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授				2.4	2.7	2.3	2.1	2.5	2.5	2.5	2.6	2.4	2.4	2.4	2.3	1.9	2.4	2.4
	准教授・講師				1.7	2.0	2.2	1.7	2.0	2.0	2.4	2.2	2.6	2.2	2.4	2.2	2.0	2.1	2.0
	助教・助手				2.0	2.3	2.2	2.3	2.3	2.2	2.4	2.1	2.3	1.8	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0

【グラフ】

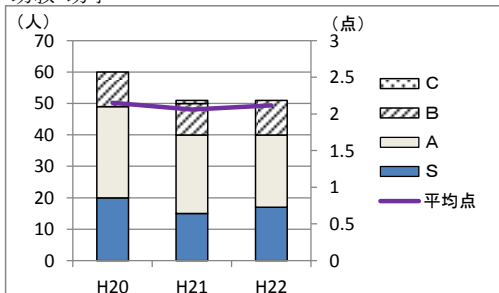
教授



准教授・講師



助教・助手



【特記事項】

特になし

【教育活動についての分析結果】

教育活動については、概ねいずれの分野も積極的に取り組んでいる。

2. 研究活動

(1) 学術論文等による研究発表活動

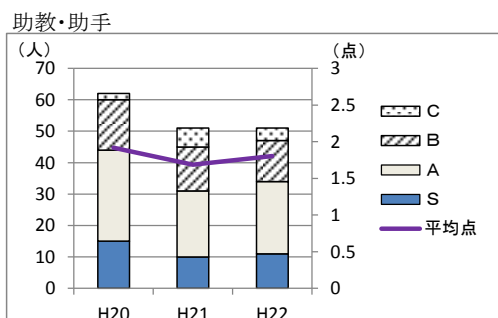
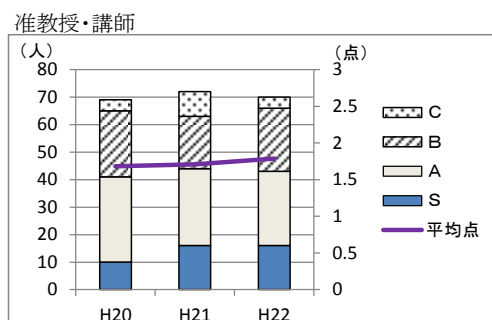
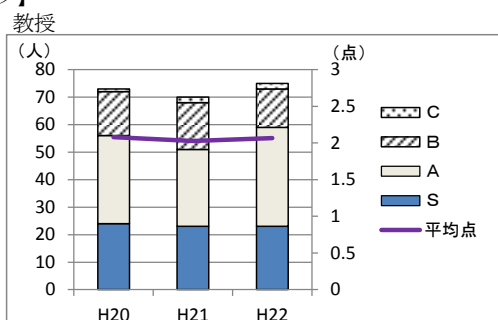
【評価の観点4】: 学術論文等による研究発表活動を活発に行ったか。

S(3点): 非常に活発であった A(2点): 活発であった B(1点): 普通であった C(0点): 活発でなかった

(人)

		工学研究科			機械工学分野			航空宇宙工学分野			海洋システム工学分野			数理工学分野			電子物理工学分野		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	24	23	23	4	4	2	0	1	0	3	2	3	1	1	0	3	2	2
	准教授・講師	10	16	16	1	4	5	0	0	0	2	2	2	2	2	1	0	0	0
	助教・助手	15	10	11	3	1	1	1	1	0	1	1	2	0	0	0	1	0	1
A	教授	32	28	36	7	6	9	3	2	4	1	0	0	1	1	3	3	3	4
	准教授・講師	31	28	27	2	4	3	3	2	2	1	1	1	3	4	6	4	4	4
	助教・助手	29	21	23	2	4	3	3	0	0	3	1	1	2	2	1	3	1	4
B	教授	16	17	14	1	2	1	2	2	1	0	2	2	4	3	3	1	2	1
	准教授・講師	24	19	23	3	1	1	3	3	2	1	1	2	2	0	0	2	2	3
	助教・助手	16	14	13	6	3	4	2	1	3	1	1	0	1	0	0	1	4	1
C	教授	1	2	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	1	0	0	0
	准教授・講師	4	9	4	0	1	0	0	1	1	0	1	0	2	2	2	0	1	0
	助教・助手	2	6	4	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	2	1	1	1	0
平均点	教授	2.1	2.0	2.1	2.3	2.2	2.1	1.6	1.8	1.5	2.2	2.0	2.2	1.5	1.1	1.3	2.3	2.0	2.1
	准教授・講師	1.7	1.7	1.8	1.7	2.1	2.4	1.5	1.2	1.2	2.2	1.8	2.0	1.6	1.8	1.7	1.7	1.3	1.6
	助教・助手	1.9	1.7	1.8	1.7	1.6	1.6	1.8	1.3	0.8	2.0	2.0	2.7	1.3	1.0	1.0	1.7	1.0	2.0
		電気情報システム工学分野			知能情報工学分野			応用化学分野			化学工学分野			マテリアル工学分野					
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	1	1	3	3	3	4	5	3	4	2	3	2	2	2	3	3	3	3
	准教授・講師	0	1	1	0	0	0	0	4	4	4	1	2	2	2	0	1	1	1
	助教・助手	1	1	2	2	2	2	4	4	3	1	0	0	1	0	0	1	0	0
A	教授	5	5	2	3	2	4	3	4	6	3	2	2	3	3	2	3	3	2
	准教授・講師	1	1	2	3	4	2	5	3	2	4	2	1	4	4	4	4	4	4
	助教・助手	3	3	4	4	4	4	4	2	3	1	1	0	4	3	3	3	3	3
B	教授	1	0	1	2	3	0	2	1	0	0	0	2	3	2	3	2	3	3
	准教授・講師	5	4	3	2	2	3	0	1	2	1	1	2	5	4	5	5	4	5
	助教・助手	1	0	0	1	1	0	0	1	2	3	3	3	0	0	0	0	0	0
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	1	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0
平均点	教授	2.0	2.2	2.3	2.1	2.0	2.5	2.3	2.3	2.4	2.4	2.6	2.0	1.9	2.1	2.0	1.9	2.1	2.0
	准教授・講師	1.0	1.5	1.7	1.3	1.4	1.2	2.4	2.1	2.3	2.0	2.2	2.0	1.4	1.5	1.6	1.4	1.5	1.6
	助教・助手	2.0	2.3	2.3	2.1	2.1	2.3	2.5	2.1	1.9	1.6	1.3	0.8	2.2	2.0	2.0	2.2	2.0	2.0

【グラフ】



【特記事項】

特になし

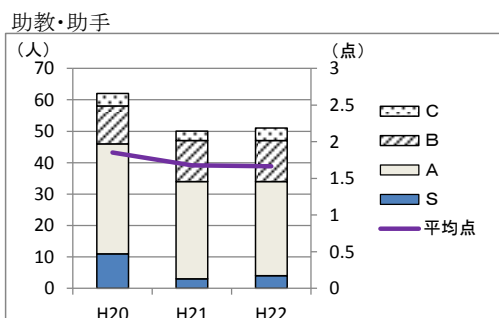
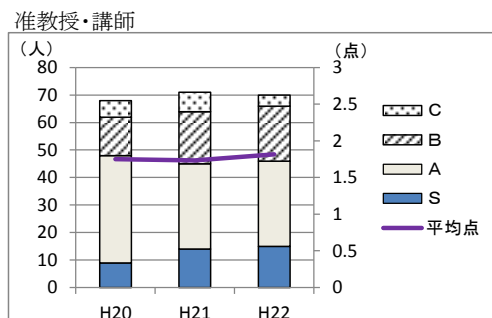
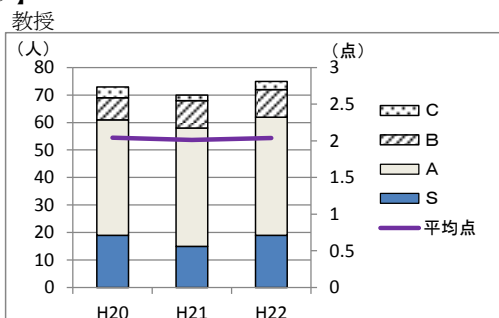
【評価の観点5】: 学術論文等により、質の高い研究発表活動がなされたか。

S(3点): 特段に高い質が確保された A(2点): 高い質が確保された B(1点): 普通であった C(0点): 不十分であった

(人)

		工学研究科			機械工学分野			航空宇宙工学分野			海洋システム工学分野			数理工学分野			電子物理工学分野		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	19	15	19	2	3	3	1	1	1	2	0	1	0	0	0	2	2	2
	准教授・講師	9	14	15	0	3	4	0	0	0	1	2	2	2	2	1	0	0	0
	助教・助手	11	3	4	3	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
A	教授	42	43	43	10	8	9	2	2	3	2	2	2	3	4	4	3	4	4
	准教授・講師	39	31	31	5	4	4	4	3	2	4	1	2	5	5	6	4	5	5
	助教・助手	35	31	30	4	5	4	4	2	2	4	2	3	2	2	0	3	4	5
B	教授	8	10	10	0	1	0	1	2	1	0	2	2	3	3	2	2	1	1
	准教授・講師	14	19	20	1	2	1	1	2	2	0	2	1	0	0	0	2	0	2
	助教・助手	12	13	13	4	3	4	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	2	0
C	教授	4	2	3	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0
	准教授・講師	6	7	4	0	1	0	0	1	1	0	0	0	2	1	2	0	1	0
	助教・助手	4	3	4	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	2	0	0
平均点	教授	2.0	2.0	2.0	2.2	2.2	2.3	1.6	1.8	1.7	2.0	1.5	1.8	1.5	1.6	1.4	2.0	2.1	2.1
	准教授・講師	1.8	1.7	1.8	1.8	1.9	2.3	1.8	1.3	1.2	2.2	2.0	2.2	1.8	2.0	1.7	1.7	1.7	1.7
	助教・助手	1.9	1.7	1.7	1.9	1.4	1.5	2.0	2.0	1.3	2.2	1.7	2.0	1.3	1.3	0.5	1.2	1.7	2.2
					電気情報システム工学分野			知能情報工学分野			応用化学分野			化学工学分野			マテリアル工学分野		
					H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授				1	1	2	3	3	3	4	1	4	2	2	1	2	2	2
	准教授・講師				0	0	1	0	1	0	4	5	4	1	1	2	1	0	1
	助教・助手				1	0	0	1	0	1	3	3	2	0	0	0	1	0	0
A	教授				6	5	3	3	4	4	6	6	6	3	3	4	4	5	4
	准教授・講師				4	3	4	3	3	2	4	2	2	3	3	1	3	2	3
	助教・助手				3	3	6	4	5	4	5	4	4	2	1	0	4	3	2
B	教授				0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	1
	准教授・講師				3	3	1	2	2	3	0	1	2	1	0	2	4	7	6
	助教・助手				1	1	0	2	1	1	0	1	2	2	3	3	0	0	1
C	教授				0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	准教授・講師				0	0	0	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	0	0
	助教・助手				0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0
平均点	教授				2.1	2.2	2.2	2.0	2.1	2.3	2.4	2.0	2.4	2.4	2.4	2.0	1.9	2.0	1.9
	准教授・講師				1.6	1.5	2.0	1.3	1.6	1.2	2.2	2.2	2.3	1.7	1.8	2.0	1.4	1.2	1.5
	助教・助手				2.0	1.8	2.0	1.9	1.6	2.0	2.4	2.3	1.8	1.2	1.3	0.8	2.2	2.0	1.7

【グラフ】



【特記事項】

特になし

(2) 学会等における研究発表活動

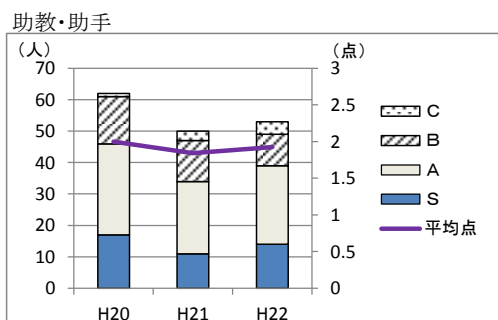
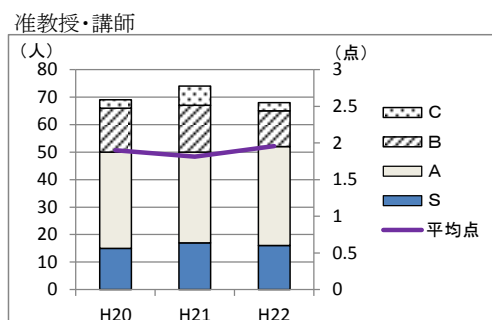
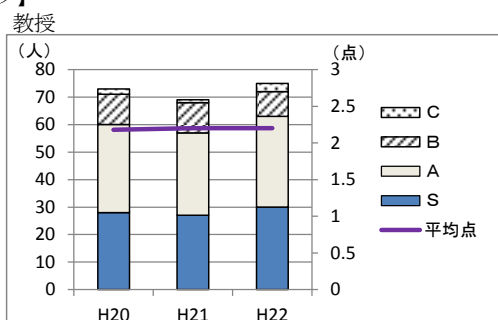
【評価の観点6】: 学術講演、学会発表による研究発表活動を活発に行ったか。

S(3点): 非常に活発であった A(2点): 活発であった B(1点): 普通であった C(0点): 活発でなかった

(人)

		工学研究科			機械工学分野			航空宇宙工学分野			海洋システム工学分野			数理工学分野			電子物理工学分野		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	28	27	30	4	5	4	1	1	1	3	2	3	1	1	1	4	4	4
	准教授・講師	15	17	16	1	4	3	0	0	0	1	0	0	4	3	1	0	0	0
	助教・助手	17	11	14	4	1	3	1	0	0	0	1	2	1	0	1	2	1	2
A	教授	32	30	33	8	5	6	4	4	4	1	1	1	0	2	3	1	1	2
	准教授・講師	35	33	36	4	4	6	3	3	2	2	4	3	3	3	4	6	5	6
	助教・助手	29	23	25	3	5	2	3	1	1	4	2	1	0	1	1	4	4	4
B	教授	11	11	9	0	2	2	0	0	0	1	1	1	3	2	1	2	2	1
	准教授・講師	16	17	13	1	1	0	3	2	3	2	0	2	1	3	2	0	1	1
	助教・助手	15	13	10	4	3	2	2	1	2	1	0	0	2	1	1	0	1	0
C	教授	2	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	2	0	0	0
	准教授・講師	3	7	3	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0
	助教・助手	1	3	4	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0
平均点	教授	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	1.8	2.4	2.3	2.4	1.0	1.5	1.4	2.3	2.3	2.4
	准教授・講師	1.9	1.8	2.0	2.0	2.1	2.3	1.5	1.3	1.4	1.8	1.6	1.6	2.1	1.8	1.6	2.0	1.8	1.9
	助教・助手	2.0	1.8	1.9	2.0	1.8	1.9	1.8	1.0	1.0	1.8	2.3	2.7	1.3	1.0	2.0	2.3	2.0	2.3
		電気情報システム工学分野			知能情報工学分野			応用化学分野			化学工学分野			マテリアル工学分野					
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	2	2	2	2	4	4	5	4	2	5	2	2	2	3	4	3		
	准教授・講師	0	1	2	0	0	0	1	5	5	6	2	1	1	2	3	2		
	助教・助手	0	0	1	2	3	1	6	4	3	1	1	1	0	0	0			
A	教授	4	4	4	4	3	3	5	5	5	2	3	3	3	2	2			
	准教授・講師	3	1	2	4	5	3	3	1	0	3	2	4	4	5	6			
	助教・助手	3	2	4	4	2	5	2	1	4	1	2	1	5	3	2			
B	教授	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1	2	3		
	准教授・講師	3	4	2	1	1	0	1	1	1	1	2	0	3	2	2			
	助教・助手	2	2	1	1	2	0	0	0	2	2	3	1	1	0	0	1		
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	准教授・講師	1	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0			
	助教・助手	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0			
平均点	教授	2.1	2.3	2.3	2.5	2.4	2.6	2.3	2.1	2.5	2.2	2.4	2.2	2.1	2.3	2.0			
	准教授・講師	1.3	1.5	2.0	1.5	1.6	1.8	2.4	2.0	2.4	2.2	1.8	2.2	1.9	2.1	2.0			
	助教・助手	1.6	1.5	2.0	2.1	2.1	1.9	2.8	2.0	2.1	1.6	2.0	1.5	2.0	2.0	1.7			

【グラフ】



【特記事項】

特になし

(3)競争的資金の申請・獲得状況

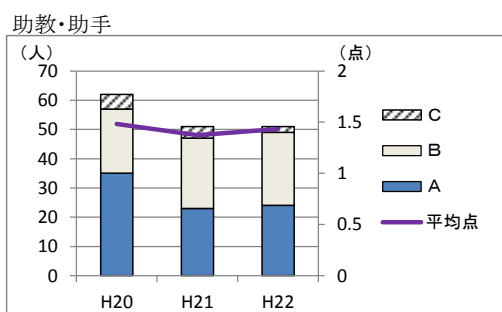
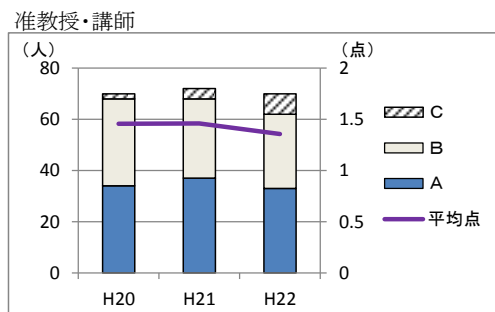
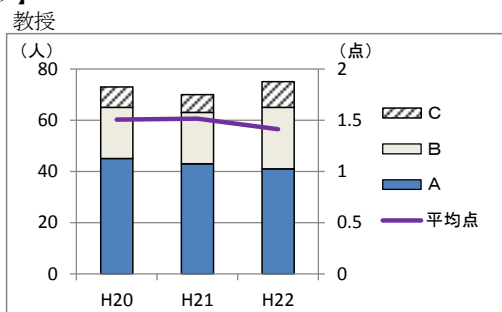
【評価の観点7】:競争的資金獲得のため、代表者として積極的に申請したか。

A(2点):積極的に申請した B(1点):申請した C(0点):申請しなかった

(人)

		工学研究科			機械工学分野			航空宇宙工学分野			海洋システム工学分野			数理工学分野			電子物理工学分野		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授	45	43	41	6	6	5	4	4	4	4	3	3	2	1	0	5	5	5
	准教授・講師	34	37	33	4	7	4	1	3	2	3	4	3	4	3	3	1	1	4
	助教・助手	35	23	24	7	2	3	2	1	1	5	1	1	1	2	0	3	1	
B	教授	20	20	24	5	5	6	1	1	2	1	1	1	2	4	3	1	2	2
	准教授・講師	34	31	29	3	3	3	5	2	2	2	1	2	4	3	4	5	4	3
	助教・助手	22	24	25	4	6	5	4	2	2	0	1	2	1	1	1	2	5	2
C	教授	8	7	10	1	1	1	0	0	0	0	0	1	2	2	4	1	0	0
	准教授・講師	2	4	8	0	0	2	0	1	1	0	0	0	1	2	2	0	1	0
	助教・助手	5	4	2	0	1	0	0	0	1	0	1	0	2	1	1	1	0	0
平均点	教授	1.5	1.5	1.4	1.4	1.4	1.3	1.8	1.8	1.7	1.8	1.8	1.4	1.0	0.9	0.4	1.6	1.7	1.7
	准教授・講師	1.5	1.5	1.4	1.6	1.7	1.2	1.2	1.3	1.2	1.6	1.8	1.6	1.3	1.1	1.1	1.2	1.0	1.6
	助教・助手	1.5	1.4	1.4	1.6	1.1	1.4	1.3	1.3	1.0	2.0	1.0	1.3	0.8	1.3	0.5	1.3	1.2	1.7
					電気情報システム工学分野			知能情報工学分野			応用化学分野			化学工学分野			マテリアル工学分野		
					H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授				3	3	3	6	5	4	8	6	9	3	5	4	4	5	4
	准教授・講師				3	1	1	1	2	2	7	8	7	5	4	4	5	4	3
	助教・助手				2	2	2	3	4	4	7	5	6	1	2	1	4	3	2
B	教授				3	3	1	1	1	3	1	1	1	2	0	2	3	2	3
	准教授・講師				3	5	4	5	5	2	2	1	1	1	1	1	4	6	7
	助教・助手				2	2	4	4	3	2	1	2	3	3	2	3	1	0	1
C	教授				1	0	2	1	2	1	1	1	0	0	0	0	1	1	1
	准教授・講師				1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手				1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
平均点	教授				1.3	1.5	1.2	1.6	1.4	1.4	1.7	1.6	1.9	1.6	2.0	1.7	1.4	1.5	1.4
	准教授・講師				1.3	1.2	1.0	1.2	1.3	1.0	1.8	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.6	1.4	1.3
	助教・助手				1.2	1.5	1.3	1.4	1.6	1.7	1.9	1.5	1.7	1.0	1.5	1.3	1.8	2.0	1.7

【グラフ】



【特記事項】

特になし

【評価の観点8】:競争的資金の申請を行った結果、採択されたか。

注1. 競争的資金とは、科研費、国プロジェクト、NEDO、JSTなど、公募によるものをいう。

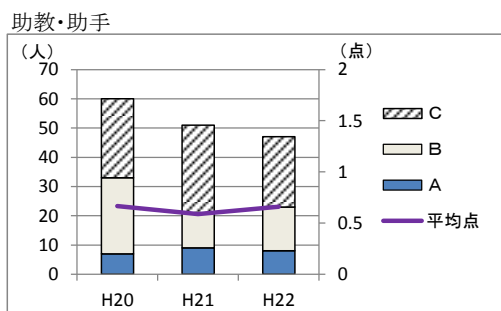
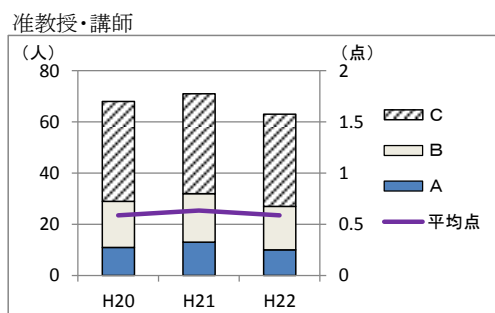
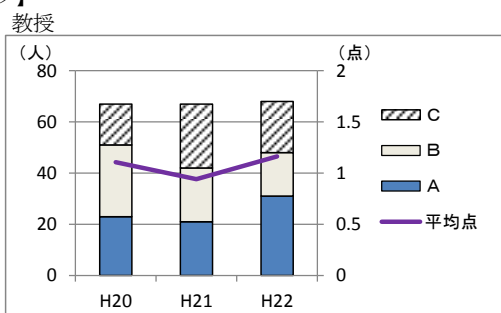
注2. 申請とは、新規申請のことをいう。

A(2点):複数採択された B(1点):採択された C(0点):採択されなかった

(人)

		工学研究科			機械工学分野			航空宇宙工学分野			海洋システム工学分野			数理工学分野			電子物理工学分野		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授	23	21	31	1	2	3	1	0	1	3	0	0	0	0	0	3	4	6
	准教授・講師	11	13	10	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	1	0	0	1	1
	助教・助手	7	9	8	1	0	1	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	
B	教授	28	21	17	8	6	6	2	2	1	1	3	3	1	2	1	3	2	0
	准教授・講師	18	19	17	2	2	3	0	1	2	1	0	0	2	2	2	3	1	2
	助教・助手	26	12	15	3	4	2	3	0	2	1	0	0	1	1	0	5	0	1
C	教授	16	25	20	2	3	2	2	3	4	1	1	2	3	4	3	0	1	1
	准教授・講師	39	39	36	5	8	4	6	5	3	3	3	3	7	4	5	3	4	4
	助教・助手	27	30	24	7	5	5	3	3	1	2	2	2	2	3	2	1	6	3
平均点	教授	1.1	0.9	1.2	0.9	0.9	1.1	0.8	0.4	0.5	1.4	0.8	0.6	0.3	0.3	0.3	1.5	1.4	1.7
	准教授・講師	0.6	0.6	0.6	0.3	0.2	0.4	0.0	0.2	0.4	0.6	0.8	0.8	0.2	0.6	0.3	0.5	0.5	0.6
	助教・助手	0.7	0.6	0.7	0.5	0.4	0.5	0.5	0.0	0.7	1.0	0.7	0.7	0.3	0.3	0.0	0.8	0.0	0.6
					電気情報システム工学分野			知能情報工学分野			応用化学分野			化学工学分野			マテリアル工学分野		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授				2	0	3	4	3	2	3	3	8	2	4	4	4	5	4
	准教授・講師				1	1	1	0	1	1	2	4	2	3	1	1	4	2	2
	助教・助手				1	1	0	2	2	1	1	3	3	0	2	0	0	0	1
B	教授				2	1	1	3	1	2	4	3	0	2	0	0	2	1	3
	准教授・講師				2	2	1	1	2	1	3	2	1	2	2	2	2	5	3
	助教・助手				2	1	3	1	0	2	5	3	1	1	2	4	4	1	0
C	教授				2	5	0	1	3	4	2	2	2	1	1	1	2	2	1
	准教授・講師				3	3	3	5	4	2	4	3	5	0	2	2	3	3	5
	助教・助手				2	2	1	4	5	3	2	2	5	3	0	0	1	2	2
平均点	教授				1.0	0.2	1.8	1.4	1.0	0.8	1.1	1.1	1.6	1.2	1.6	1.6	1.3	1.4	1.4
	准教授・講師				0.7	0.7	0.6	0.2	0.6	0.8	0.8	1.1	0.6	1.6	0.8	0.8	1.1	0.9	0.7
	助教・助手				0.8	0.8	0.8	0.7	0.6	0.7	0.9	1.1	0.8	0.3	1.5	1.0	0.8	0.3	0.7

【グラフ】



【特記事項】

特になし

【研究活動についての分析結果】

研究活動については、概ね活発に行っている状況だが、分野によっては明らかに研究活動の活性が低下しているところがあり、その原因を調べる必要がある。

3. 社会貢献活動

(1) 府等の委員会への参画活動

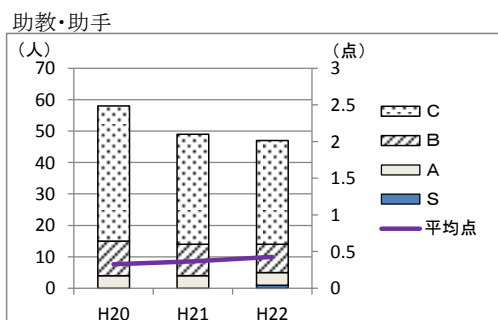
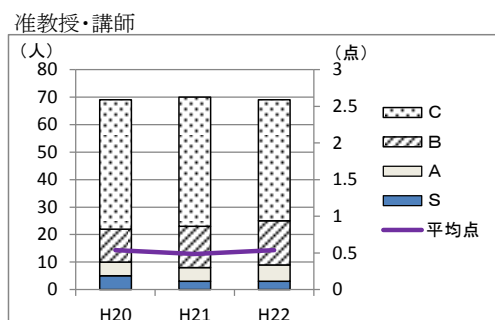
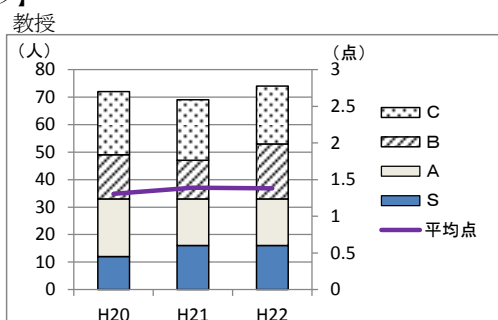
【評価の観点9】: 国・府・市町村等の委員会への参画により、行政課題に対応した研究・提言を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		工学研究科			機械工学分野			航空宇宙工学分野			海洋システム工学分野			数理工学分野			電子物理工学分野		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	12	16	16	2	4	4	0	1	1	1	0	3	0	0	0	2	2	2
	准教授・講師	5	3	3	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
A	教授	21	17	17	3	2	2	2	2	3	3	2	0	0	0	0	3	2	3
	准教授・講師	5	5	6	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	4	4	4	1	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1
B	教授	16	14	20	3	3	4	3	2	1	0	1	0	0	0	0	1	1	1
	准教授・講師	12	15	16	2	3	3	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	11	10	9	2	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1
C	教授	23	22	21	4	3	2	0	0	1	1	1	2	6	7	7	1	2	1
	准教授・講師	47	47	44	4	6	6	5	4	4	3	3	2	9	8	9	6	6	7
	助教・助手	43	35	33	8	8	5	5	2	2	4	1	1	3	3	2	4	5	4
平均点	教授	1.3	1.4	1.4	1.3	1.6	1.7	1.4	1.8	1.7	1.8	1.3	1.8	0.0	0.0	0.0	1.9	1.6	1.9
	准教授・講師	0.5	0.5	0.5	0.3	0.6	0.3	0.2	0.2	0.2	0.8	0.8	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	助教・助手	0.3	0.4	0.4	0.4	0.1	0.5	0.0	0.0	0.7	0.4	1.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.5
		電気情報システム工学分野			知能情報工学分野			応用化学分野			化学工学分野			マテリアル工学分野					
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	0	0	1	0	0	2	1	3	2	1	2	1	1	2	4	2	2	2
	准教授・講師	1	1	2	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A	教授	1	1	1	4	0	1	2	4	4	1	3	2	2	1	1	1	1	1
	准教授・講師	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	1	0	2	2	2	2	2	2
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1
B	教授	3	3	3	0	1	2	2	1	3	1	0	2	3	2	4	2	3	4
	准教授・講師	2	3	2	1	1	1	3	4	3	0	0	2	2	2	3	4	4	4
	助教・助手	0	0	0	1	2	1	4	4	3	0	1	1	2	1	1	1	1	1
C	教授	3	2	1	4	5	4	3	1	2	0	0	0	1	1	1	1	1	1
	准教授・講師	4	2	2	4	6	5	4	4	3	4	4	3	4	4	3	4	4	3
	助教・助手	5	4	6	5	5	4	4	4	6	4	2	2	1	1	1	1	1	1
平均点	教授	0.7	0.8	1.3	1.0	0.9	0.9	1.5	1.9	1.4	2.3	2.3	1.8	1.6	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5
	准教授・講師	0.7	1.0	1.3	0.5	0.1	0.2	0.9	0.8	1.0	0.8	0.4	0.4	1.0	0.8	0.9	0.9	0.9	0.9
	助教・助手	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.2	0.5	0.5	0.3	0.4	0.8	0.3	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

【グラフ】



【特記事項】

特になし

(2) 地域に密着した学習支援活動

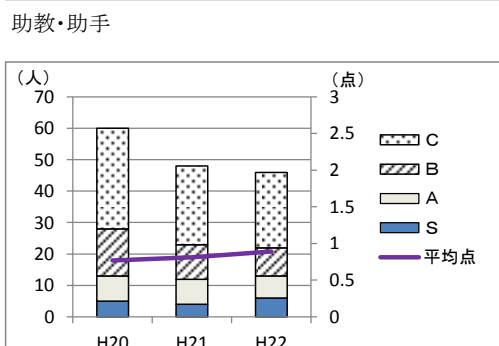
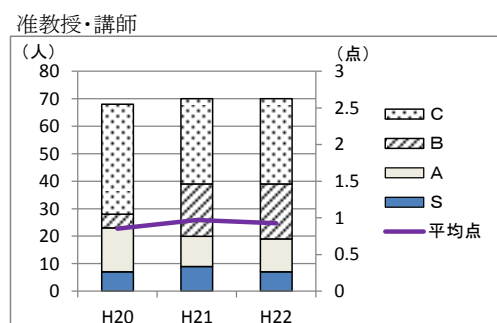
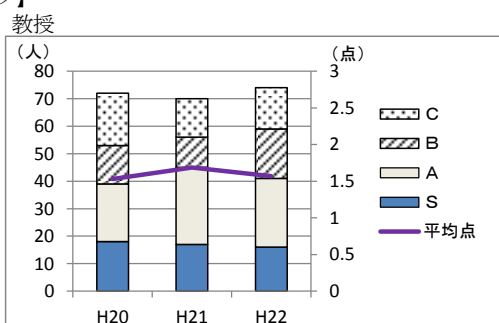
【評価の観点10】: 社会人向けの公開講座、高大連携講座等を通じて、地域に密着した学習支援活動を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的にを行った A(2点): 積極的にを行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		工学研究科			機械工学分野			航空宇宙工学分野			海洋システム工学分野			数理工学分野			電子物理工学分野		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	18	17	16	1	2	2	3	3	4	0	0	2	0	0	1	2	2	1
	准教授・講師	7	9	7	0	1	1	0	0	0	2	3	2	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	5	4	6	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	1	0
A	教授	21	28	25	6	6	6	1	2	2	2	2	1	0	1	0	1	3	3
	准教授・講師	16	11	12	2	4	1	2	1	1	1	1	2	0	0	1	3	1	1
	助教・助手	8	8	7	1	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	2	2	3
B	教授	14	11	18	5	3	4	1	0	0	1	2	1	0	1	1	2	1	2
	准教授・講師	5	19	20	0	1	2	0	2	2	0	0	0	0	3	2	0	2	0
	助教・助手	15	11	9	2	2	1	2	1	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0
C	教授	19	14	15	0	1	0	0	0	0	2	0	1	6	5	5	2	1	1
	准教授・講師	40	31	31	4	4	5	3	2	3	2	1	1	9	5	6	3	3	6
	助教・助手	32	25	24	8	6	6	3	1	2	1	1	1	2	2	1	3	3	3
平均点	教授	1.5	1.7	1.6	1.7	1.8	1.8	2.4	2.6	2.7	1.0	1.5	1.8	0.0	0.4	0.6	1.4	1.9	1.6
	准教授・講師	0.9	1.0	0.9	0.7	1.2	0.8	0.8	0.8	0.7	1.6	2.2	2.0	0.0	0.4	0.4	1.0	0.7	0.3
	助教・助手	0.8	0.8	0.9	0.4	0.4	0.5	0.4	0.5	0.0	1.6	1.7	1.5	0.3	0.3	1.5	0.8	1.2	1.0
				電気情報システム工学分野			知能情報工学分野			応用化学分野			化学工学分野			マテリアル工学分野			
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	1	1	1	1	1	0	0	5	2	2	2	2	2	1	3	5	2	
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	3	4	3	0	0	0	2	1	1		
	助教・助手	1	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	1	1	0	0		
A	教授	1	2	1	2	2	3	5	5	3	1	2	2	2	3	4			
	准教授・講師	1	0	1	3	2	2	1	1	0	2	1	1	1	0	2			
	助教・助手	0	1	1	0	0	1	1	1	1	2	2	1	0	0	0			
B	教授	0	0	1	1	2	1	0	1	4	1	1	2	3	0	2			
	准教授・講師	1	3	4	0	1	2	1	1	3	0	1	0	3	5	5			
	助教・助手	0	0	1	2	3	0	4	2	4	0	0	0	2	2	3			
C	教授	5	3	3	4	4	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0			
	准教授・講師	5	3	1	3	4	2	4	3	2	4	3	3	3	3	2			
	助教・助手	4	3	4	5	4	4	1	2	2	3	2	1	2	1	0			
平均点	教授	0.7	1.2	1.0	1.0	0.8	0.9	2.5	2.1	1.6	2.3	2.2	1.8	2.0	2.6	2.0			
	准教授・講師	0.4	0.5	1.0	1.0	0.7	1.0	1.3	1.7	1.5	0.7	0.6	0.5	1.2	0.9	1.2			
	助教・助手	0.6	0.5	0.5	0.3	0.4	0.4	1.5	1.4	1.3	0.8	1.0	1.7	1.0	0.7	1.0			

【グラフ】



【特記事項】

特になし

【社会貢献活動についての分析結果】

社会貢献については、約半数が積極的であった分野と、大半が積極的でなかった分野があり、専門によって状況が異なっている。委員会参画については対策を考える必要がある。

4. 大学運営活動

(1) 各種委員会活動

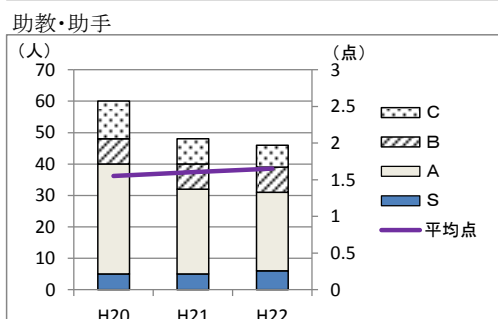
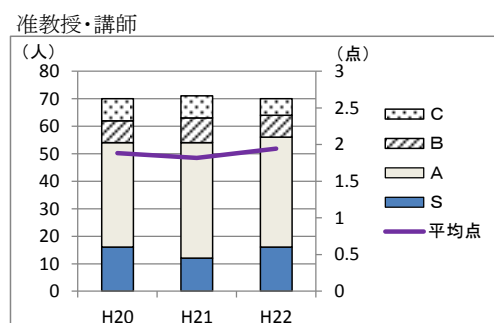
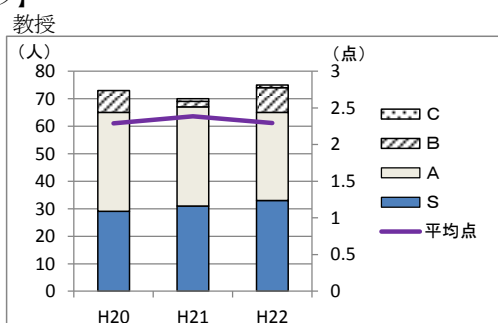
【評価の観点11】：大学、学部等の各種委員会等に参加し、その運営に寄与したか。

S(3点)：十分に寄与した A(2点)：寄与した B(1点)：あまり寄与しなかった C(0点)：寄与しなかった

(人)

		工学研究科			機械工学分野			航空宇宙工学分野			海洋システム工学分野			数理工学分野			電子物理工学分野		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	29	31	33	2	4	5	3	3	4	2	2	3	1	2	2	5	5	5
	准教授・講師	16	12	16	3	2	3	0	0	0	0	1	2	5	3	2	0	0	0
	助教・助手	5	5	6	0	1	0	1	0	0	2	2	2	0	0	1	1	1	1
A	教授	36	36	32	10	8	5	2	2	2	1	2	2	5	4	3	1	2	1
	准教授・講師	38	42	40	2	5	4	5	5	4	4	4	3	4	4	6	5	4	4
	助教・助手	35	27	25	7	5	4	2	2	3	2	1	0	2	3	1	4	2	2
B	教授	8	2	9	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	1	2	1	0	1
	准教授・講師	8	9	8	1	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
	助教・助手	8	8	8	2	1	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	2
C	教授	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	8	8	6	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1
	助教・助手	12	8	7	2	2	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1
平均点	教授	2.3	2.4	2.3	2.2	2.3	2.3	2.6	2.6	2.7	2.0	2.5	2.6	2.2	2.1	2.0	2.6	2.7	2.6
	准教授・講師	1.9	1.8	1.9	2.0	1.8	2.1	1.7	1.7	1.6	1.8	2.2	2.4	2.6	2.1	2.0	1.7	1.5	1.4
	助教・助手	1.6	1.6	1.7	1.5	1.6	1.4	1.4	2.0	2.0	2.0	2.7	3.0	1.7	2.0	2.5	1.8	1.5	1.5
					電気情報システム工学分野			知能情報工学分野			応用化学分野			化学工学分野			マテリアル工学分野		
					H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授				4	3	3	3	3	1	4	3	5	3	2	2	2	4	3
	准教授・講師				0	0	2	1	0	2	5	4	3	1	0	1	1	2	1
	助教・助手				0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0
A	教授				2	3	3	4	4	6	5	5	4	2	3	3	4	3	3
	准教授・講師				6	5	4	2	3	3	3	3	4	4	5	3	3	4	5
	助教・助手				4	4	5	4	3	3	6	4	5	1	2	1	3	1	1
B	教授				1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	2	1	2
	准教授・講師				0	1	0	2	2	0	0	1	1	0	0	0	4	2	3
	助教・助手				1	0	0	1	3	0	1	0	0	1	0	1	1	2	2
C	教授				0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師				1	0	0	1	1	1	1	1	0	1	0	1	1	2	1
	助教・助手				0	0	1	2	1	2	0	2	2	3	2	0	1	0	0
平均点	教授				2.4	2.5	2.5	2.3	2.1	1.9	2.3	2.4	2.4	2.6	2.4	2.2	2.0	2.4	2.1
	准教授・講師				1.7	1.8	2.3	1.5	1.3	2.0	2.3	2.1	2.3	1.8	2.0	1.8	1.4	1.6	1.6
	助教・助手				1.8	2.0	1.7	1.3	1.3	1.2	2.0	1.6	1.8	0.6	1.0	1.5	1.4	1.3	1.3

【グラフ】



【特記事項】

特になし

【大学運営活動についての分析結果】

いずれの分野でも、約70%以上は大学運営に寄与したと考えており、大学や学部における委員会参加機会の配分に問題がないものと考えられる。

第3節 生命環境科学研究科

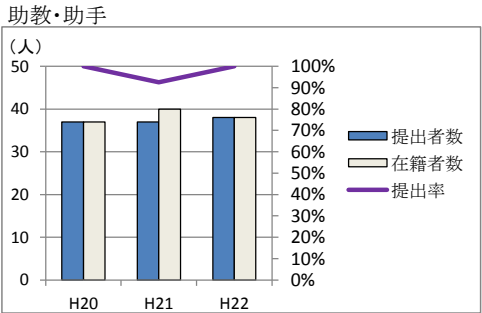
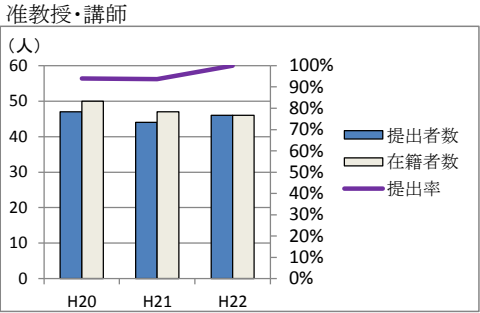
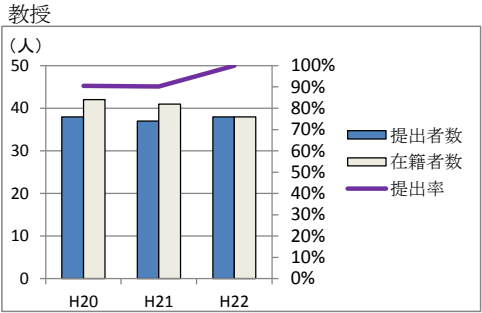
■教員活動自己点検・評価報告書の提出率

(人)

	生命環境科学研究科						応用生命科学専攻						緑地環境科学専攻					
	H20		H21		H22		H20		H21		H22		H20		H21		H22	
	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数
教授	38	42	37	41	38	38	15	17	15	16	14	14	7	7	6	7	6	6
	提出率	90.5%	提出率	90.2%	提出率	100.0%	提出率	88.2%	提出率	93.8%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	85.7%	提出率	100.0%
准教授・講師	47	50	44	47	46	46	20	20	19	19	19	19	9	12	9	11	9	9
	提出率	94.0%	提出率	93.6%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	75.0%	提出率	81.8%	提出率	100.0%
助教・助手	37	37	37	40	38	38	17	17	15	17	16	16	5	5	6	6	6	6
	提出率	100.0%	提出率	92.5%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	88.2%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
合計	122	129	118	128	122	122	52	54	49	52	49	49	21	24	21	24	21	21
	提出率	94.6%	提出率	92.2%	提出率	100.0%	提出率	96.3%	提出率	94.2%	提出率	100.0%	提出率	87.5%	提出率	87.5%	提出率	100.0%

	獣医学専攻					
	H20		H21		H22	
	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数
教授	16	18	16	18	18	18
	提出率	88.9%	提出率	88.9%	提出率	100.0%
准教授・講師	18	18	16	17	18	18
	提出率	100.0%	提出率	94.1%	提出率	100.0%
助教・助手	15	15	16	17	16	16
	提出率	100.0%	提出率	94.1%	提出率	100.0%
合計	49	51	48	52	52	52
	提出率	96.1%	提出率	92.3%	提出率	100.0%

【グラフ】



【教員活動自己点検・評価報告書の提出率についての分析結果】

提出率は高く、特にH22年度は100%で、自己点検評価に前向きであるといえる。

■教員活動自己点検・評価実施基準(全学実施基準)

1. 教育活動

(1) 授業活動

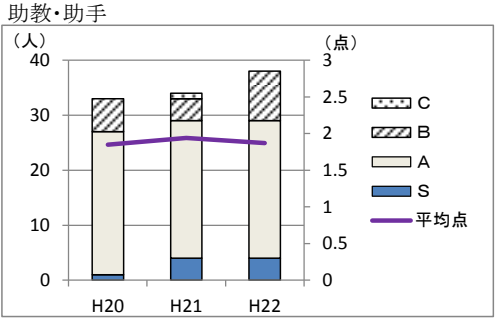
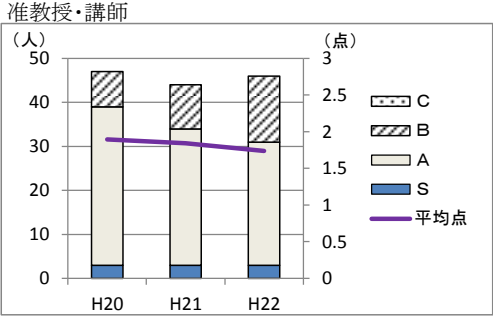
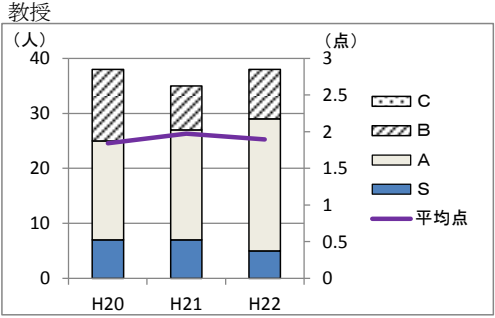
【評価の観点1】: 学部等が掲げる教育目的のもと、個々の授業目標に従って、授業展開を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		生命環境科学研究科			応用生命科学専攻			緑地環境科学専攻			獣医学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	7	7	5	0	2	2	4	3	1	3	2	2
	准教授・講師	3	3	3	0	0	0	2	1	2	1	2	1
	助教・助手	1	4	4	0	3	2	1	1	0	0	0	2
A	教授	18	20	24	5	5	8	3	3	3	10	12	13
	准教授・講師	36	31	28	16	14	10	5	6	4	15	11	14
	助教・助手	26	25	25	11	9	9	1	3	3	14	13	13
B	教授	13	8	9	10	6	4	0	0	2	3	2	3
	准教授・講師	8	10	15	4	5	9	2	2	3	2	3	3
	助教・助手	6	4	9	5	1	5	1	2	3	0	1	1
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	1.8	2.0	1.9	1.3	1.7	1.9	2.6	2.5	1.8	2.0	2.0	1.9
	准教授・講師	1.9	1.8	1.7	1.8	1.7	1.5	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9
	助教・助手	1.8	1.9	1.9	1.7	2.0	1.8	2.0	1.8	1.5	2.0	1.9	2.1

【グラフ】



【特記事項】

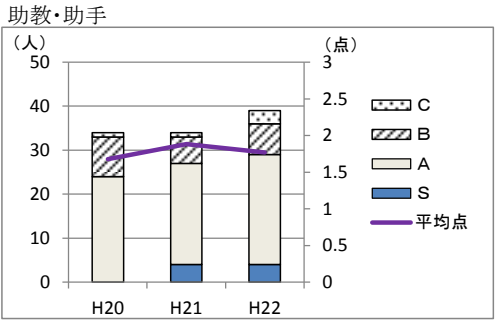
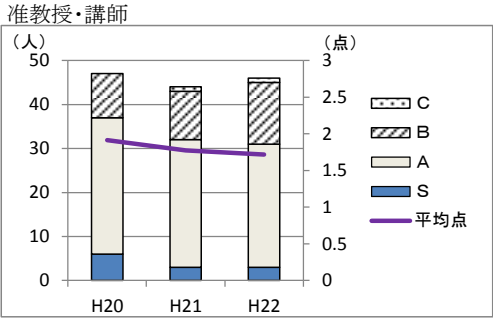
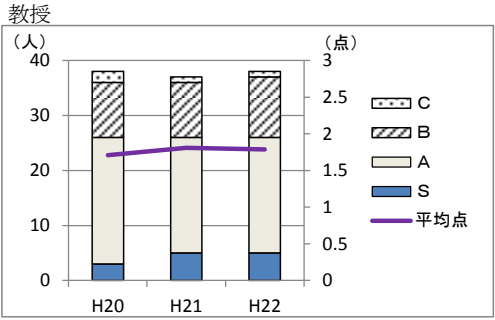
研究科全体としては、職階に関係なく中間値より高い評価であり、積極的に授業展開を行っているといえる。

(2)教育改善活動

【評価の観点2】:学部等が掲げる教育目的に応じた授業内容、教材、教授技術等の改善を積極的に行ったか。
S(3点):非常に積極的に行った A(2点):積極的に行った B(1点):普通であった C(0点):積極的でなかった

		生命環境科学研究科			応用生命科学専攻			緑地環境科学専攻			獣医学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	3	5	5	0	2	2	1	1	1	2	2	2
	准教授・講師	6	3	3	0	0	0	2	1	2	4	2	1
	助教、助手	0	4	4	0	2	2	0	0	0	0	2	2
A	教授	23	21	21	6	6	5	6	4	3	11	11	13
	准教授・講師	31	29	28	15	11	9	6	6	5	10	12	14
	助教、助手	24	23	25	10	8	8	2	5	4	12	10	13
B	教授	10	10	11	7	6	6	0	1	2	3	3	3
	准教授・講師	10	11	14	5	7	9	1	2	2	4	2	3
	助教、助手	9	6	7	7	3	4	1	1	2	1	2	1
C	教授	2	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	助教、助手	1	1	3	0	1	2	0	0	1	1	0	0
平均点	教授	1.7	1.8	1.8	1.3	1.6	1.6	2.1	2.0	1.8	1.9	1.9	1.9
	准教授・講師	1.9	1.8	1.7	1.8	1.5	1.4	2.1	1.9	2.0	2.0	2.0	1.9
	助教、助手	1.7	1.9	1.8	1.6	1.8	1.6	1.7	1.8	1.4	1.8	2.0	2.1

【グラフ】



【特記事項】

研究科全体としては、H20～22を通じて中間値より高い評価点を示している。専攻別にみると、応用生命科学専攻で評価がやや低い傾向にある。

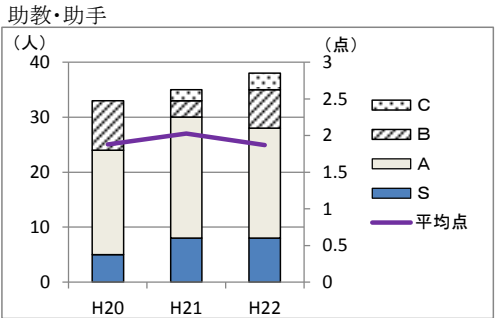
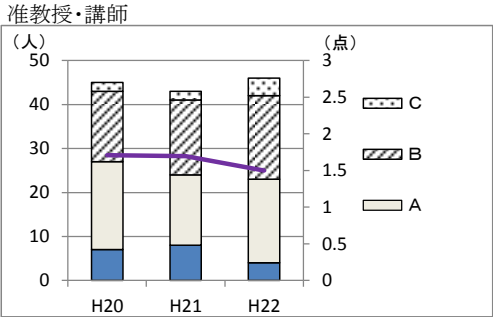
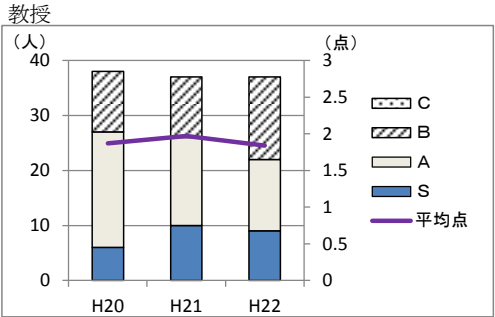
(3) 研究指導活動

【評価の観点3】: 学位取得に向けた指導を積極的に行ったか。(研究指導活動を行わない教員は除く)

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

		生命環境科学研究科			応用生命科学専攻			緑地環境科学専攻			獣医学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	6	10	9	2	3	4	2	3	1	2	4	4
	准教授・講師	7	8	4	2	4	1	4	3	1	1	1	2
	助教、助手	5	8	8	0	4	4	1	0	1	4	4	3
A	教授	21	16	13	7	5	4	5	3	2	9	8	7
	准教授・講師	20	16	19	7	6	9	4	4	5	9	6	5
	助教、助手	19	22	20	10	9	8	4	6	4	5	7	8
B	教授	11	11	15	6	7	6	0	0	3	5	4	6
	准教授・講師	16	17	19	10	9	8	1	2	3	5	6	8
	助教、助手	9	3	7	5	0	4	0	0	0	4	3	3
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	2	2	4	1	0	1	0	0	0	1	2	3
	助教、助手	0	2	3	0	1	0	0	0	1	0	1	2
平均点	教授	1.9	2.0	1.8	1.7	1.7	1.9	2.3	2.5	1.7	1.8	2.0	1.9
	准教授・講師	1.7	1.7	1.5	1.5	1.7	1.5	2.3	2.1	1.8	1.6	1.4	1.3
	助教、助手	1.9	2.0	1.9	1.7	2.1	2.0	2.2	2.0	1.8	2.0	1.9	1.8

【グラフ】



【特記事項】

研究科全体としては、中間値より高い評価を示しているが、職階別にみると、准教授・講師の評価がやや低い傾向にある。

【教育活動についての分析結果】

研究科全体としては、授業活動、教育改善活動、研究指導活動とも中間値より高い評価が示されており、良好であると判断される。

2. 研究活動

(1) 学術論文等による研究発表活動

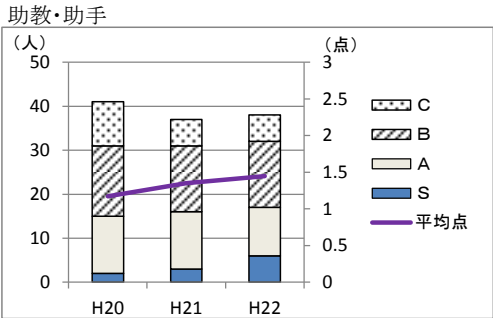
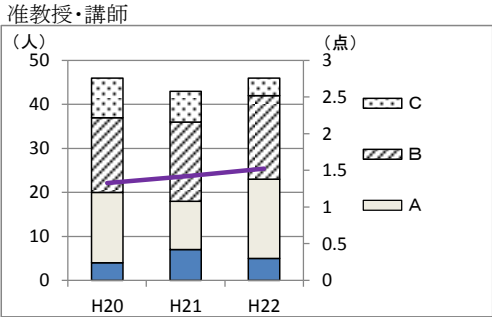
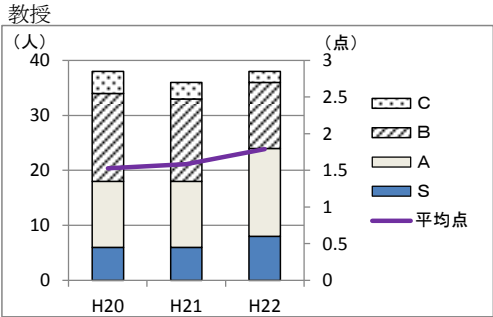
【評価の観点4】: 学術論文等による研究発表活動を活発に行なったか。

S(3点): 非常に活発であった A(2点): 活発であった B(1点): 普通であった C(0点): 活発でなかった

(人)

		生命環境科学研究科			応用生命科学専攻			緑地環境科学専攻			獣医学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	6	6	8	3	3	4	1	1	1	2	2	3
	准教授・講師	4	7	5	2	2	0	2	3	2	0	2	3
	助教、助手	2	3	6	0	2	3	1	0	0	1	1	3
A	教授	12	12	16	3	3	4	6	4	3	3	5	9
	准教授・講師	16	11	18	6	5	6	3	2	4	7	4	8
	助教、助手	13	13	11	6	5	4	2	4	3	5	4	4
B	教授	16	15	12	8	6	5	0	1	2	8	8	5
	准教授・講師	17	18	19	6	8	12	3	3	3	8	7	4
	助教、助手	16	15	15	7	5	5	1	2	3	8	8	7
C	教授	4	3	2	1	2	1	0	0	0	3	1	1
	准教授・講師	9	7	4	6	3	1	1	1	0	2	3	3
	助教、助手	10	6	6	4	3	4	1	0	0	5	3	2
平均点	教授	1.5	1.6	1.8	1.5	1.5	1.8	2.1	2.0	1.8	1.3	1.5	1.8
	准教授・講師	1.3	1.4	1.5	1.2	1.3	1.3	1.7	1.8	1.9	1.3	1.3	1.6
	助教、助手	1.2	1.4	1.4	1.1	1.4	1.4	1.6	1.7	1.5	1.1	1.2	1.5

【グラフ】



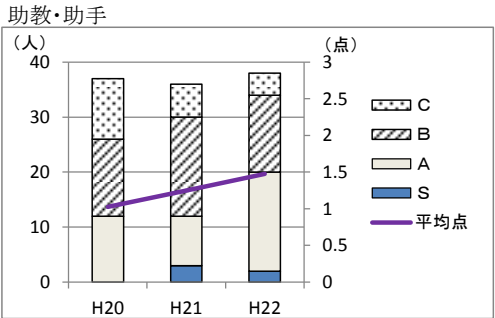
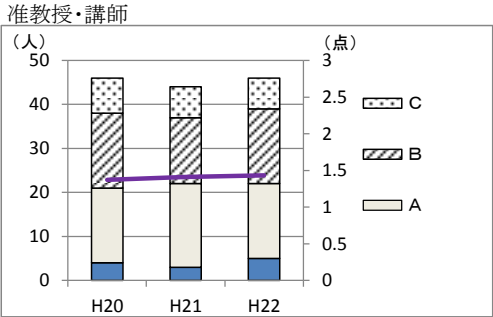
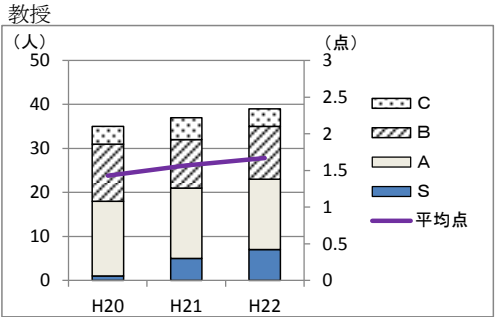
【特記事項】

研究科全体で職階別にみると、教授では中間値より高い評価を示しているが、他の職階では中間値あるいはそれよりやや低い評価を示している。しかし、H20～22の経年変化をみると、いずれの職階も上昇傾向にある。専攻別では、緑地環境科学専攻での評価がやや高い傾向にある。

【評価の観点5】: 学術論文等により、質の高い研究発表活動がなされたか。
S (3点): 特段に高い質が確保された A (2点): 高い質が確保された B (1点): 普通であった C (0点): 不十分であった

		生命環境科学研究科			応用生命科学専攻			緑地環境科学専攻			獣医学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	1	5	7	0	2	3	0	1	1	1	2	3
	准教授・講師	4	3	5	1	1	0	1	1	2	2	1	3
	助教、助手	0	3	2	0	2	1	0	0	0	0	1	1
A	教授	17	16	16	5	3	4	6	4	3	6	9	9
	准教授・講師	17	19	17	7	7	5	4	6	5	6	6	7
	助教、助手	12	9	18	6	3	7	3	3	4	3	3	7
B	教授	13	11	12	7	6	5	1	1	2	5	4	5
	准教授・講師	17	15	17	6	7	10	3	2	2	8	6	5
	助教、助手	14	18	14	7	6	6	1	3	2	6	9	6
C	教授	4	5	4	1	4	2	0	0	1	3	1	1
	准教授・講師	8	7	7	5	4	4	1	0	0	2	3	3
	助教、助手	11	6	4	4	3	2	1	0	0	6	3	2
平均点	教授	1.4	1.6	1.7	1.3	1.2	1.6	1.9	2.0	1.6	1.3	1.8	1.8
	准教授・講師	1.4	1.4	1.4	1.2	1.3	1.1	1.6	1.9	2.0	1.4	1.3	1.6
	助教、助手	1.0	1.3	1.5	1.1	1.3	1.4	1.4	1.5	1.7	0.8	1.1	1.4

【グラフ】



【特記事項】

研究科全体では、中間値前後の評価であるが、H20～22の経年変化をみると、いずれの職階も上昇傾向にある。専攻別での差は少ない傾向にある。

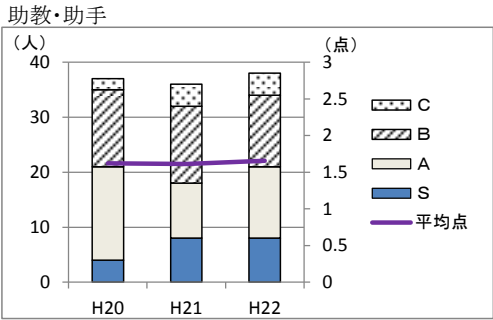
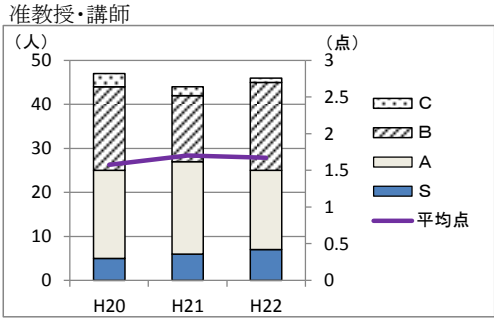
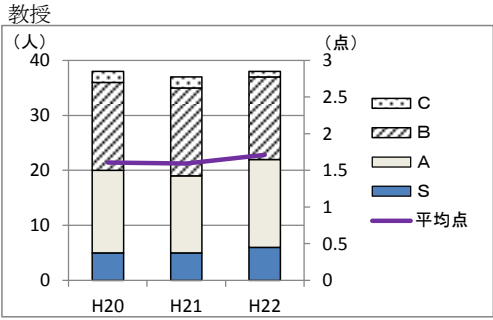
(2) 学会等における研究発表活動

【評価の観点6】: 学術講演、学会発表による研究発表活動を活発に行ったか。

S(3点): 非常に活発であった A(2点): 活発であった B(1点): 普通であった C(0点): 活発でなかった

		生命環境科学研究科			応用生命科学専攻			緑地環境科学専攻			獣医学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	5	5	6	3	1	2	1	1	1	1	3	3
	准教授・講師	5	6	7	1	3	2	1	3	1	3	0	4
	助教、助手	4	8	8	1	1	4	1	3	1	2	4	3
A	教授	15	14	16	5	5	7	3	2	2	7	7	7
	准教授・講師	20	21	18	9	9	7	3	2	5	8	10	6
	助教、助手	17	10	13	10	6	5	2	1	4	5	3	4
B	教授	16	16	15	6	9	5	3	2	3	7	5	7
	准教授・講師	19	15	20	9	6	10	5	4	3	5	5	7
	助教、助手	14	14	13	5	5	5	2	1	1	7	8	7
C	教授	2	2	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1
	准教授・講師	3	2	1	1	1	0	0	0	0	2	1	1
	助教、助手	2	4	4	1	2	2	0	1	0	1	1	2
平均点	教授	1.6	1.6	1.7	1.7	1.5	1.8	1.7	1.5	1.7	1.5	1.8	1.7
	准教授・講師	1.6	1.7	1.7	1.5	1.7	1.6	1.6	1.9	1.8	1.7	1.6	1.7
	助教、助手	1.6	1.6	1.7	1.6	1.4	1.7	1.8	2.0	2.0	1.5	1.6	1.5

【グラフ】



【特記事項】

研究科全体でみると、中間値より高い評価点を示しており、職階別、専攻別でも同様の傾向である。

(3) 競争的資金の申請・獲得状況

【評価の観点7】: 競争的資金獲得のため、代表者として積極的に申請したか。

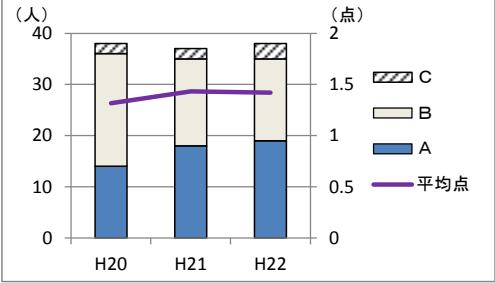
A (2点): 積極的に申請した B (1点): 申請した C (0点): 申請しなかった

(人)

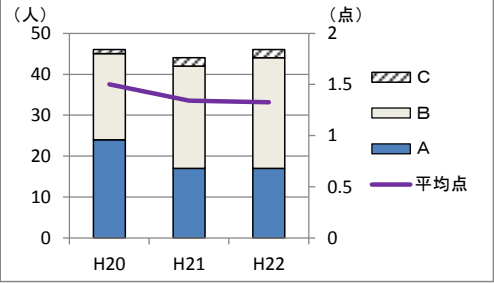
		生命環境科学研究科			応用生命科学専攻			緑地環境科学専攻			獣医学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授	14	18	19	7	8	7	2	2	2	5	8	10
	准教授・講師	24	17	17	10	9	8	3	3	3	11	5	6
	助教・助手	10	15	14	8	6	6	1	3	3	1	6	5
B	教授	22	17	16	8	6	6	5	4	4	9	7	6
	准教授・講師	21	25	27	9	9	10	5	5	6	7	11	11
	助教・助手	23	20	23	8	7	10	4	3	2	11	10	11
C	教授	2	2	3	0	1	1	0	0	0	2	1	2
	准教授・講師	1	2	2	0	1	1	1	1	0	0	0	1
	助教・助手	4	1	1	1	1	0	0	0	1	3	0	0
平均点	教授	1.3	1.4	1.4	1.5	1.5	1.4	1.3	1.3	1.3	1.2	1.4	1.4
	准教授・講師	1.5	1.3	1.3	1.5	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.6	1.3	1.3
	助教・助手	1.2	1.4	1.3	1.4	1.4	1.4	1.2	1.5	1.3	0.9	1.4	1.3

【グラフ】

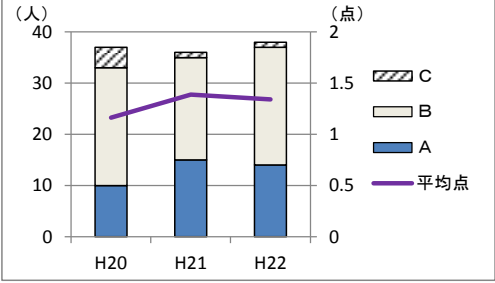
教授



准教授・講師



助教・助手



【特記事項】

研究科全体で見ると、中間値より高い評価点を示している。職階別、専攻別ではさほど差はなく、競争的資金獲得へは、積極的であると判断される。

【評価の観点8】:競争的資金の申請を行った結果、採択されたか。

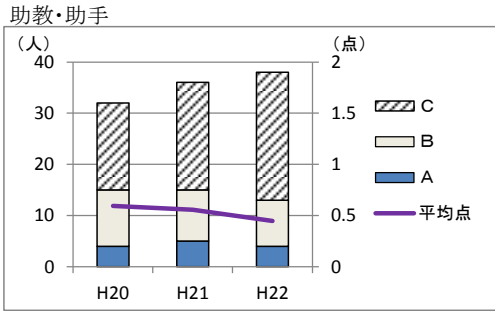
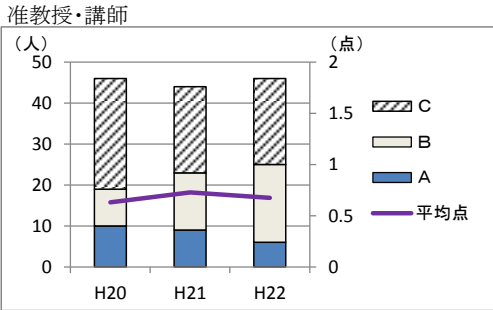
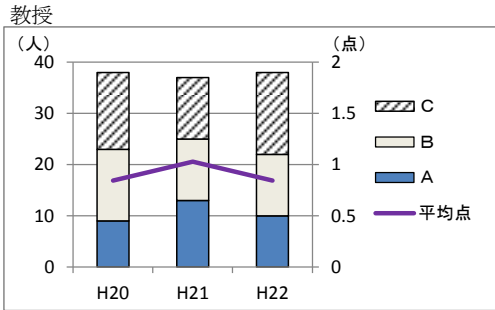
注1. 競争的資金とは、科研費、国プロジェクト、NEDO、JSTなど、公募によるものをいう。

注2. 申請とは、新規申請のことをいう。

A(2点):複数採択された B(1点):採択された C(0点):採択されなかった

		生命環境科学研究科			応用生命科学専攻			緑地環境科学専攻			獣医学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授	9	13	10	4	7	3	2	2	3	3	4	4
	准教授・講師	10	9	6	4	5	2	0	1	2	6	3	2
	助教、助手	4	5	4	3	4	0	0	1	2	1	0	2
B	教授	14	12	12	8	4	5	2	3	2	4	5	5
	准教授・講師	9	14	19	2	5	10	3	4	3	4	5	6
	助教、助手	11	10	9	5	2	6	4	2	0	2	6	3
C	教授	15	12	16	3	4	6	3	1	1	9	7	9
	准教授・講師	27	21	21	13	9	7	6	4	4	8	8	10
	助教、助手	17	21	25	8	8	10	1	3	4	8	10	11
平均点	教授	0.8	1.0	0.8	1.1	1.2	0.8	0.9	1.2	1.3	0.6	0.8	0.7
	准教授・講師	0.6	0.7	0.7	0.5	0.8	0.7	0.3	0.7	0.8	0.9	0.7	0.6
	助教、助手	0.6	0.6	0.4	0.7	0.7	0.4	0.8	0.7	0.7	0.4	0.4	0.4

【グラフ】



【特記事項】

研究科全体としては、中間値より低い評価であり、職階別にみるといずれの専攻でも、教授、准教授・講師、助教・助手の順で評価が高い傾向にある。

【研究活動についての分析結果】

研究科全体でみると、学術論文による研究活動、学会などによる研究活動は、中間値よりも高い評価であり、積極的に取り組んでいるといえる。また、競争的資金の申請・獲得状況に関しては、積極的に取り組んでいるが、獲得状況に職階別でやや差があり、獲得に向けたサポート対策を望まれる。

3. 社会貢献活動

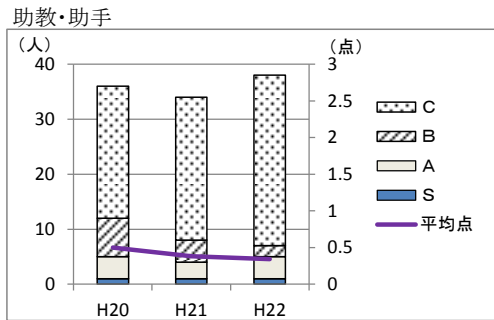
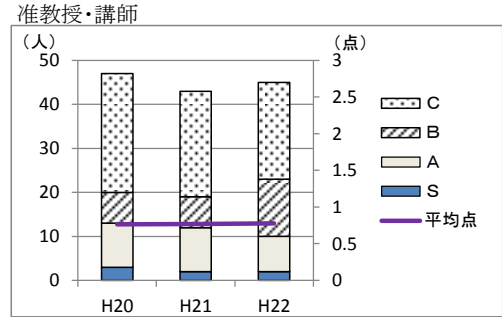
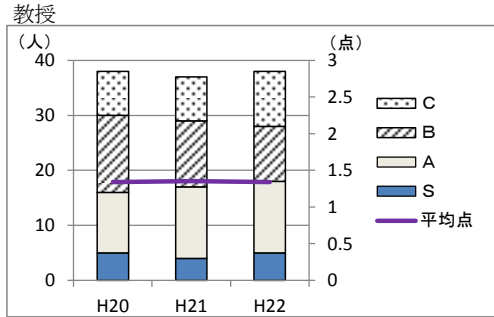
(1) 府等の委員会への参画活動

【評価の観点9】:国・府・市町村等の委員会への参画により、行政課題に対応した研究・提言を積極的に行ったか。

S(3点):非常に積極的に行った A(2点):積極的に行った B(1点):普通であった C(0点):積極的でなかった

		生命環境科学研究科			応用生命科学専攻			緑地環境科学専攻			獣医学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	5	4	5	0	1	1	4	2	2	1	1	2
	准教授・講師	3	2	2	0	0	0	2	2	2	1	0	0
	助教、助手	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1
A	教授	11	13	13	5	4	3	2	3	3	4	6	7
	准教授・講師	10	10	8	5	5	4	1	1	1	4	4	3
	助教、助手	4	3	4	2	0	1	1	1	2	1	2	1
B	教授	14	12	10	7	6	4	1	1	1	6	5	5
	准教授・講師	7	7	13	4	2	5	2	2	3	1	3	5
	助教、助手	7	4	2	2	1	2	2	2	0	3	1	0
C	教授	8	8	10	3	4	6	0	0	0	5	4	4
	准教授・講師	27	24	22	11	11	9	4	4	3	12	9	10
	助教、助手	24	26	31	12	11	13	1	2	4	11	13	14
平均点	教授	1.3	1.4	1.3	1.1	1.1	0.9	2.4	2.2	2.2	1.1	1.3	1.4
	准教授・講師	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	1.1	1.1	1.2	0.7	0.7	0.6
	助教、助手	0.5	0.4	0.3	0.4	0.1	0.3	1.4	1.2	0.7	0.3	0.3	0.3

【グラフ】



【特記事項】

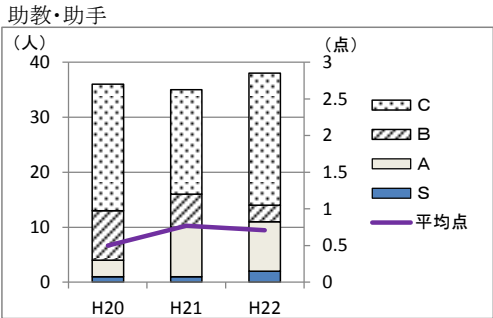
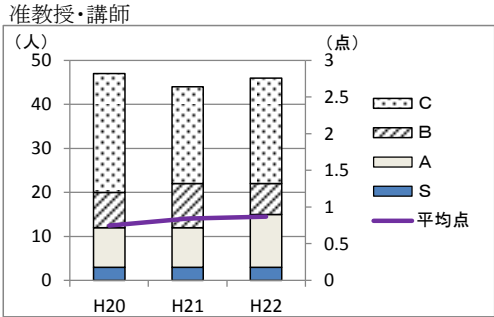
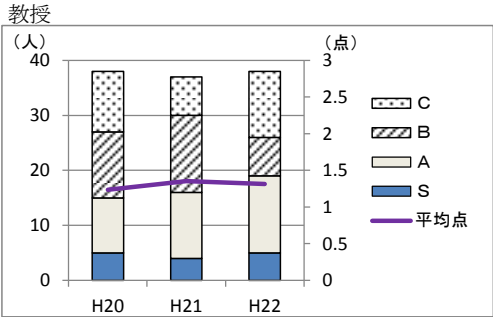
研究科全体としては、中間値より低い評価であり、教授、准教授・講師、助教・助手の順で評価が高くなっている。専攻別にみると、緑地環境科学専攻の教授の評価点が高いの特筆される。

(2) 地域に密着した学習支援活動

【評価の観点10】: 社会人向けの公開講座、高大連携講座等を通じて、地域に密着した学習支援活動を積極的に行ったか。
S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

		生命環境科学研究科			応用生命科学専攻			緑地環境科学専攻			獣医学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	5	4	5	0	2	1	3	2	2	2	0	2
	准教授・講師	3	3	3	0	1	0	2	2	2	1	0	1
	助教、助手	1	1	2	1	0	1	0	0	1	0	1	0
A	教授	10	12	14	5	4	5	1	2	2	4	6	7
	准教授・講師	9	9	12	6	3	6	1	1	2	2	5	4
	助教、助手	3	9	9	1	3	5	1	3	2	1	3	2
B	教授	12	14	7	6	6	4	3	2	1	3	6	2
	准教授・講師	8	10	7	3	5	5	3	5	2	2	0	0
	助教、助手	9	6	3	6	3	2	1	1	0	2	2	1
C	教授	11	7	12	4	3	4	0	0	1	7	4	7
	准教授・講師	27	22	24	11	10	8	3	1	3	13	11	13
	助教、助手	23	19	24	8	7	8	3	2	3	12	10	13
平均点	教授	1.2	1.4	1.3	1.1	1.3	1.2	2.0	2.0	1.8	1.1	1.1	1.2
	准教授・講師	0.7	0.8	0.9	0.8	0.7	0.9	1.2	1.4	1.3	0.5	0.6	0.6
	助教、助手	0.5	0.8	0.7	0.7	0.7	0.9	0.6	1.2	1.2	0.3	0.7	0.3

【グラフ】



【特記事項】

研究科全体としては、中間値よりやや低い評価であり、職階別でみると、教授が相対的に高い評価となっている。教授層について専攻別でみると、緑地環境科学専攻での評価が高い傾向にある。

【社会貢献活動についての分析結果】

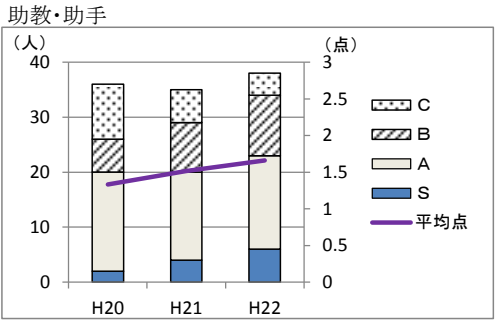
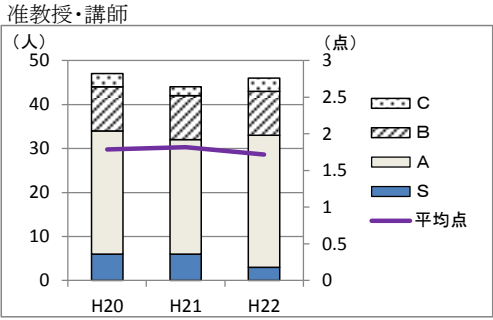
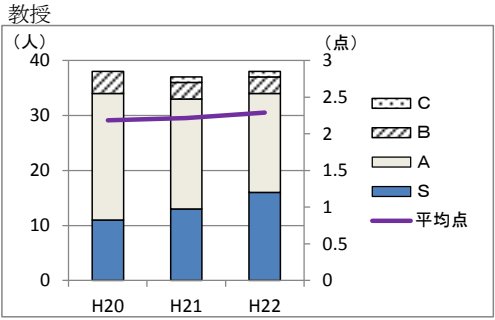
研究科全体としては、中間値より低い評価であるものの、一定程度の社会貢献はなされていると判断される。専攻別にみると、行政課題との関連性が高い緑地環境科学専攻での評価の高さが特筆される。

4. 大学運営活動
(1) 各種委員会活動

【評価の観点11】: 大学、学部等の各種委員会等に参画し、その運営に寄与したか。
S(3点): 十分に寄与した A(2点): 寄与した B(1点): あまり寄与しなかった C(0点): 寄与しなかった

		生命環境科学研究科			応用生命科学専攻			緑地環境科学専攻			獣医学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	11	13	16	2	4	6	2	3	2	7	6	8
	准教授・講師	6	6	3	1	4	0	2	1	2	3	1	1
	助教、助手	2	4	6	1	3	3	0	0	0	1	1	3
A	教授	23	20	18	10	10	7	5	3	4	8	7	7
	准教授・講師	28	26	30	13	9	14	5	6	6	10	11	10
	助教、助手	18	16	17	6	7	5	3	4	4	9	5	8
B	教授	4	3	3	3	1	1	0	0	0	1	2	2
	准教授・講師	10	10	10	5	6	4	2	2	1	3	2	5
	助教、助手	6	9	11	3	2	5	0	1	2	3	6	4
C	教授	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	准教授・講師	3	2	3	1	0	1	0	0	0	2	2	2
	助教、助手	10	6	4	6	1	3	2	1	0	2	4	1
平均点	教授	2.2	2.2	2.3	1.9	2.2	2.4	2.3	2.5	2.3	2.4	2.1	2.2
	准教授・講師	1.8	1.8	1.7	1.7	1.9	1.7	2.0	1.9	2.1	1.8	1.7	1.6
	助教、助手	1.3	1.5	1.7	1.1	1.9	1.5	1.2	1.5	1.7	1.6	1.2	1.8

【グラフ】



【特記事項】

研究科全体でみると、中間値より高い評価を示しており、職階が上がる程高い値を示している。また、助教・助手に着目すると、H20～22に向けて、その割合が上昇している傾向がみられる。

【大学運営活動についての分析結果】

教授層において極めて高い評価となっており、助教・助手層でも活動の数値が増加傾向にあり、教育・研究活動への影響が懸念される。

■学部・研究科等固有の項目

○生命環境科学研究科

3-(3) 研究科固有の職務を通じた社会貢献活動

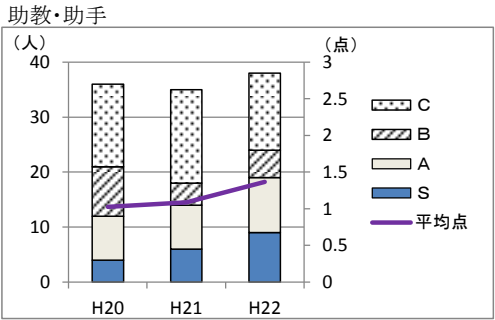
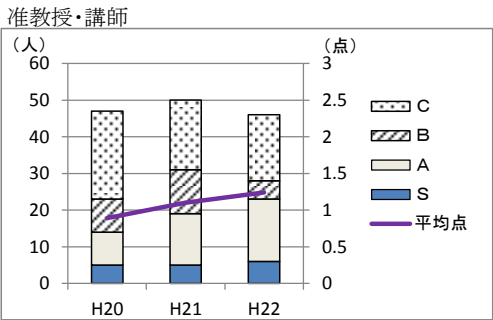
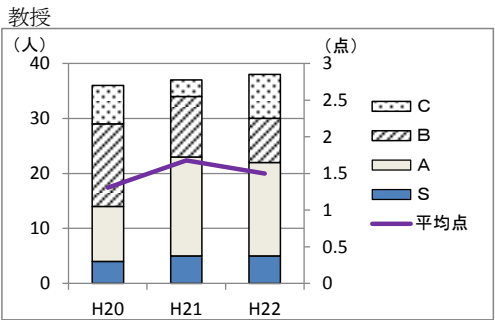
【評価の観点】：研究科固有の職務活動(例えば、獣医臨床センターにおける診療活動等)を行ったか。

S(3点)：十分に寄与した A(2点)：寄与した B(1点)：あまり寄与しなかった C(0点)：寄与しなかった

(人)

		生命環境科学研究科			応用生命科学専攻			緑地環境科学専攻			獣医学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	4	5	5	1	2	1	0	0	0	3	3	4
	准教授・講師	5	5	6	1	1	1	1	1	1	3	3	4
	助教、助手	4	6	9	0	1	2	0	1	0	4	4	7
A	教授	10	18	17	2	4	5	1	2	1	7	12	11
	准教授・講師	9	14	17	4	7	8	0	1	1	5	6	8
	助教、助手	8	8	10	6	5	6	0	1	2	2	2	2
B	教授	15	11	8	8	9	4	3	1	2	4	1	2
	准教授・講師	9	12	5	3	7	1	2	1	2	4	4	2
	助教、助手	9	4	5	3	2	3	1	0	0	5	2	2
C	教授	7	3	8	3	0	4	3	3	3	1	0	1
	准教授・講師	24	19	18	12	10	9	6	6	5	6	3	4
	助教、助手	15	17	14	7	5	5	3	4	4	5	8	5
平均点	教授	1.3	1.7	1.5	1.1	1.5	1.2	0.7	0.8	0.7	1.8	2.1	2.0
	准教授・講師	0.9	1.1	1.2	0.7	1.0	1.1	0.6	0.7	0.8	1.3	1.6	1.7
	助教、助手	1.0	1.1	1.4	0.9	1.2	1.3	0.3	0.8	0.7	1.3	1.1	1.7

【グラフ】



【特記事項】

専攻間で自ずと違いがみられ、獣医学専攻において評価が高くなっている。

第4節 理学系研究科

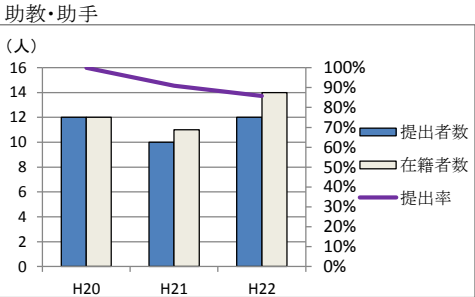
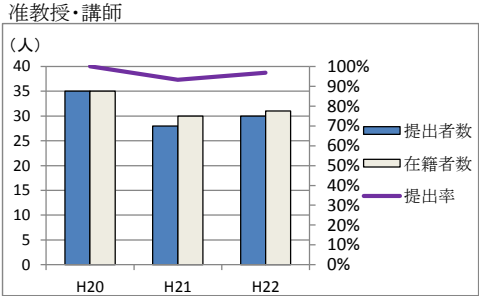
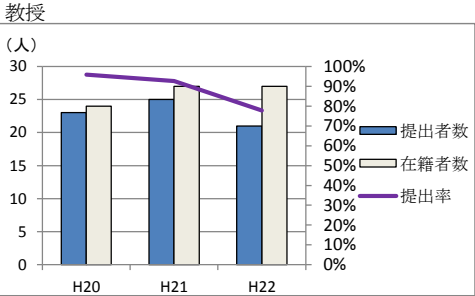
■教員活動自己点検・評価報告書の提出率

(人)

	理学系研究科						情報数理学専攻						物理科学専攻					
	H20		H21		H22		H20		H21		H22		H20		H21		H22	
	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数
教授	23	24	25	27	21	27	6	7	6	7	5	7	5	5	6	7	4	7
	提出率	95.8%	提出率	92.6%	提出率	77.8%	提出率	85.7%	提出率	85.7%	提出率	71.4%	提出率	100.0%	提出率	85.7%	提出率	57.1%
准教授・講師	35	35	28	30	30	31	12	12	9	10	10	10	5	5	4	4	4	4
	提出率	100.0%	提出率	93.3%	提出率	96.8%	提出率	100.0%	提出率	90.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
助教・助手	12	12	10	11	12	14	1	1	1	1	1	1	4	4	3	4	3	5
	提出率	100.0%	提出率	90.9%	提出率	85.7%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	75.0%	提出率	60.0%
合計	70	71	63	68	63	72	19	20	16	18	16	18	14	14	13	15	11	16
	提出率	98.6%	提出率	92.6%	提出率	87.5%	提出率	95.0%	提出率	88.9%	提出率	88.9%	提出率	100.0%	提出率	86.7%	提出率	68.8%

	分子科学専攻				生物科学専攻			
	H20		H21		H22		H20	
	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数
教授	4	4	5	5	4	5	8	8
	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	80.0%	提出率	100.0%
准教授・講師	8	8	7	7	7	7	10	10
	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
助教・助手	3	3	2	2	4	4	4	4
	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
合計	15	15	14	14	15	16	22	22
	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	93.8%	提出率	100.0%

【グラフ】



【教員活動自己点検・評価報告書の提出率についての分析結果】

報告書の提出率については、年度や専攻(学科)によるばらつきはあるものの、教授でやや低い傾向がみられる。平成22年度は平成20年度と21年度に比べて提出率が低下している。教授、特に物理科学専攻と情報数理学専攻の教授でこの傾向が著しい。今後は、報告書の提出依頼から締め切りまでの期間を十分に確保し、繰り返し注意を喚起する努力が必要である。

■教員活動自己点検・評価実施基準(全学実施基準)

1. 教育活動

(1) 授業活動

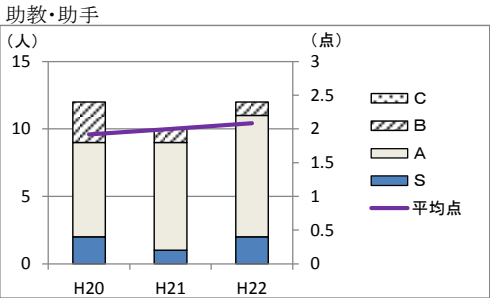
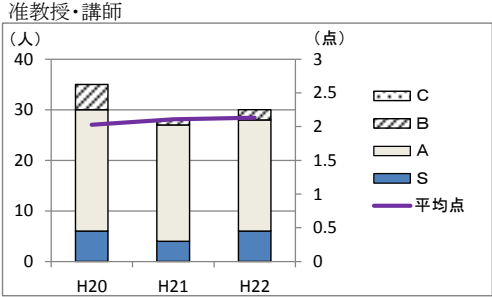
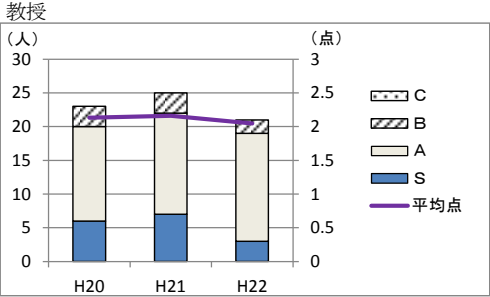
【評価の観点1】: 学部等が掲げる教育目的のもと、個々の授業目標に従って、授業展開を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		理学系研究科			情報数理学専攻			物理科学専攻			分子科学専攻			生物科学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	6	7	3	2	1	1	2	3	0	1	2	1	1	1	1
	准教授・講師	6	4	6	3	3	3	0	0	1	2	0	1	1	1	1
	助教・助手	2	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1
A	教授	14	15	16	3	4	3	3	3	3	3	3	3	5	5	7
	准教授・講師	24	23	22	7	5	6	5	4	3	6	7	6	6	7	7
	助教・助手	7	8	9	1	1	1	2	3	3	3	2	3	1	2	2
B	教授	3	3	2	1	1	1	0	0	1	0	0	0	2	2	0
	准教授・講師	5	1	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	3	0	1
	助教・助手	3	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	1
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	2.1	2.2	2.0	2.2	2.0	2.0	2.4	2.5	1.8	2.3	2.4	2.3	1.9	1.9	2.1
	准教授・講師	2.0	2.1	2.1	2.1	2.2	2.2	2.0	2.0	2.3	2.3	2.0	2.1	1.8	2.1	2.0
	助教・助手	1.9	2.0	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.3	1.8	2.0	2.0

【グラフ】



【特記事項】

・情報数理学専攻

授業活動は8割以上の教員が「非常に積極的に行った」「積極的に行った」を選択していて、積極的に行っていることがわかる。

・物理科学専攻

[授業活動自己評価の分布]

平成20年度から平成22年度の間、授業活動について「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と報告した教員の割合は9割を超え、ほとんど同じ状態を保っている。

・分子科学専攻

授業活動、教育改善、研究指導のすべてに関して、教授4人、准教授・講師7人の自己評価は、「非常に積極的に行った」または「積極的に行った」であった。助教4人に関して教育改善に関して普通であったのが1件と、研究指導が普通であったが1件であったが、初年度であったり研究テーマが初めてのことだったためである。積極的でなかったは1件もない。全員の教員が学生の指導に関して授業と研究指導にたいして非常に積極的に取り組んでいることがわかる。

・生物科学専攻

[授業活動自己評価の分布]

授業活動について、平成20年度から22年度の3年間で、「非常に積極的に行った」と報告した教員が14～15%、「積極的に行った」が55～76%、「普通であった」が32～10%、「積極的でなかった」が0%であった。「積極的に行った」がやや増え、「普通であった」が減る傾向にあり、3年間を通じて、ほぼ全教員が授業に対して熱心に取り組んだと思われる。

(2) 教育改善活動

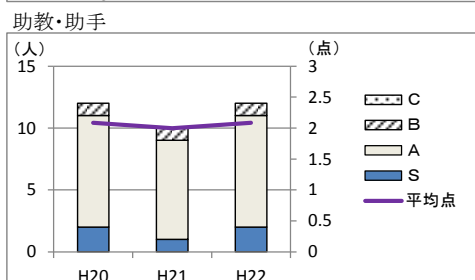
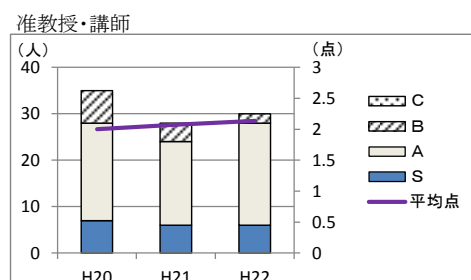
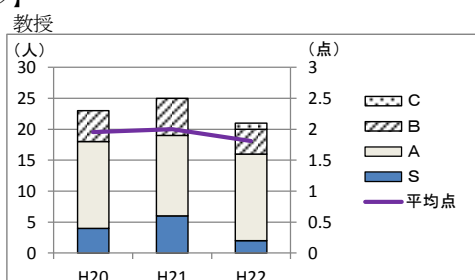
【評価の観点2】: 学部等が掲げる教育目的に応じた授業内容、教材、教授技術等の改善を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		理学系研究科			情報数理学専攻			物理科学専攻			分子科学専攻			生物科学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	4	6	2	1	1	1	1	2	0	1	2	1	1	1	0
	准教授・講師	7	6	6	3	3	3	0	0	0	2	1	1	2	2	2
	助教・助手	2	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1
A	教授	14	13	14	1	2	1	4	4	3	3	3	3	6	4	7
	准教授・講師	21	18	22	7	5	7	4	3	3	5	5	6	5	5	6
	助教・助手	9	8	9	1	1	1	3	3	3	3	2	2	2	2	3
B	教授	5	6	4	4	3	2	0	0	1	0	0	0	1	3	1
	准教授・講師	7	4	2	2	1	0	1	1	1	1	1	0	3	1	1
	助教・助手	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	2.0	2.0	1.8	1.5	1.7	1.4	2.2	2.3	1.8	2.3	2.4	2.3	2.0	1.8	1.9
	准教授・講師	2.0	2.1	2.1	2.1	2.2	2.3	1.8	1.8	1.8	2.1	2.0	2.1	1.9	2.1	2.1
	助教・助手	2.1	2.0	2.1	2.0	2.0	2.0	2.3	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.3

【グラフ】



【特記事項】

・情報数理学専攻

教育改善活動に関しては、「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と回答した教員の割合は6割から8割で年々高くなってきている。

・物理科学専攻

【授業活動自己評価と教育改善活動自己評価との関連】

授業活動について「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と報告した教員の割合は、平成20年度から平成22年度にかけて大きな変化はなかった。しかし、授業改善活動を「非常に積極的に行った」と報告した教員は平成22年度には0人となった。これは、不斷の努力により授業改善活動が特別なものではなくなったということを表しているのかもしれない。

【授業活動・教育改善活動自己評価と授業アンケートとの関連】

授業アンケートの回答率が低いため、授業活動についての報告と当該年度に実施した学生による授業アンケートの結果との因果関係を分析することは難しい。しかしながら、各教員は学生の理解を高めるような工夫をしている様子がうかがえる。例えば、小テストやレポート課題に対して詳細なコメントを付け、評価基準を示した上で、学生に返却し、学生の自習の指針としたとの報告もあった。また、小テストや自主的な授業アンケートにより学生の理解の度合いを量りつつ授業にフィードバックする努力も見られる。

【授業活動・教育改善活動自己評価の経年比較】

平成20年度から平成22年度は、「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と報告した教員の割合が8割を超えた同程度の水準を維持し続けており、授業活動、改善に対する教員の意識が高く保たれていることがわかる。

・分子科学専攻

授業活動、教育改善、研究指導のすべてに関して、教授4人、准教授・講師7人の自己評価は、「非常に積極的に行った」または「積極的に行った」であった。助教4人に関して教育改善に関して普通であったのが1件と、研究指導が普通であったが1件であったが、初年度であったり研究テーマが初めてでことになったりしたためである。積極的でなかったは1件もない

・生物科学専攻

教育改善活動について、「非常に積極的に行った」と報告した教員が14→20%、「積極的に行った」が59→76%、「普通であった」が23→10%、「積極的でなかった」が0%であった。年度毎に多少の増減はあるものの、平成20年度から22年度の3年間を通じて前述の授業活動についての数値とほぼ同様の傾向が読み取れる。授業活動について「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と報告した教員の多くが、授業改善活動についても「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と報告しているためと思われる。

(3) 研究指導活動

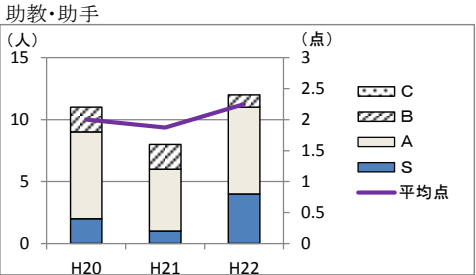
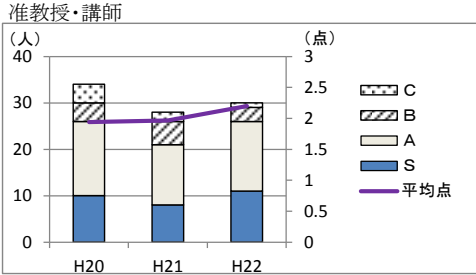
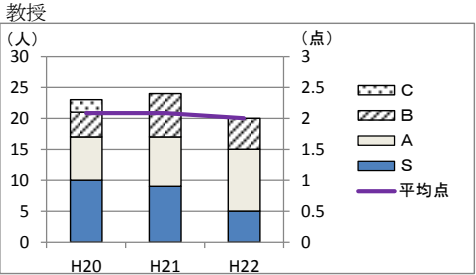
【評価の観点3】: 学位取得に向けた指導を積極的に行ったか。(研究指導活動を行わない教員は除く)

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		理学系研究科			情報数理学専攻			物理科学専攻			分子科学専攻			生物科学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	10	9	5	3	1	1	3	4	1	2	2	2	2	2	1
	准教授・講師	10	8	11	4	3	6	0	0	0	2	1	2	4	4	3
	助教・助手	2	1	4	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1	2
A	教授	7	8	10	0	2	1	1	1	2	2	3	2	4	2	5
	准教授・講師	16	13	15	5	3	2	3	2	3	6	6	5	2	2	5
	助教・助手	7	5	7	1	1	1	1	2	2	2	1	2	3	1	2
B	教授	4	7	5	2	2	2	0	1	1	0	0	0	2	4	2
	准教授・講師	4	5	3	0	2	1	2	2	1	0	0	0	2	1	1
	助教・助手	2	2	1	0	0	0	2	1	0	0	1	1	0	0	0
C	教授	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	4	2	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	2.1	2.1	2.0	1.8	1.8	1.8	2.2	2.5	2.0	2.5	2.4	2.5	2.0	1.8	1.9
	准教授・講師	1.9	2.0	2.2	2.0	1.9	2.3	1.6	1.5	1.8	2.3	2.1	2.3	1.8	2.1	2.2
	助教・助手	2.0	1.9	2.3	2.0	2.0	2.0	1.3	1.7	2.3	2.3	1.5	2.0	2.3	2.5	2.5

【グラフ】



【特記事項】

・**情報数理学専攻**
研究指導活動にかんしては「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と回答した教員の割合は平成22年度に8割と上がっている。これは、平成21年度から始まった学部と大学院カリキュラムの改定とも関係があると思われる。特に大学院において、教員がより積極的に学生指導を行うようになったのではないと思われる。

・**物理科学専攻**
研究指導については、「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と報告した教員の割合が、平成20年度61%、平成21年度69%、平成22年度82%であり、年々高くなっている。これは、研究活動報告の学術論文の数にも表れており、教育活動と研究活動がうまくバランスを取って両立していることを表していると考えられる。

・**分子科学専攻**
授業活動、教育改善、研究指導のすべてに関して、教授4人、准教授・講師7人の自己評価は、「非常に積極的に行った」または「積極的に行った」であった。助教4人に関して教育改善に関して普通であったのが1件と、研究指導が普通であったのが1件であったが、初年度であったり研究テーマが初めてでことになったりしたためである。積極的でなかったは1件もない。全員の教員が学生の指導に関して授業と研究指導にたいして非常に積極的に取り組んでいることがわかる。

・**生物科学専攻**
学位取得に向けた指導を積極的に行なったかについては、「非常に積極的に行った」と報告した教員が29～35%、「積極的に行った」25～57%が、「普通であった」が14～25%、「積極的でなかった」が0～9%であった。数値はかなりばらつきがあるが、年度により、大学院の博士前期課程、博士後期課程などの学位申請年次にあたる学生を直接指導した教員と、そうでない教員が居り、その結果このような数値になったのではないと思われる。「積極的でなかった」、「無回答」、「普通であった」と回答した教員の多くは、直接指導する大学院生または学部生の人数が少ないことを理由として挙げている。また「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と回答した教員は、研究室所属の大学院生・学部生の指導以外に、修士論文・学位論文の査読を通じて他の研究室の学生も積極的に指導している者が多かった。

【教育活動についての分析結果】

・**情報数理学専攻**
教育活動について全体として、「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と報告している割合が、回答者中7、8割に達している。情報数理学専攻では多くの教員が積極的に教育活動を行っていることがわかる。

・**物理科学専攻**
教育活動について総じて「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と報告している割合が、回答者中6割以上で推移しており、徐々にその割合は増えている。近年各教員が教育活動の重要性を認識し、教育活動に力を入れているためと考えられる。

・**分子科学専攻**
教育活動について総じて「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と報告している割合は平成22年度については93%であり、前年度の94%とほぼ等しくきわめて高い数値となった。

2. 研究活動

(1) 学術論文等による研究発表活動

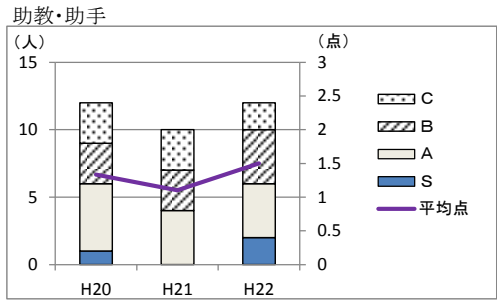
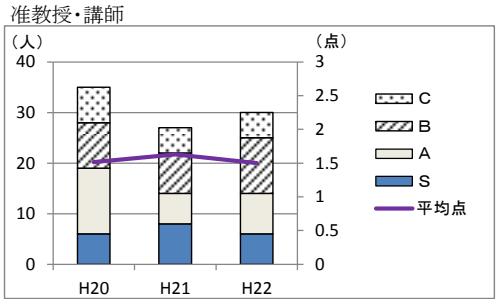
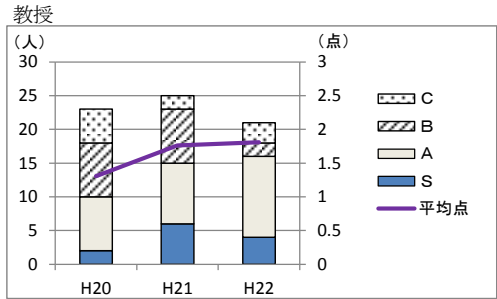
【評価の観点4】: 学術論文等による研究発表活動を活発に行ったか。

S(3点): 非常に活発であった A(2点): 活発であった B(1点): 普通であった C(0点): 活発でなかった

(人)

		理学系研究科			情報数理学専攻			物理科学専攻			分子科学専攻			生物科学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	2	6	4	0	0	1	0	1	0	2	3	1	0	2	2
	准教授・講師	6	8	6	1	3	4	0	0	0	3	2	1	2	3	1
	助教・助手	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0
A	教授	8	9	12	3	2	2	2	3	3	0	2	3	3	2	4
	准教授・講師	13	6	8	4	2	1	3	1	2	2	2	4	4	1	1
	助教・助手	5	4	4	0	0	0	2	1	1	2	2	1	1	1	2
B	教授	8	8	2	2	3	0	2	2	1	2	0	0	2	3	1
	准教授・講師	9	8	11	2	1	2	2	2	1	3	3	2	2	2	6
	助教・助手	3	3	4	0	0	1	2	2	1	1	0	1	0	1	1
C	教授	5	2	3	1	1	2	1	0	0	0	0	0	3	1	1
	准教授・講師	7	5	5	5	3	3	0	1	1	0	0	0	2	1	1
	助教・助手	3	3	2	1	1	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1
平均点	教授	1.3	1.8	1.8	1.3	1.2	1.4	1.2	1.8	1.8	2.0	2.6	2.3	1.0	1.6	1.9
	准教授・講師	1.5	1.6	1.5	1.1	1.6	1.6	1.6	1.0	1.3	2.0	1.9	1.9	1.6	1.9	1.2
	助教・助手	1.3	1.1	1.5	0.0	0.0	1.0	1.5	1.3	2.0	1.7	2.0	1.5	1.3	0.8	1.3

【グラフ】



【特記事項】

・情報数理学専攻

学術論文等による研究発表活動を活発に行ったかについて、「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と報告した教員の割合は4割から5割、学術論文等により、質の高い研究発表活動がなされたかについて、「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と報告した教員の割合は5割から6割となっている。幾分低い数値と見えるかもしれないが、学科・専攻の性質上、基礎的・理論的傾向が強く、単著または少人数による論文が大部分であり、その数も他の学科・専攻に比べて少ないことが原因であると思われる。

・物理科学専攻

研究活動は、学術論文等の数に見られるように年々評価が高くなっているが、外部資金の申請については年度による変化はなく低水準を保っている。これは、研究分野や研究のスタイルに大きく依存していると考えられ、必ずしも研究のアクティビティを反映しているものではない。

・分子科学専攻

論文発表、論文評価、研究発表に関して、教員全員のなかで「非常に積極的であった」「積極的であった。」は82%以上であった。論文発表で普通であったとした准教授についても、Impact factorが5以上の国際学術誌に2報の論文を報告している。自己評価に関して、個々人による評価の違いはあるが、評価の高い学術誌に2報発表して、「普通である」と考えている状況である。このように研究活動に関して非常に高い質が確保されている。研究発表に関しても、「普通である」とした准教授は、学生を指導し4件の発表を行っている。研究を通した学生指導も積極的になされている。

・生物科学専攻

【研究活動自己評価の分布】

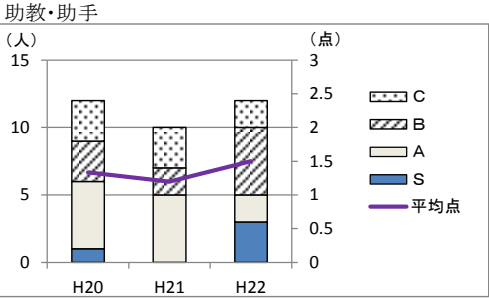
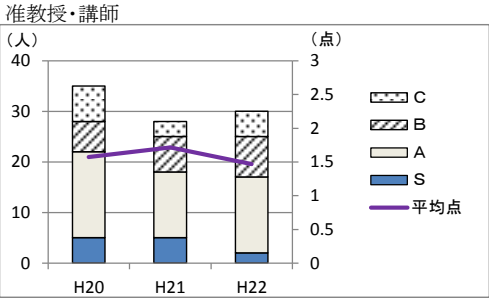
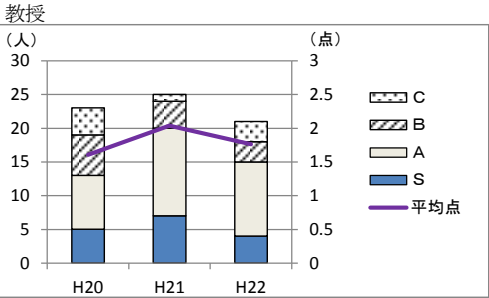
学術論文等による研究発表活動を活発に行ったかという問いについて「非常に積極的に行った」と報告した教員が14-25%「積極的に行った」は20-36%、「普通であった」は18-38%、「積極的でなかった」は14-32%であった。また、学術論文等により質の高い研究発表活動がなされたかという問いについては、「非常に積極的に行った」が10-25%、「非常に積極的に行った」が32-40%、「積極的に行った」が25-38%、「積極的でなかった」が10-23%であった。多くの教員が論文発表に対する取り組みの重要性は、概ね意識しているが質の高さについての意識は個人差があるため、このような結果になったと思われる。

【評価の観点5】:学術論文等により、質の高い研究発表活動がなされたか。
S(3点): 特段に高い質が確保された A(2点): 高い質が確保された B(1点): 普通であった C(0点): 不十分であった

(人)

		理学系研究科			情報数理学専攻			物理科学専攻			分子科学専攻			生物科学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	5	7	4	0	0	0	2	2	1	2	2	2	1	3	1
	准教授・講師	5	5	2	0	1	0	0	0	0	3	2	1	2	2	1
	助教・助手	1	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0
A	教授	8	13	11	4	4	2	0	3	1	1	2	2	3	4	6
	准教授・講師	17	13	15	6	5	6	4	2	3	4	4	5	3	2	1
	助教・助手	5	5	2	0	0	0	2	1	0	2	2	1	1	2	1
B	教授	6	4	3	0	1	1	2	1	2	1	1	0	3	1	0
	准教授・講師	6	7	8	2	1	1	1	2	0	0	1	1	3	3	6
	助教・助手	3	2	5	0	0	1	2	1	2	1	0	0	0	1	2
C	教授	4	1	3	2	1	2	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	准教授・講師	7	3	5	4	2	3	0	0	1	1	0	0	2	1	1
	助教・助手	3	3	2	1	1	0	0	1	0	0	0	1	2	1	1
平均点	教授	1.6	2.0	1.8	1.3	1.5	1.0	1.6	2.2	1.8	2.3	2.2	2.5	1.5	2.3	1.9
	准教授・講師	1.6	1.7	1.5	1.2	1.6	1.3	1.8	1.5	1.5	2.1	2.1	2.0	1.5	1.6	1.2
	助教・助手	1.3	1.2	1.5	0.0	0.0	1.0	1.5	1.0	1.7	1.7	2.0	2.0	1.3	1.3	1.0

【グラフ】



【特記事項】

・**情報数理学専攻**
学術論文等による研究発表活動を活発に行なったかについて、「非常に積極的にに行った」「積極的にに行った」と報告した教員の割合は4割から5割、学術論文等により、質の高い研究発表活動がなされたかについて、「非常に積極的にに行った」「積極的にに行った」と報告した教員の割合は5割から6割となっている。幾分低い数値と見えるかもしれないが、学科・専攻の性質上、基礎的・理論的傾向が強く、単著または少数による論文が大部分であり、その数も他の学科・専攻に比べて少ないことが原因であると思われる。論文発表までのサイクルが長いこともあって研究活動そのものが低調であることを意味しないと思われる。

・**物理科学専攻**
研究活動は、学術論文等の数に見られるように年々評価が高くなっているが、外部資金の申請については年度による変化はなく低水準を保っている。これは、研究分野や研究のスタイルに大きく依存していると考えられ、必ずしも研究のアクティビティを反映しているものではない。

・**分子科学専攻**
論文発表、論文評価、研究発表に関して、教員全員のなかで「非常に積極的であった」「積極的にであった。」は82%以上であった。論文発表で普通であったとした准教授についても、Impact factorが5以上の国際学術誌に2報の論文を報告している。自己評価に関して、個々人による評価の違いはあるが、評価の高い学術誌に2報発表して、「普通である」と考えている状況である。このように研究活動に関して非常に高い質が確保されている。研究発表に関しても、「普通である」とした准教授は、学生を指導し4件の発表を行っている。研究を通した学生指導も積極的になされている。

・**生物科学専攻**
学術講演・学会発表による研究発表活動については、「非常に積極的にに行った」が10－27%、「非常に積極的にに行った」が41－67%、「積極的にに行った」が19－25%、「積極的にでなかった」が5－9%であった。
研究活動については、年度により数値がばらばらしているが、これはまた論文が出た年度とそうでない年度などがある事も一因と思われる。

〔研究活動と教育活動の関連〕
学術論文等による研究発表活動を「非常に積極的にに行った」「積極的にに行った」と回答した教員グループと、「普通であった」「活発でなかった」と回答した教員グループの間では、授業活動および教育改善活動に関する回答傾向における大きな違いはみられなかった。また、学会等における研究発表活動および教育活動の関連性に関しても同様の結果であった。

(2) 学会等における研究発表活動

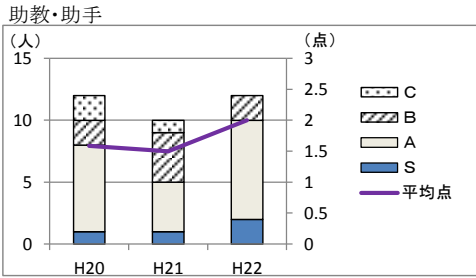
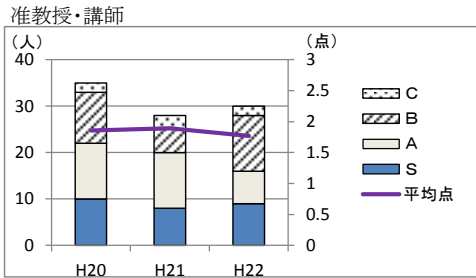
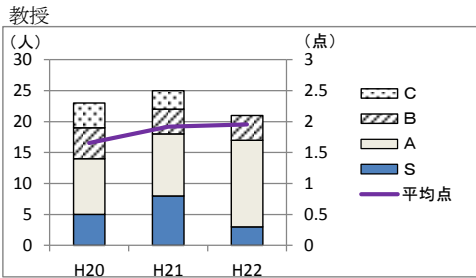
【評価の観点6】：学術講演、学会発表による研究発表活動を活発に行ったか。

S(3点)：非常に活発であった A(2点)：活発であった B(1点)：普通であった C(0点)：活発でなかった

(人)

		理学系研究科			情報数理学専攻			物理科学専攻			分子科学専攻			生物科学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	5	8	3	0	0	1	2	3	0	2	3	2	1	2	0
	准教授・講師	10	8	9	2	1	4	0	0	0	4	4	3	4	3	2
	助教・助手	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0
A	教授	9	10	14	2	3	2	0	2	3	2	2	2	5	3	7
	准教授・講師	12	12	7	3	5	1	3	2	1	4	2	2	2	3	3
	助教・助手	7	4	8	0	0	0	2	1	2	3	1	2	2	2	4
B	教授	5	4	4	2	1	2	2	0	1	0	0	0	1	3	1
	准教授・講師	11	5	12	6	1	4	2	2	3	0	1	2	3	1	3
	助教・助手	2	4	2	0	1	1	1	2	1	0	0	0	1	1	0
C	教授	4	3	0	2	2	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0
	准教授・講師	2	3	2	1	2	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	助教・助手	2	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
平均点	教授	1.7	1.9	2.0	1.0	1.2	1.8	1.6	2.2	1.8	2.5	2.6	2.5	1.8	1.9	1.9
	准教授・講師	1.9	1.9	1.8	1.5	1.6	1.8	1.6	1.5	1.3	2.5	2.4	2.1	1.9	2.0	1.7
	助教・助手	1.6	1.5	2.0	0.0	1.0	1.0	1.3	1.3	1.7	2.0	1.0	2.5	2.0	2.0	2.0

【グラフ】



【特記事項】

・情報数理学専攻

学術論文等による研究発表活動を活発に行ったかについて、「非常に積極的にに行った」「積極的にに行った」と報告した教員の割合は4割から5割、学術論文等により、質の高い研究発表活動がなされたかについて、「非常に積極的にに行った」「積極的にに行った」と報告した教員の割合は5割から6割となっている。幾分低い数値と見えるかもしれないが、学科・専攻の性質上、基礎的・理論的傾向が強く、単著または少人数による論文が大部分であり、その数も他の学科・専攻に比べて少ないことが原因であると思われる。論文発表までのサイクルが長いこともあって研究活動そのものが低調であることを意味しないと思われる。

・物理科学専攻

研究活動は、学術論文等の数に見られるように年々評価が高くなっているが、外部資金の申請については年度による変化はなく低水準を保っている。これは、研究分野や研究のスタイルに大きく依存していると考えられ、必ずしも研究のアクティビティを反映しているものではない。

・分子科学専攻

論文発表、論文評価、研究発表に関して、教員全員のなかで「非常に積極的にであった」「積極的にであった。」は82%以上であった。論文発表で普通であったとした准教授についても、Impact factorが5以上の国際学術誌に2報の論文を報告している。自己評価に関して、個々人による評価の違いはあるが、評価の高い学術誌に2報発表して、「普通である」と考えている状況である。このように研究活動に関して非常に高い質が確保されている。研究発表に関しても、「普通である」とした准教授は、学生を指導し4件の発表を行っている。研究を通した学生指導も積極的になされている。

・生物科学専攻

〔研究活動自己評価の分布〕

学術講演・学会発表による研究発表活動については、「非常に積極的にに行った」が10～27%、「非常に積極的にに行った」が41～67%、「積極的にに行った」が19～25%、「積極的にでなかった」が5～9%であった。研究活動については、年度により数値がばらついてはいるが、これはたまたま論文が出た年度とそうでない年度などがある事の一因と思われる。

〔研究活動と教育活動の関連〕

学術論文等による研究発表活動を「非常に積極的にに行った」「積極的にに行った」と回答した教員グループと、「普通であった」「活発でなかった」と回答した教員グループの間では、授業活動および教育改善活動に関する回答傾向における大きな違いはみられなかった。また、学会等における研究発表活動および教育活動の関連性に関しても同様の結果であった。

(3) 競争的資金の申請・獲得状況

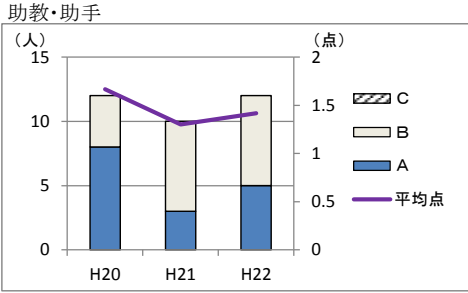
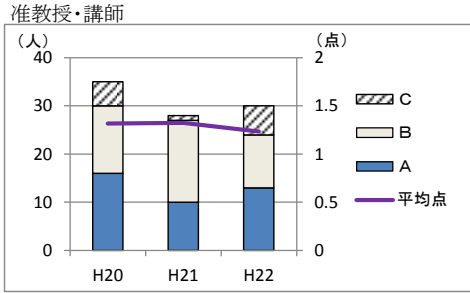
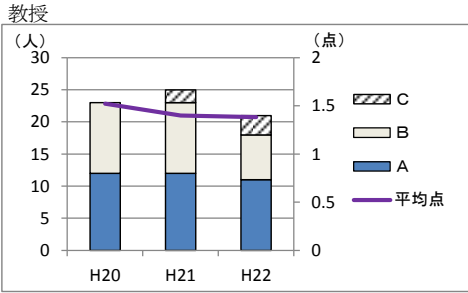
【評価の観点7】: 競争的資金獲得のため、代表者として積極的に申請したか。

A(2点): 積極的に申請した B申請した C申請しなかった

(人)

		理学系研究科			情報数理学専攻			物理科学専攻			分子科学専攻			生物科学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授	12	12	11	1	1	1	3	3	3	2	4	3	6	4	4
	准教授・講師	16	10	13	2	3	4	2	1	1	6	3	4	6	3	4
	助教・助手	8	3	5	0	0	0	3	0	0	2	2	4	3	1	1
B	教授	11	11	7	5	4	2	2	3	1	2	1	1	2	3	3
	准教授・講師	14	17	11	5	5	2	3	3	2	2	4	3	4	5	4
	助教・助手	4	7	7	1	1	1	1	3	3	1	0	0	1	3	3
C	教授	0	2	3	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	准教授・講師	5	1	6	5	1	4	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	1.5	1.4	1.4	1.2	1.0	0.8	1.6	1.5	1.8	1.5	1.8	1.8	1.8	1.4	1.4
	准教授・講師	1.3	1.3	1.2	0.8	1.2	1.0	1.4	1.3	1.0	1.8	1.4	1.6	1.6	1.4	1.3
	助教・助手	1.7	1.3	1.4	1.0	1.0	1.0	1.8	1.0	1.0	1.7	2.0	2.0	1.8	1.3	1.3

【グラフ】



【特記事項】

・情報数理学専攻

論文発表までのサイクルが長いこともあって研究活動そのものが低調であることを意味しないと思われる。競争的資金についても、同様の理由により科学研究費が応募の主要な対象となり、数値が低くなっていると考えられる。

・物理科学専攻

研究活動は、学術論文等の数に見られるように年々評価が高くなっているが、外部資金の申請については年度による変化はなく低水準を保っている。これは、研究分野や研究のスタイルに大きく依存していると考えられ、必ずしも研究のアクティビティを反映しているものではない。

・分子科学専攻

研究資金の申請もすべての教員が行っており、その中で積極的に申請をしたが、73%以上である。資金の獲得はすべての教員ができていないわけではないが、申請した研究者の約半数が資金を獲得しており、良い申請であると評価されたと理解できる。

・生物科学専攻

競争的資金獲得のため、代表者として積極的に申請したかという問いに対しては、「積極的に申請した」が40-68%、「申請した」が32-55%、「申請しなかった」が0%であった。「積極的に申請した」と答えた教員を職階毎に比較すると、助教がやや少ない傾向があるが、講師・准教授と教授で大きな差は見られない。「申請した」と答えた教員は講師・准教授の方が教授よりも多い。これは、年齢制限の付いた若手向けのグラントが近年増えており、これらに積極的に申請を行なっている教員がいることがうかがわれる。また、上記の申請が採択されたか、という問いに対しては、「複数採択された」が10-20%、「採択された」が43-45%、「採択されなかった」が5-36%であった。必ずしも申請が採択されていないことが判る。しかし、科研費の採択率が25%程度、NEDOやJSTは制度により異なるが、これより高いとは思われず、民間の財団の平均採択率も10-15%程度と推測されるので、採択率が著しく低いという事を意味するものではない。今後も、機会あるごとに積極的に申請を行えば良いと思われる。

【評価の観点8】：競争的資金の申請を行った結果、採択されたか。

注1. 競争的資金とは、科研費、国プロジェクト、NEDO、JSTなど、公募によるものをいう。

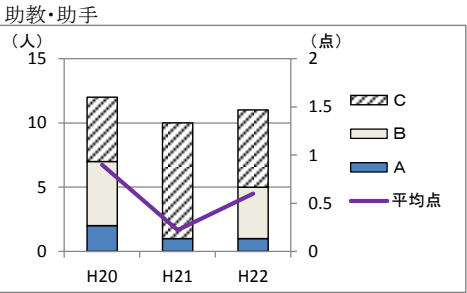
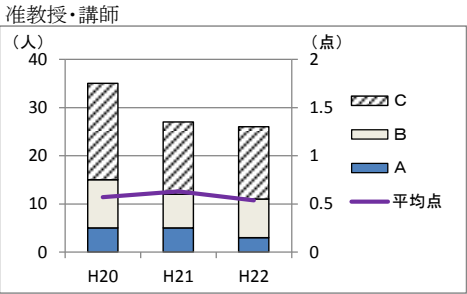
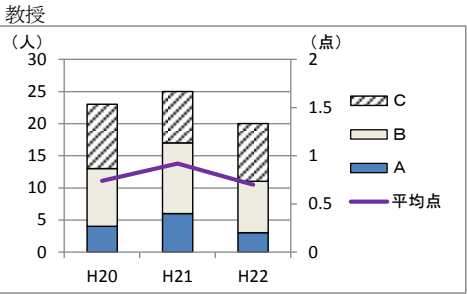
注2. 申請とは、新規申請のことをいう。

A (2点)：複数採択された B (1点)：採択された C (0点)：採択されなかった

(人)

		理学系研究科			情報数理学専攻			物理学専攻			分子科学専攻			生物科学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授	4	6	3	0	0	0	2	2	1	0	2	1	2	2	1
	准教授・講師	5	5	3	1	1	1	1	0	0	1	3	1	2	1	1
	助教・助手	2	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	0
B	教授	9	11	8	2	1	1	1	2	3	2	2	0	4	6	4
	准教授・講師	10	7	8	2	2	2	1	1	1	4	1	3	3	3	2
	助教・助手	5	0	4	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3	0	3
C	教授	10	8	9	4	5	3	2	2	0	2	1	3	2	0	3
	准教授・講師	20	15	15	9	6	4	3	3	2	3	3	3	5	3	6
	助教・助手	5	9	6	1	1	1	2	3	2	1	2	2	1	3	1
平均点	教授	0.7	0.9	0.7	0.3	0.2	0.3	1.0	1.0	1.3	0.5	1.2	0.5	1.0	1.3	0.8
	准教授・講師	0.6	0.6	0.5	0.3	0.4	0.6	0.6	0.3	0.3	0.8	1.0	0.7	0.7	0.7	0.4
	助教・助手	0.8	0.2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	1.3	0.0	0.8	0.8	0.5	0.8

【グラフ】



【特記事項】

・生物科学専攻

申請が採択されたか、という問いに対しては、「複数採択された」が10～20%、「採択された」が43～45%、「採択されなかった」が5～36%であった。必ずしも申請が採択されていないことが判る。しかし、科研費の採択率が25%程度、NEDOやJSTは制度により異なるが、これより高いとは思われず、民間の財団の平均採択率も10～15%程度と推測されるので、採択率が著しく低いという事を意味するものではない。今後も、機会あるごとに積極的に申請を行えば良いと思われる。

・分子科学専攻

外部資金獲得に向けた努力と成果については、過去3年間にわたって高いレベルでの申請が行われており、教員一人ひとりの努力により資金枠を拡大して高度な研究に発展させようとする努力が現れたものであると解釈できる。

【研究活動についての分析結果】

・情報数理学専攻

非常に積極的に「行った」「積極的に」を行った」と回答した教員の割合は平成20年度では5割に達していなかったが、平成21年度、平成22年度ではほぼ5割になっている。理論的な研究が中心の学科・専攻の特徴を考え合わせると一定レベルの研究活動が行われていると考えられる。

・物理学専攻

5割を超える教員が「非常に積極的に」行った」「積極的に」行った」と報告しており、平成20年度から22年度の間に大きな変化はない。一定のレベルの教育と研究の両立は達成されているものと思われる。

・分子科学専攻

「非常に積極的に」行った」「積極的に」行った」と報告している割合は84%であり、前年度の76%よりも高く、研究活動により積極的に取り組んでいることがわかる。

3. 社会貢献活動

(1) 府等の委員会への参画活動

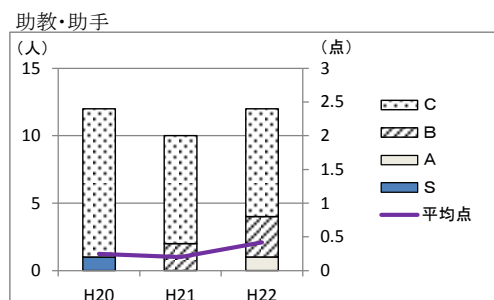
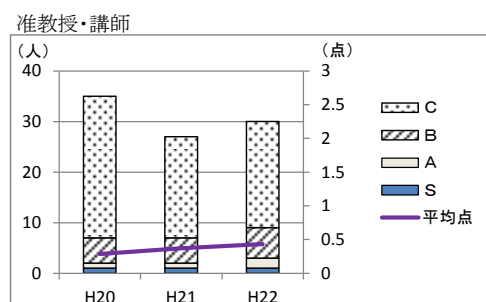
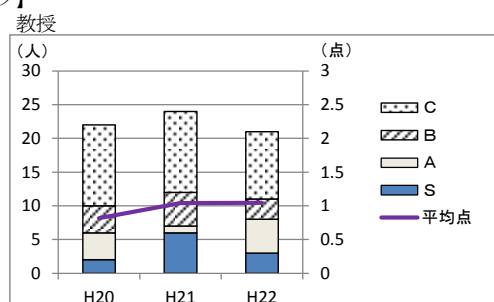
【評価の観点9】：国・府・市町村等の委員会への参画により、行政課題に対応した研究・提言を積極的に行ったか。

S(3点)：非常に積極的に行った A(2点)：積極的に行った B(1点)：普通であった C(0点)：積極的でなかった

(人)

		理学系研究科			情報数理学専攻			物理学専攻			分子科学専攻			生物科学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	2	6	3	0	0	0	1	2	1	0	2	0	1	2	2
	准教授・講師	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	助教・助手	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
A	教授	4	1	5	0	0	0	0	1	2	2	0	1	2	0	2
	准教授・講師	1	1	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
B	教授	4	5	3	2	2	2	1	1	1	0	0	0	1	2	0
	准教授・講師	5	5	6	2	2	4	1	1	1	2	1	1	0	1	0
	助教・助手	0	2	3	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1
C	教授	12	12	10	4	4	3	2	1	0	2	3	3	4	4	4
	准教授・講師	28	20	21	9	6	4	4	3	3	6	6	6	9	5	8
	助教・助手	11	8	8	1	0	0	3	3	3	3	2	3	4	3	2
平均点	教授	0.8	1.0	1.0	0.3	0.3	0.4	1.0	1.8	2.0	1.0	1.2	0.5	1.0	1.0	1.3
	准教授・講師	0.3	0.4	0.4	0.3	0.4	0.8	0.2	0.3	0.3	0.3	0.1	0.1	0.3	0.6	0.3
	助教・助手	0.3	0.2	0.4	0.0	1.0	1.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3	0.8

【グラフ】



【特記事項】

・情報数理学専攻

府等の委員会への参画活動は「積極的に行った」が1名または2名であった。各教員からの報告を見ると、積極的に活動する意思はあるが、外部からの要請がまだまだ少ないというのが現状であると思われる。

・物理学専攻

国・府・市町村等の委員会への参画は、特定の教員を除いてはほとんど要請がないため、「積極的でなかった」という報告が多くなっていると考えられる。

・分子科学専攻

府等の委員会に関しては、積極的にかかわったが1件、普通であったが2件であるが、理学部分子科学科が基礎学問をベースとしているため、政治などとの関わり合いが強くないためだと考えられる。

・生物科学専攻

国・府・市町村などの委員会への参画により、行政課題に対応した研究・提言を積極的に行ったかという問いに対しては、「非常に積極的に行った」が9-15%、「積極的に行った」が0-14%、「普通であった」が3%、「積極的でなかった」が7-60%であった。委員などは任期が定められているので、年度によりばらつきが大きい調査結果となった。「非常に積極的に行った」と「積極的に行った」の回答者には、教授および准教授・講師が多く、これらは委員会委嘱の慣例によるのではないと思われる。

(2) 地域に密着した学習支援活動

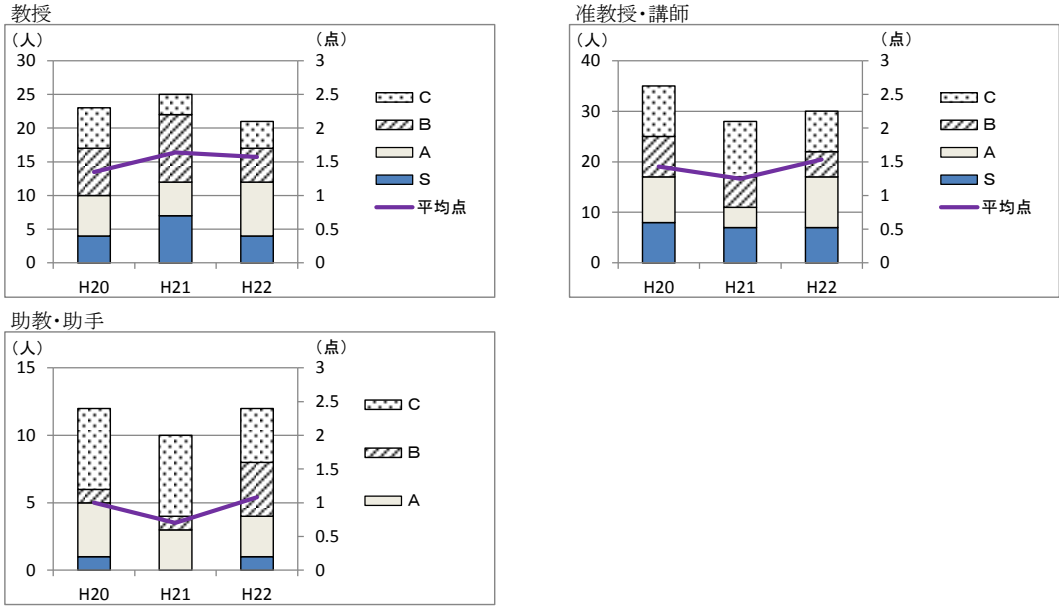
【評価の観点10】: 社会人向けの公開講座、高大連携講座等を通じて、地域に密着した学習支援活動を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		理学系研究科			情報数理学専攻			物理科学専攻			分子科学専攻			生物科学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	4	7	4	0	0	0	2	3	1	1	2	2	1	2	1
	准教授・講師	8	7	7	4	1	2	1	1	2	0	1	0	3	4	3
	助教・助手	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
A	教授	6	5	8	1	1	1	1	2	3	1	1	1	3	1	3
	准教授・講師	9	4	10	2	2	3	2	1	1	2	1	5	3	0	1
	助教・助手	4	3	3	1	1	0	2	2	2	0	0	1	1	0	0
B	教授	7	10	5	2	4	0	1	1	0	1	1	1	3	4	4
	准教授・講師	8	6	5	2	2	1	1	1	0	2	1	1	3	2	3
	助教・助手	1	1	4	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1
C	教授	6	3	4	3	1	4	1	0	0	1	1	0	1	1	0
	准教授・講師	10	11	8	4	4	4	1	1	1	4	4	1	1	2	2
	助教・助手	6	6	4	0	0	0	1	1	0	3	2	2	2	3	2
平均点	教授	1.3	1.6	1.6	0.7	1.0	0.4	1.8	2.3	2.3	1.5	1.8	2.3	1.5	1.5	1.6
	准教授・講師	1.4	1.3	1.5	1.5	1.0	1.3	1.6	1.5	2.0	0.8	0.9	1.6	1.8	1.8	1.6
	助教・助手	1.0	0.7	1.1	2.0	2.0	1.0	1.8	1.3	1.7	0.0	0.0	0.8	0.8	0.3	1.0

【グラフ】



【特記事項】

・情報数理学専攻

「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と回答した教員の割合は3割から4割程度ある。その多くは高大連携に関係するものと思われる。

・物理科学専攻

学科の教育プログラム「学生による演示学生実験」に関わる科学実験の公開への参画や高大連携プログラムへの参画など、様々な形で地域貢献活動に関わる教員が年々増えていると考えられる。

・分子科学専攻

非常に積極的に行ったとする教授が2件で、積極的にかかわったとする教授、准教授・講師は6件で、基礎学問であっても地域への積極的な貢献をしていることがわかる。

・生物科学専攻

社会人向けの公開講座、高大連携講座等を通じて、地域に密着した学習支援活動を積極的に行ったか、という問いに対しては、「非常に積極的に行った」が18-30%、「積極的に行った」が5-31%、「普通であった」が32-38%、「積極的でなかった」が18-30%であった。年度や人によりばらつきがみられた。

【社会貢献活動についての分析結果】

・情報数理学専攻

国・府・市町村等の委員会への参画は大部分の教員が「積極的でなかった」と回答している。各教員からの報告を見ると、積極的に活動する意思はあるが、外部からの要請が少ないためと思われる。地域に密着した学習支援については、「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と回答した教員の割合は3割から4割程度ある。その多くは高大連携に関係するものと思われる。

・物理科学専攻

国・府・市町村等の委員会への参画については、「積極的でなかった」が大半を占める。これは、委員会への参画要請がないためと思われる。一方、地域に密着した学習支援については、「非常に積極的に行った」から「積極的でなかった」まで、自己評価のばらつきが大きかったが、この3年間では年々評価が高くなっている。その活動内容を見ると、高大連携、高校生の研究室訪問受け入れや、学科の教育プログラムとして実施している演示学生実験の一般公開、小中学校へデモ・体験型科学実験への参画が定着してきたことを示していると考えられる。

・分子科学専攻

高校化学グランドコンテストの大阪市立大学との共同開催に学科として取り組むなど、着実な社会貢献活動を行っているために、地域貢献活動の数値が上がっている。基礎研究に重点をおきながらも、産学官連携の活動を意識した研究者が当学科では増えてきており、今後とも多様な社会活動の機会が増えていくものと期待できる。

・生物科学専攻

国・府・市町村などの委員会への参画により、行政課題に対応した研究・提言を積極的に行ったかという問いに対して「非常に積極的に行った」と「積極的に行った」の回答者には、教授および准教授・講師が多く、これらは委員会委嘱の慣例によるのではないと思われる。社会人向けの公開講座、高大連携講座等を通じて、地域に密着した学習支援活動を積極的に行ったか、という問いに対しては、年度や人によりばらつきがみられた。

4. 大学運営活動

(1) 各種委員会活動

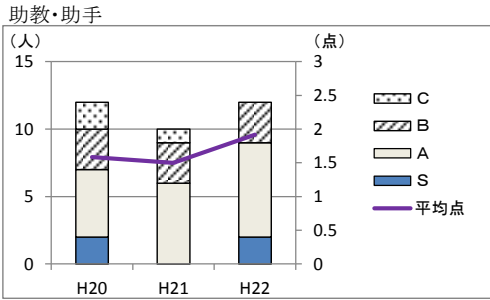
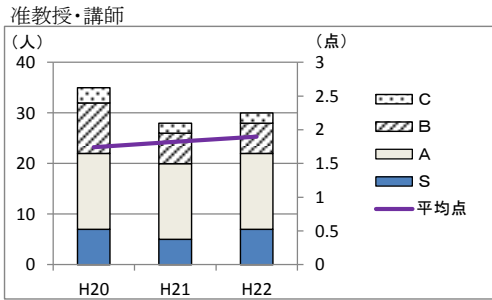
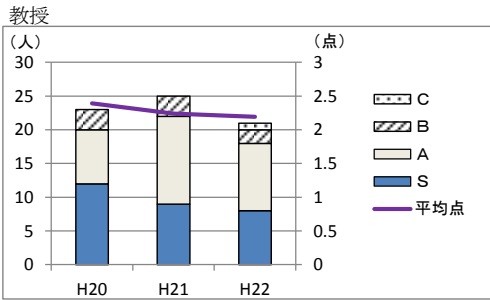
【評価の観点11】: 大学、学部等の各種委員会等に参画し、その運営に寄与したか。

S(3点): 十分に寄与した A(2点): 寄与した B(1点): あまり寄与しなかった C(0点): 寄与しなかった

(人)

		理学系研究科			情報数理学専攻			物理科学専攻			分子科学専攻			生物科学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	12	9	8	2	0	0	4	2	2	3	4	3	3	3	3
	准教授・講師	7	5	7	1	2	3	1	0	0	2	1	1	3	2	3
	助教・助手	2	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
A	教授	8	13	10	3	5	4	0	4	2	1	1	1	4	3	3
	准教授・講師	15	15	15	5	4	4	3	2	3	3	5	5	4	4	3
	助教・助手	5	6	7	1	0	0	2	3	3	0	1	2	2	2	2
B	教授	3	3	2	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	2	2
	准教授・講師	10	6	6	5	3	2	1	1	1	2	0	0	2	2	3
	助教・助手	3	3	3	0	1	1	1	0	0	2	1	2	0	1	0
C	教授	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	3	2	2	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	0	0
	助教・助手	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0
平均点	教授	2.4	2.2	2.2	2.2	1.8	1.6	2.6	2.3	2.5	2.8	2.8	2.8	2.3	2.1	2.1
	准教授・講師	1.7	1.8	1.9	1.5	1.9	1.9	2.0	1.3	1.8	1.8	1.9	1.9	1.9	2.0	2.0
	助教・助手	1.6	1.5	1.9	2.0	1.0	1.0	1.3	2.0	2.0	1.7	1.5	1.5	1.8	1.3	2.5

【グラフ】



【特記事項】

・情報数理学専攻

大学運営活動の大学、学部等の各種委員会等に参画し、その運営に寄与したかという項目にかんしては約7割の教員が「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と回答している。委員会活動について、教授の平均点が平成21年度、平成22年度において減少している。1つの理由としては、複数の教授が平成21年度から22年度にかけて入試関係の全学的な職務についており、入試に関する設問が別にあるために、委員会活動の点数の比重が小さくなったと考えられる。

・物理科学専攻

学内の各種委員会、入試運営については、学科構成員数が少ない本学科では、ほとんどの教員が何らかの形で参画しているため、年度を問わず、すべての教員が「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と報告している。

・分子科学専攻

委員会活動では、入試運営に「非常に積極的に行った」「積極的に行った」は86%を超える。教授・准教授・講師ではほとんどの教員がこれらに関わっており、大学の改革や入試業務を含め大学改善に積極的に寄与していることがわかる。

・生物科学専攻

大学、学部等の各種委員会等に参画し、その運営に寄与したかという問いに対して、「十分に寄与した」が25－38%、「寄与した」が38－45%、「あまり寄与しなかった」が14－25%、「寄与しなかった」が0－9%であった。教授、准教授・講師など上位の職階の教員の方が寄与したと回答した割合が高かった。これは、様々な委員を割り当てられる確率が高いためと思われる。

【大学運営活動についての分析結果】

・情報数理学専攻

約7割の教員が「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と回答している。

・物理科学専攻

教授職にある者は何らかの形で全学委員会ないし部局管理運営に関する委員会に所属しており、ほとんどの教員が「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と報告している。

・分子科学専攻

いずれの教員も何らかの形で全学委員会ないし部局管理運営に関する委員会に所属しており、委員会への参加評価について「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と報告している割合は80%であり、前年度の75%に比べて上昇している。教員定数削減の影響により、一人あたりの大学運営活動に関わる機会が上昇したためとみなすことができる。

・生物科学専攻

大学、学部等の各種委員会等に参画し、その運営に寄与したかという問いに対して、「十分に寄与した」が25－38%、「寄与した」が38－45%、「あまり寄与しなかった」が14－25%、「寄与しなかった」が0－9%であった。教授、准教授・講師など上位の職階の教員の方が寄与したと回答した割合が高かった。これは、様々な委員を割り当てられる確率が高いためと思われる。

■学部・研究科等固有の項目

○理学系研究科

4- (2) 入試運営

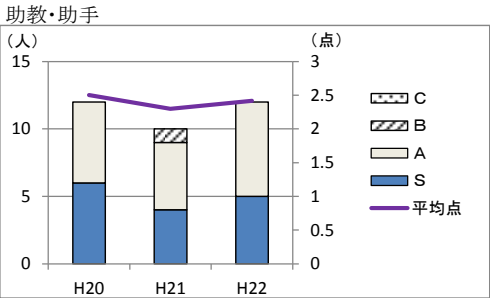
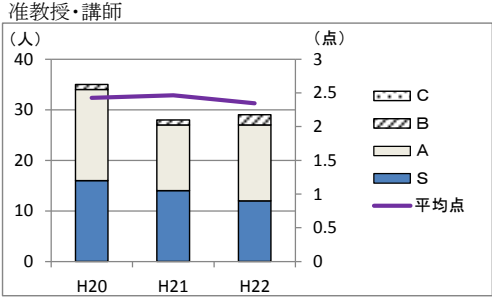
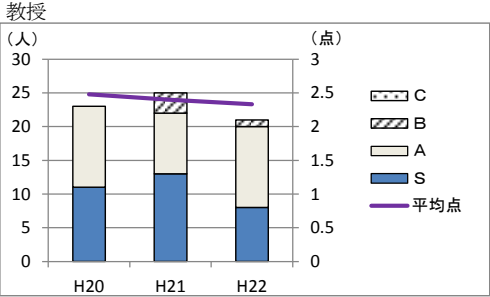
【評価の観点】：学部および大学院の入試業務を担い、その運営に寄与したか。

S(3点)：十分に寄与した A(2点)：寄与した B(1点)：あまり寄与しなかった C(0点)：寄与しなかった

(人)

		理学系研究科			情報数理学専攻			物理科学専攻			分子科学専攻			生物科学専攻		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	11	13	8	2	3	3	3	3	2	3	3	3	3	4	0
	准教授・講師	16	14	12	4	4	4	4	3	1	3	3	4	6	4	3
	助教・助手	6	4	5	0	0	0	4	2	1	1	1	2	1	1	2
A	教授	12	9	12	4	3	2	2	3	2	1	1	1	5	2	7
	准教授・講師	18	13	15	7	4	5	2	1	3	5	4	2	4	4	5
	助教・助手	6	5	7	1	1	1	0	1	2	2	1	2	3	2	2
B	教授	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1
	准教授・講師	1	1	2	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	助教・助手	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	2.5	2.4	2.3	2.3	2.5	2.6	2.6	2.5	2.5	2.8	2.4	2.8	2.4	2.3	1.9
	准教授・講師	2.4	2.5	2.3	2.3	2.3	2.3	2.6	2.8	2.3	2.4	2.4	2.4	2.6	2.5	2.4
	助教・助手	2.5	2.3	2.4	2.0	2.0	2.0	3.0	2.7	2.3	2.3	2.5	2.5	2.3	2.0	2.5

【グラフ】



【特記事項】

・情報数理学専攻

入試運営の設問では、「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と回答した教員の割合は9割を超えている。情報数理学専攻では全員が入試業務に関係しており、入試運営に関する貢献度は極めて高いと考えられる。

・物理科学専攻

入試運営については、学科構成員数が少ない本学科では、ほとんどの教員が何らかの形で参画しているため、年度を問わず、すべての教員が「非常に積極的に行った」「積極的に行った」と報告している。この状況は、平成20年度から22年度の間に大きな変化はない。

・分子科学専攻

入試運営に「非常に積極的に行った」「積極的に行った」は86%を超える。教授・准教授・講師ではほとんどの教員がこれらに関わっており、大学の改革や入試業務を含め大学改善に積極的に寄与していることがわかる。

・生物科学専攻

学部および大学院の入試業務を担い、その運営に寄与したかという問いに対して、「十分に寄与した」が24-45%、「寄与した」が40-67%、「あまり寄与しなかった」が0-15%、「寄与しなかった」が0%であった。概ね、大半の教員は寄与しているという意識を持っていることが判る。

第5節 経済学部

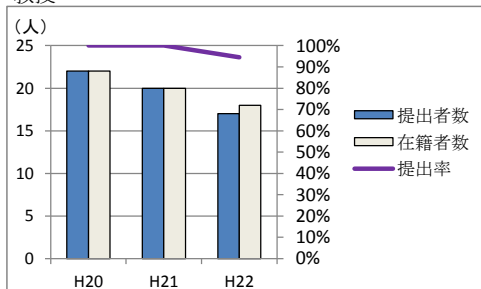
■教員活動自己点検・評価報告書の提出率

	経済学部						経済学科						経営学科					
	H20		H21		H22		H20		H21		H22		H20		H21		H22	
	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数
教授	22	22	20	20	17	18	10	10	9	9	9	9	12	12	11	11	8	9
	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	94.4%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	88.9%
准教授・講師	17	18	17	17	18	18	12	12	12	12	10	10	5	6	5	5	8	8
	提出率	94.4%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	83.3%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
助教・助手	0	0	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2
	提出率	-	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	-	提出率	-	提出率	-	提出率	-	提出率	100.0%	提出率	100.0%
合計	39	40	39	39	37	38	22	22	21	21	19	19	17	18	18	18	18	19
	提出率	97.5%	提出率	100.0%	提出率	97.4%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	94.4%	提出率	100.0%	提出率	94.7%

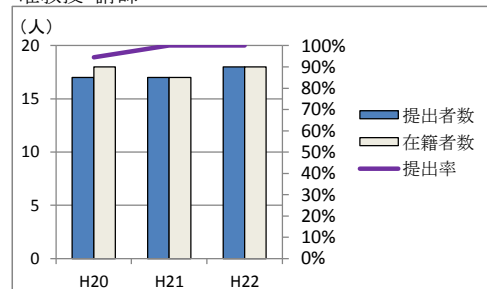
※提出がなかった主な理由 H20年 退職(人)産休(人)その他(育休1人)
H22年 退職(人)産休(人)その他(1人)

【グラフ】

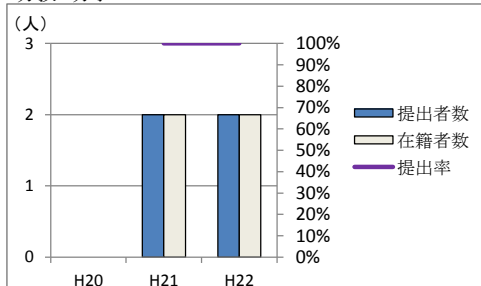
教授



准教授・講師



助教・助手



【教員活動自己点検・評価報告書の提出率についての分析結果】

教員活動自己点検・評価報告書の提出率は各学科とも過去3年間を通して高い率を維持している。

■教員活動自己点検・評価実施基準(全学実施基準)

1. 教育活動

(1) 授業活動

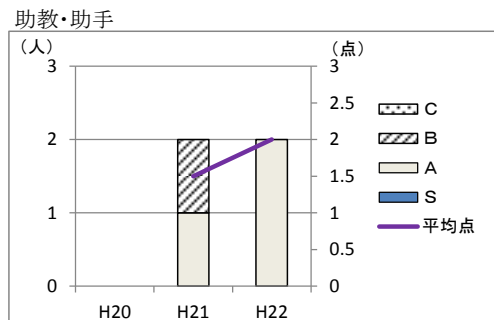
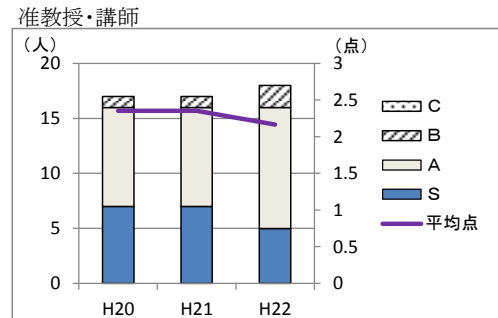
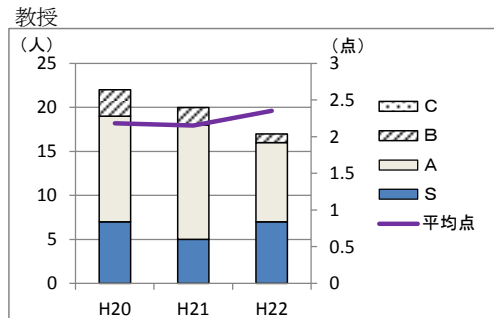
【評価の観点1】: 学部等が掲げる教育目的のもと、個々の授業目標に従って、授業展開を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		経済学部			経済学科			経営学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	7	5	7	4	3	5	3	2	2
	准教授・講師	7	7	5	6	6	2	1	1	3
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A	教授	12	13	9	4	4	3	8	9	6
	准教授・講師	9	9	11	5	5	6	4	4	5
	助教・助手	0	1	2	0	0	0	0	1	2
B	教授	3	2	1	2	2	1	1	0	0
	准教授・講師	1	1	2	1	1	2	0	0	0
	助教・助手	0	1	0	0	0	0	0	1	0
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	2.2	2.2	2.4	2.2	2.1	2.4	2.2	2.2	2.3
	准教授・講師	2.4	2.4	2.2	2.4	2.4	2.0	2.2	2.2	2.4
	助教・助手	-	1.5	2.0	-	-	-	-	1.5	2.0

【グラフ】



【特記事項】

各教員は学部が掲げる教育目的のもと、個々の授業目標に従って、授業展開を積極的に行っている様子がうかがえる。唯一助教・助手のポイントが若干低くなっているが、経験年数や職階上やむを得ない部分があると思われる。

(2) 教育改善活動

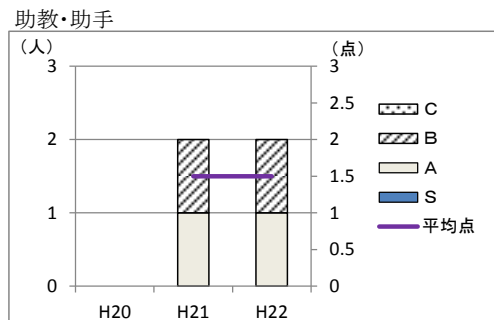
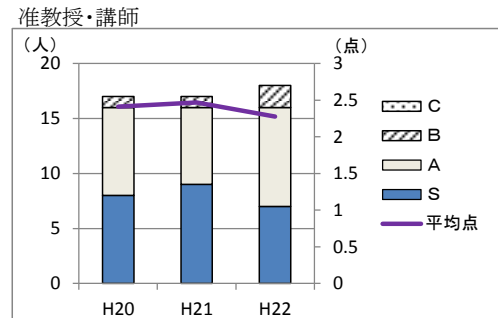
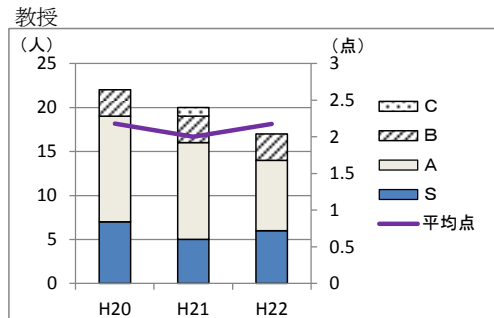
【評価の観点2】: 学部等が掲げる教育目的に応じた授業内容、教材、教授技術等の改善を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		経済学部			経済学科			経営学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	7	5	6	4	3	5	3	2	1
	准教授・講師	8	9	7	6	6	3	2	3	4
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A	教授	12	11	8	4	2	2	8	9	6
	准教授・講師	8	7	9	5	6	6	3	1	3
	助教・助手	0	1	1	0	0	0	0	1	1
B	教授	3	3	3	2	3	2	1	0	1
	准教授・講師	1	1	2	1	0	1	0	1	1
	助教・助手	0	1	1	0	0	0	0	1	1
C	教授	0	1	0	0	1	0	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	2.2	2.0	2.2	2.2	1.8	2.3	2.2	2.2	2.0
	准教授・講師	2.4	2.5	2.3	2.4	2.5	2.2	2.4	2.4	2.4
	助教・助手	-	1.5	1.5	-	-	-	-	1.5	1.5

【グラフ】



【特記事項】

各教員が学部の掲げる教育目的に応じた授業内容、教材、教授技術等の改善を積極的に行っており、高い成果が期待できる。助教・助手のポイントが若干低い、これも経験年数から考えて仕方のない面があると思われる。

(3) 研究指導活動

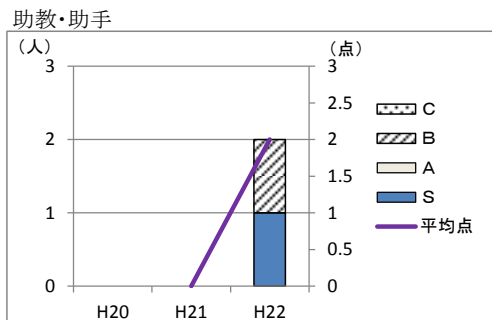
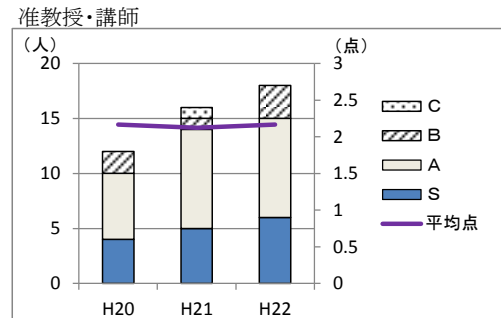
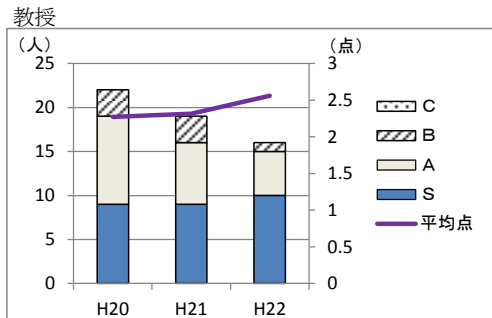
【評価の観点3】: 学位取得に向けた指導を積極的に行ったか。(研究指導活動を行わない教員は除く)

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		経済学部			経済学科			経営学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	9	9	10	6	5	6	3	4	4
	准教授・講師	4	5	6	2	3	2	2	2	4
	助教・助手	0	0	1	0	0	0	0	0	1
A	教授	10	7	5	2	3	1	8	4	4
	准教授・講師	6	9	9	3	6	6	3	3	3
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B	教授	3	3	1	2	1	1	1	2	0
	准教授・講師	2	1	3	2	1	2	0	0	1
	助教・助手	0	0	1	0	0	0	0	0	1
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	0	1	0	0	1	0	0	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	2.3	2.3	2.6	2.4	2.4	2.6	2.2	2.2	2.5
	准教授・講師	2.2	2.1	2.2	2.0	2.0	2.0	2.4	2.4	2.4
	助教・助手	-	-	2.0	-	-	-	-	-	2.0

【グラフ】



【特記事項】

特に教授の評価が高く、学位取得に向けた指導を積極的に行っている。

【教育活動についての分析結果】

教育活動について、おおむね各教員の自己評価は高く、高いレベルの教育が行われていると評価できる。特に教授の学位取得に向けた指導で高い評価が行われていると同時に准教授レベルの若手教員が積極的に授業改善を行っており、全体として、バランスのとれた授業が展開されていると評価できる。

2. 研究活動

(1) 学術論文等による研究発表活動

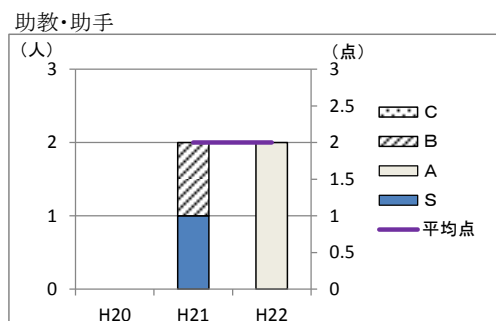
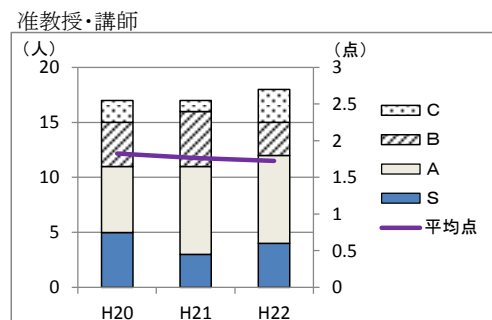
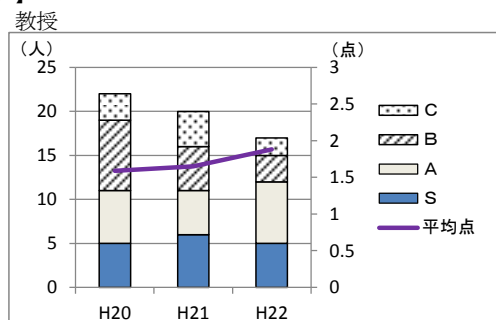
【評価の観点4】: 学術論文等による研究発表活動を活発に行ったか。

S(3点): 非常に活発であった A(2点): 活発であった B(1点): 普通であった C(0点): 活発でなかった

(人)

		経済学部			経済学科			経営学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	5	6	5	2	2	3	3	4	2
	准教授・講師	5	3	4	4	3	2	1	0	2
	助教・助手	0	1	0	0	0	0	0	1	0
A	教授	6	5	7	2	1	2	4	4	5
	准教授・講師	6	8	8	2	5	4	4	3	4
	助教・助手	0	0	2	0	0	0	0	0	2
B	教授	8	5	3	4	3	2	4	2	1
	准教授・講師	4	5	3	4	3	2	0	2	1
	助教・助手	0	1	0	0	0	0	0	1	0
C	教授	3	4	2	2	3	2	1	1	0
	准教授・講師	2	1	3	2	1	2	0	0	1
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	1.6	1.7	1.9	1.4	1.2	1.7	1.8	2.0	2.1
	准教授・講師	1.8	1.8	1.7	1.7	1.8	1.6	2.2	1.6	1.9
	助教・助手	-	2.0	2.0	-	-	-	-	2.0	2.0

【グラフ】



【特記事項】

学科間のばらつきが少しあるが、おおむね積極的に学術論文等による研究発表活動が行われると判断できる。

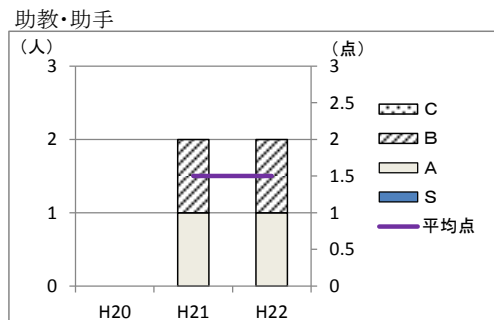
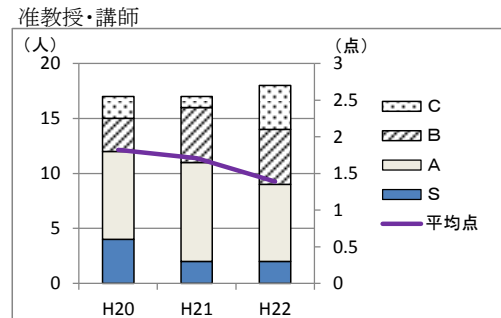
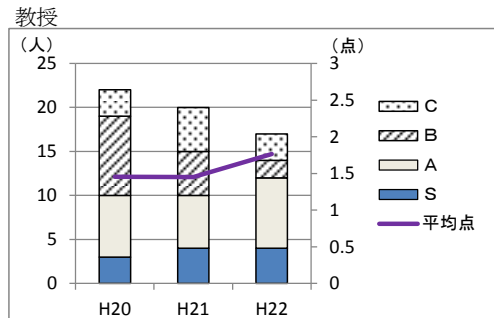
【評価の観点5】: 学術論文等により、質の高い研究発表活動がなされたか。

S(3点): 特段に高い質が確保された A(2点): 高い質が確保された B(1点): 普通であった C(0点): 不十分であった

(人)

		経済学部			経済学科			経営学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	3	4	4	1	1	3	2	3	1
	准教授・講師	4	2	2	3	1	0	1	1	2
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A	教授	7	6	8	3	2	2	4	4	6
	准教授・講師	8	9	7	4	7	5	4	2	2
	助教・助手	0	1	1	0	0	0	0	1	1
B	教授	9	5	2	4	2	1	5	3	1
	准教授・講師	3	5	5	3	3	3	0	2	2
	助教・助手	0	1	1	0	0	0	0	1	1
C	教授	3	5	3	2	4	3	1	1	
	准教授・講師	2	1	4	2	1	2	0	0	2
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	1.5	1.5	1.8	1.3	1.0	1.6	1.6	1.8	2.0
	准教授・講師	1.8	1.7	1.4	1.7	1.7	1.3	2.2	1.8	1.5
	助教・助手	-	1.5	1.5	-	-	-	-	1.5	1.5

【グラフ】



【特記事項】

教授レベルの研究成果の質は高く維持されているが准教授や助教・助手レベルの教員の研究の質が若干低めになっている。

(2) 学会等における研究発表活動

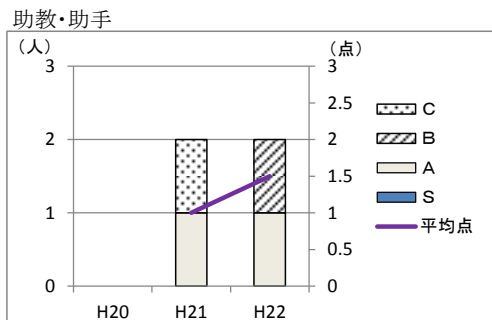
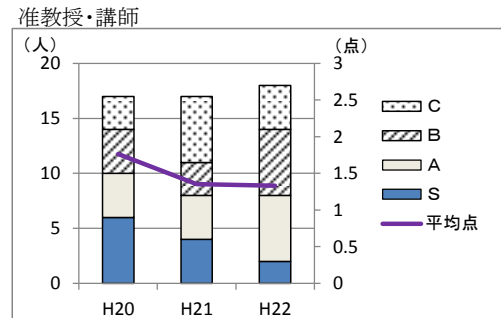
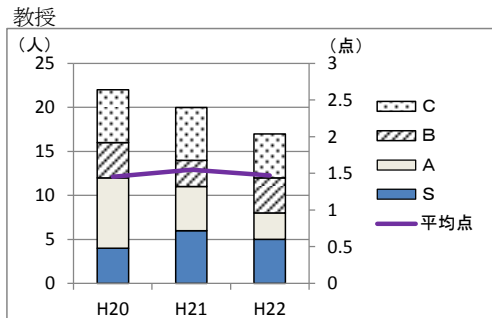
【評価の観点6】: 学術講演、学会発表による研究発表活動を活発に行ったか。

S(3点): 非常に活発であった A(2点): 活発であった B(1点): 普通であった C(0点): 活発でなかった

(人)

		経済学部			経済学科			経営学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	4	6	5	2	2	1	2	4	4
	准教授・講師	6	4	2	5	3	0	1	1	2
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A	教授	8	5	3	2	1	1	6	4	2
	准教授・講師	4	4	6	1	3	5	3	1	1
	助教・助手	0	1	1	0	0	0	0	1	1
B	教授	4	3	4	1	1	2	3	2	2
	准教授・講師	4	3	6	4	3	2	0	0	4
	助教・助手	0	0	1	0	0	0	0	0	1
C	教授	6	6	5	5	5	5	1	1	0
	准教授・講師	3	6	4	2	3	3	1	3	1
	助教・助手	0	1	0	0	0	0	0	1	0
平均点	教授	1.5	1.6	1.5	1.1	1.0	0.8	1.8	2.0	2.3
	准教授・講師	1.8	1.4	1.3	1.8	1.5	1.2	1.8	1.0	1.5
	助教・助手	-	1.0	1.5	-	-	-	-	1.0	1.5

【グラフ】



【特記事項】

学術講演、学会発表による研究発表活動については学科間の差が大きい。経営学科の教員、特に教授は積極的に学術講演・学会発表を行っているが、研究領域の特性上、経済学科教員のポイントが少し低くなっている。

(3) 競争的資金の申請・獲得状況

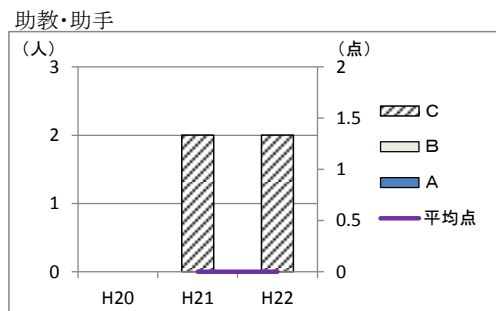
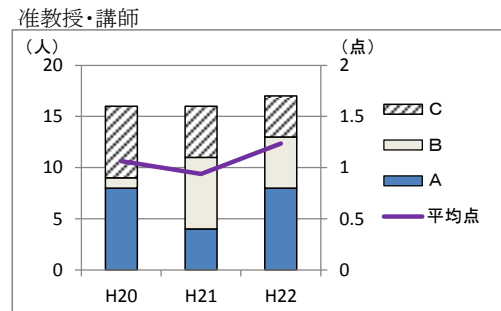
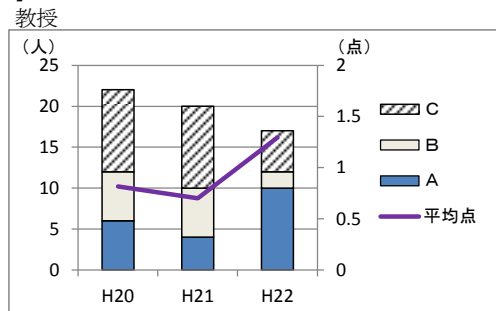
【評価の観点7】: 競争的資金獲得のため、代表者として積極的に申請したか。

A (2点): 積極的に申請した B (1点): 申請した C (0点): 申請しなかった

(人)

		経済学部			経済学科			経営学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授	6	4	10	1	1	4	5	3	6
	准教授・講師	8	4	8	5	3	5	3	1	3
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B	教授	6	6	2		2	1	6	4	1
	准教授・講師	1	7	5	1	3	2		4	3
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C	教授	10	10	5	9	6	4	1	4	1
	准教授・講師	7	5	4	5	5	2	2	0	2
	助教・助手	0	2	2	0	0	0	0	2	2
平均点	教授	0.8	0.7	1.3	0.2	0.4	1.0	1.3	0.9	1.6
	准教授・講師	1.1	0.9	1.2	1.0	0.8	1.3	1.2	1.2	1.1
	助教・助手	-	0.0	0.0	-	-	-	-	0.0	0.0

【グラフ】



【特記事項】

競争的資金の獲得活動は全般的に低い値になっているが、近年は上昇傾向にある。

【評価の観点8】:競争的資金の申請を行った結果、採択されたか。

注1. 競争的資金とは、科研費、国プロジェクト、NEDO、JSTなど、公募によるものをいう。

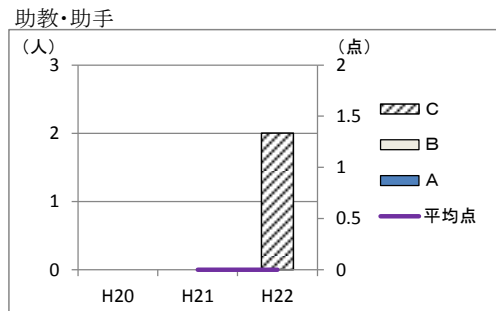
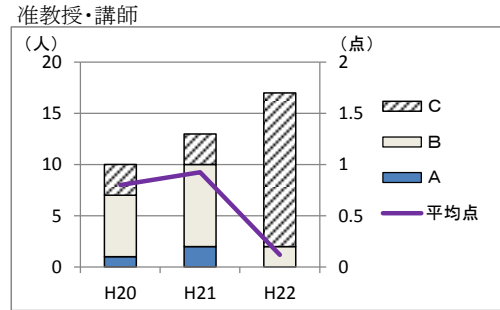
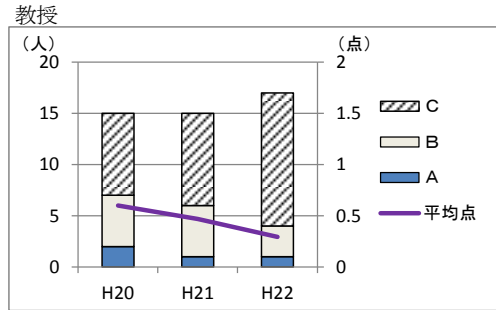
注2. 申請とは、新規申請のことをいう。

A(2点):複数採択された B(1点):採択された C(0点):採択されなかった

(人)

		経済学部			経済学科			経営学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授	2	1	1	0	0	0	2	1	1
	准教授・講師	1	2	0	1	2	0	0	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B	教授	5	5	3	1	1	0	4	4	3
	准教授・講師	6	8	2	4	6	0	2	2	2
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C	教授	8	9	13	3	3	9	5	6	4
	准教授・講師	3	3	15	2	0	9	1	3	6
	助教・助手	0	0	2	0	0	0	0	0	2
平均点	教授	0.6	0.5	0.3	0.3	0.3	0.0	0.7	0.5	0.6
	准教授・講師	0.8	0.9	0.1	0.9	1.3	0.0	0.7	0.4	0.3
	助教・助手	-	-	0.0	-	-	-	-	-	0.0

【グラフ】



【特記事項】

競争的資金の申請は行っているが、獲得・採択は容易ではなく、これに対するサポート体制が必要である。

【研究活動についての分析結果】

競争的資金の獲得や研究成果の質については少し課題が残るものの、全般的には積極的に研究活動を行っていると評価できる。今後は実質的な成果に結びつくサポート体制の整備が必要である。

3. 社会貢献活動

(1) 府等の委員会への参画活動

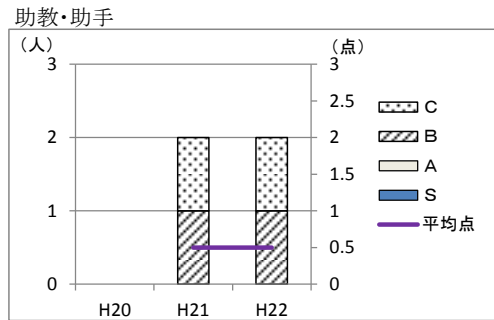
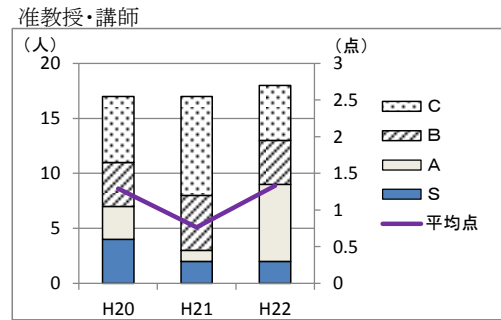
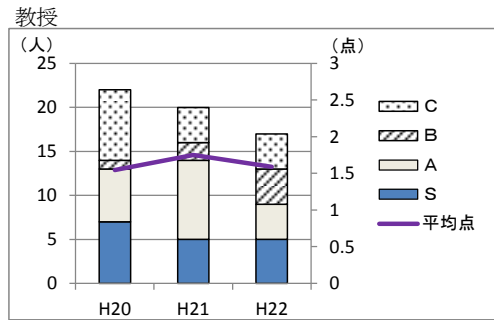
【評価の観点9】: 国・府・市町村等の委員会への参画により、行政課題に対応した研究・提言を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		経済学部			経済学科			経営学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	7	5	5	2	3	2	5	2	3
	准教授・講師	4	2	2	3	1	0	1	1	2
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A	教授	6	9	4	4	4	2	2	5	2
	准教授・講師	3	1	7	2	1	5	1	0	2
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B	教授	1	2	4	1	1	2	0	1	2
	准教授・講師	4	5	4	3	5	2	1	0	2
	助教・助手	0	1	1	0	0	0	0	1	1
C	教授	8	4	4	3	1	3	5	3	1
	准教授・講師	6	9	5	4	5	3	2	4	2
	助教・助手	0	1	1	0	0	0	0	1	1
平均点	教授	1.5	1.8	1.6	1.5	2.0	1.3	1.6	1.5	1.9
	准教授・講師	1.3	0.8	1.3	1.3	0.8	1.2	1.2	0.6	1.5
	助教・助手	-	0.5	0.5	-	-	-	-	0.5	0.5

【グラフ】



【特記事項】

特に教授レベルの教員が国・府・市町村等の委員会への参画により、行政課題に対応した研究・提言を積極的に行っている。

(2) 地域に密着した学習支援活動

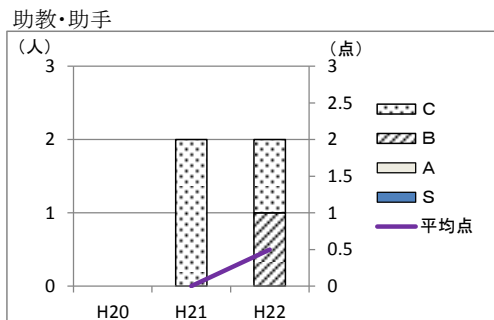
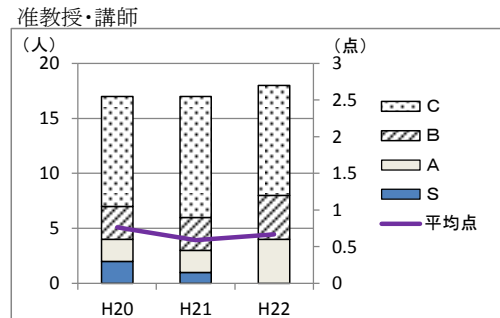
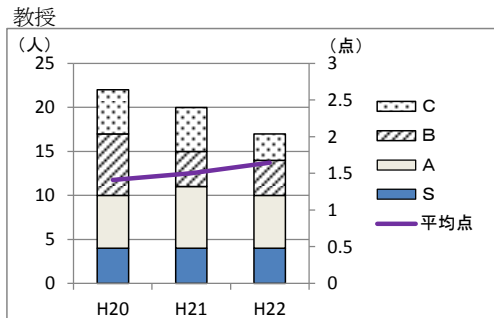
【評価の観点10】: 社会人向けの公開講座、高大連携講座等を通じて、地域に密着した学習支援活動を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		経済学部			経済学科			経営学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	4	4	4	3	0	1	1	4	3
	准教授・講師	2	1	0	1	1	0	1	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A	教授	6	7	6	1	2	1	5	5	5
	准教授・講師	2	2	4	1	0	1	1	2	3
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B	教授	7	4	4	3	4	4	4	0	0
	准教授・講師	3	3	4	2	3	2	1	0	2
	助教・助手	0	0	1	0	0	0	0	0	1
C	教授	5	5	3	3	3	3	2	2	0
	准教授・講師	10	11	10	8	8	7	2	3	3
	助教・助手	0	2	1	0	0	0	0	2	1
平均点	教授	1.4	1.5	1.6	1.4	0.9	1.0	1.4	2.0	2.4
	准教授・講師	0.8	0.6	0.7	0.6	0.5	0.4	1.2	0.8	1.0
	助教・助手	-	0.0	0.5	-	-	-	-	0.0	0.5

【グラフ】



【特記事項】

特に経営学科の教員が社会人向けの公開講座、高大連携講座等を通じて、地域に密着した学習支援活動を積極的に行っていると評価している。学問上の特性により、経済学科の教員の地域に密着した学習支援活動の評価が低くなっている。

【社会貢献活動についての分析結果】

教授レベルの教員以外の若手教員が、国・府・市町村等の委員会へ参画することは事実上困難であり、それを除けば、おおむね社会貢献活動も積極的に行っていると評価できる。ただ、経済学科の教員の地域密着型の学習支援を学問の特性を踏まえてどのように展開するかが今後の課題であろう。

4. 大学運営活動

(1) 各種委員会活動

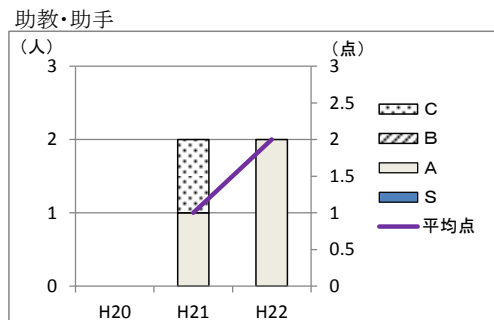
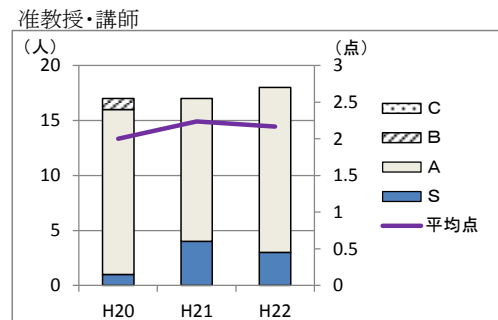
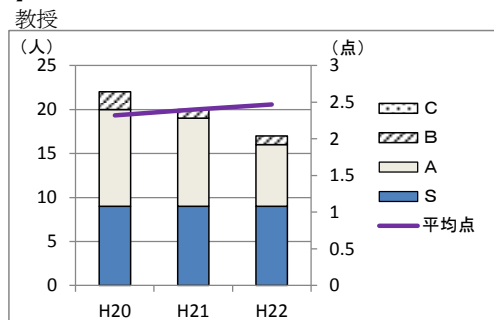
【評価の観点11】: 大学、学部等の各種委員会等に参画し、その運営に寄与したか。

S(3点): 十分に寄与した A(2点): 寄与した B(1点): あまり寄与しなかった C(0点): 寄与しなかった

(人)

		経済学部			経済学科			経営学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	9	9	9	4	5	5	5	4	4
	准教授・講師	1	4	3		3	1	1	1	2
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A	教授	11	10	7	4	3	3	7	7	4
	准教授・講師	15	13	15	12	9	9	3	4	6
	助教・助手	0	1	2	0	0	0	0	1	2
B	教授	2	1	1	2	1	1	0	0	0
	准教授・講師	1	0	0	0	0	0	1	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	1	0	0	0	0	0	1	0
平均点	教授	2.3	2.4	2.5	2.2	2.4	2.4	2.4	2.4	2.5
	准教授・講師	2.0	2.2	2.2	2.0	2.3	2.1	2.0	2.2	2.3
	助教・助手	-	1.0	2.0	-	-	-	-	1.0	2.0

【グラフ】



【特記事項】

全般的に高い評価が得られている。

【大学運営活動についての分析結果】

学科、職階を問わず、高いレベルで大学運営活動が行われている。

■学部・研究科等固有の項目

○経済学部

2-(4) 共同研究、受託研究、奨励寄附金の獲得状況

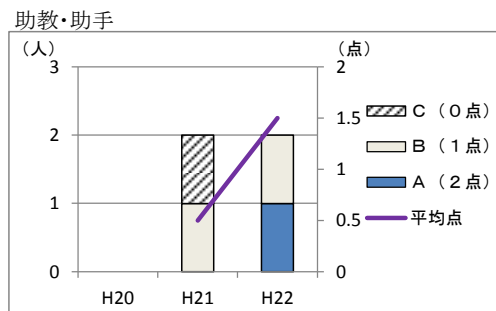
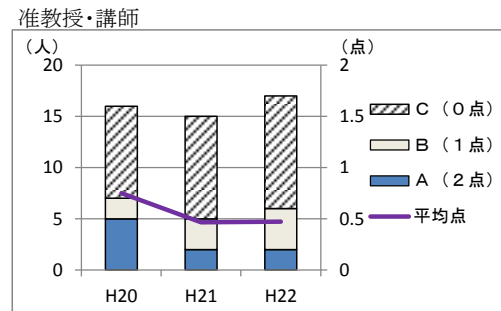
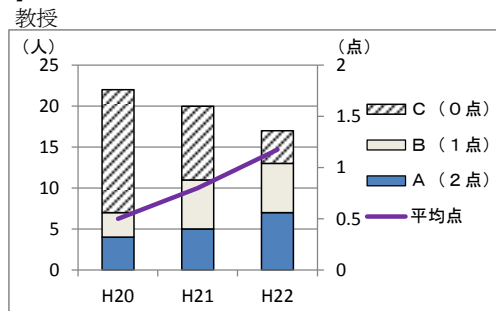
【評価の観点】：共同研究、受託研究、奨励寄附金獲得に努めたか。

A(2点):積極的に努力した B(1点):努力した C(0点):十分にできなかった

(人)

		経済学部			経済学科			経営学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授	4	5	7	0	1	2	4	4	5
	准教授・講師	5	2	2	4	1	0	1	1	2
	助教・助手	0	0	1	0	0	0	0	0	1
B	教授	3	6	6	1	4	4	2	2	2
	准教授・講師	2	3	4	1	2	2	1	1	2
	助教・助手	0	1	1	0	0	0	0	1	1
C	教授	15	9	4	9	4	3	6	5	1
	准教授・講師	9	10	11	6	7	7	3	3	4
	助教・助手	0	1	0	0	0	0	0	1	0
平均点	教授	0.5	0.8	1.2	0.1	0.7	0.9	0.8	0.9	1.5
	准教授・講師	0.8	0.5	0.5	0.8	0.4	0.2	0.6	0.6	0.8
	助教・助手	-	0.5	1.5	-	-	-	-	0.5	1.5

【グラフ】



【特記事項】

共同研究、受託研究、奨励寄附金の獲得に努めてはいるものの、獲得までには至っていないケースが多い。ただこれらの研究は相手があることなので、教員の努力だけで成果が出るものではなく、情報収集などサポート体制の充実が望まれる。

第6節 人間社会学部

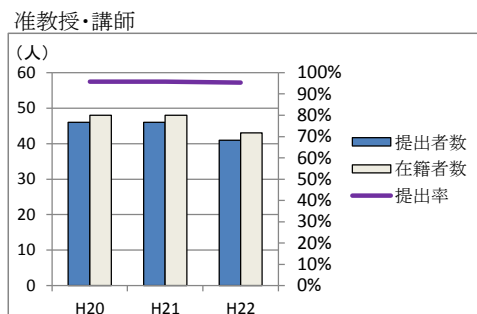
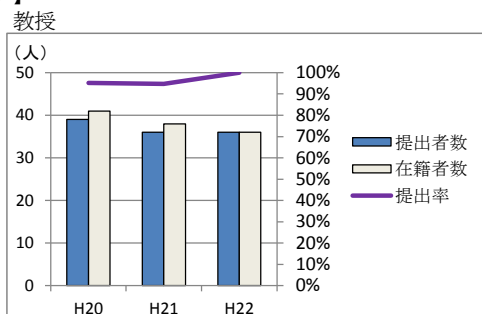
■教員活動自己点検・評価報告書の提出率

(人)

	人間社会学部						言語文化学科						人間科学学科					
	H20		H21		H22		H20		H21		H22		H20		H21		H22	
	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数
教授	39	41	36	38	36	36	11	11	11	11	11	11	22	22	20	20	20	20
	提出率	95.1%	提出率	94.7%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
准教授・講師	46	48	46	48	41	43	16	16	16	16	13	13	19	20	19	20	18	19
	提出率	95.8%	提出率	95.8%	提出率	95.3%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	95.0%	提出率	95.0%	提出率	94.7%
助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	提出率	-	提出率	-	提出率	-	提出率	-	提出率	-	提出率	-	提出率	-	提出率	-	提出率	-
合計	85	89	82	86	77	79	27	27	27	27	24	24	41	42	39	40	38	39
	提出率	95.5%	提出率	95.3%	提出率	97.5%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	97.6%	提出率	97.5%	提出率	97.4%

	社会福祉学科			
	H20		H21	
	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数
教授	7	8	5	7
	提出率	87.5%	提出率	71.4%
准教授・講師	10	12	11	12
	提出率	83.3%	提出率	91.7%
助教・助手	-	-	-	-
	提出率	-	提出率	-
合計	17	20	16	19
	提出率	85.0%	提出率	84.2%

【グラフ】



【教員活動自己点検・評価報告書の提出率についての分析結果】

提出率は高いと言いきらる。不提出者は、20年～22年で、それぞれ4人、4人、2人であった。休職、在外研修など、提出しにくい状況にあったケースはやむを得ないとする。なお、不提出者中、休職していた者、不明の者併せて2人は、22年度末にはすでに退職している。

■教員活動自己点検・評価実施基準(全学実施基準)

1. 教育活動

(1) 授業活動

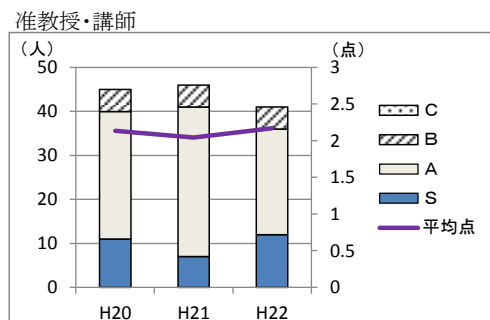
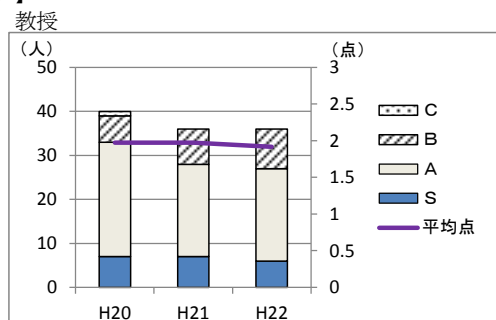
【評価の観点1】: 学部等が掲げる教育目的のもと、個々の授業目標に従って、授業展開を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		人間社会学部			言語文化学科			人間科学科			社会福祉学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	7	7	6	1	1	1	4	5	5	2	1	0
	准教授・講師	11	7	12	2	2	2	6	3	6	3	2	4
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	26	21	21	9	7	7	14	11	11	3	3	3
	准教授・講師	29	34	24	11	12	9	12	16	10	6	6	5
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	6	8	9	1	3	3	3	4	4	2	1	2
	准教授・講師	5	5	5	3	2	2	1	0	2	1	3	1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	2.0	2.0	1.9	2.0	1.8	1.8	2.0	2.1	2.1	2.0	2.0	1.6
	准教授・講師	2.1	2.0	2.2	1.9	2.0	2.0	2.3	2.2	2.2	2.2	1.9	2.3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

学部全体として、中間値より比較的高い平均点を示している。職階別では、教授より、准教授+講師のほうがおおむね高い自己評価をしている。20-22年の経年変化を見ると、3年目で准教授+講師の評価値が少々上昇しているが、有意の変化であるかは不明。学科間の違いは、特に認められない。

(2) 教育改善活動

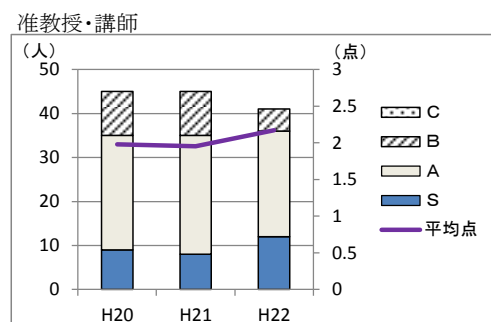
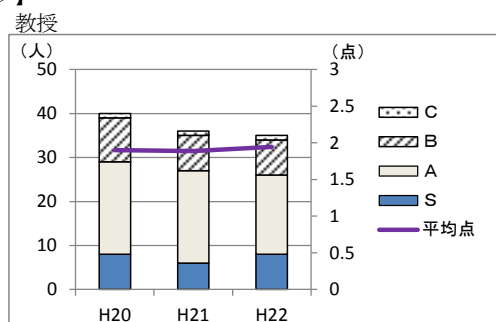
【評価の観点2】: 学部等が掲げる教育目的に応じた授業内容、教材、教授技術等の改善を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		人間社会学部			言語文化学科			人間科学科			社会福祉学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	8	6	8	0	2	2	6	4	6	2	0	0
	准教授・講師	9	8	12	2	3	3	4	3	6	3	2	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	21	21	18	8	5	7	9	11	7	4	5	4
	准教授・講師	26	27	24	11	10	9	10	12	10	5	5	5
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	10	8	8	3	3	1	6	5	6	1	0	1
	准教授・講師	10	10	5	3	3	1	5	4	2	2	3	2
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	1	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	1.9	1.9	1.9	1.7	1.7	2.1	1.9	2.0	1.9	2.1	2.0	1.8
	准教授・講師	2.0	2.0	2.2	1.9	2.0	2.2	1.9	1.9	2.2	2.1	1.9	2.1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

学部全体として、中間値より比較的高い平均点を示している。職階別では、教授より、准教授+講師のほうがおおむね高い自己評価をしている。20-22年の経年変化を見ると、教授では少々低下の傾向、准教授+講師では少々上昇の傾向が認められるが、有意の変化であるかは不明。学科間の違いは、特に認められない。

(3) 研究指導活動

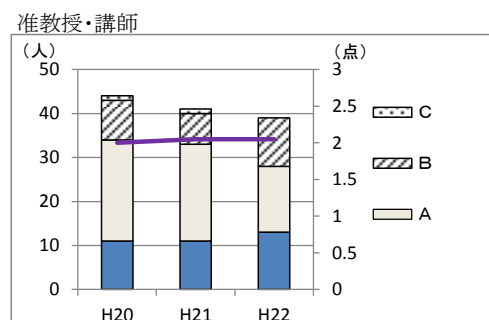
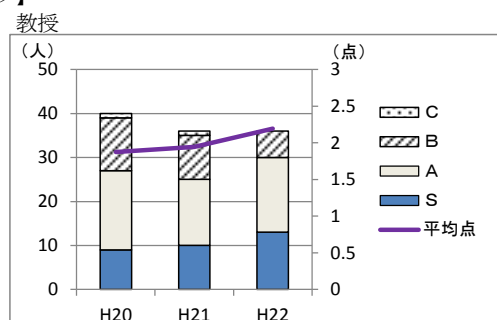
【評価の観点3】: 学位取得に向けた指導を積極的に行ったか。(研究指導活動を行わない教員は除く)

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		人間社会学部			言語文化学科			人間科学科			社会福祉学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	9	10	13	2	3	4	5	4	7	2	3	2
	准教授・講師	11	11	13	3	4	3	6	5	7	2	2	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	18	15	17	7	4	5	9	10	9	2	1	3
	准教授・講師	23	22	15	7	6	4	11	10	6	5	6	5
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	12	10	6	2	4	2	7	5	4	3	1	0
	准教授・講師	9	7	11	6	4	5	1	1	4	2	2	2
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	准教授・講師	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	1.9	1.9	2.2	2.0	1.9	2.2	1.8	1.9	2.2	1.9	2.4	2.4
	准教授・講師	2.0	2.0	2.1	1.8	2.0	1.8	2.2	2.3	2.2	2.0	1.8	2.1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

学部全体として、中間値を大きく上回る平均点となっている。職階別では、教授のほうが、准教授+講師よりもおおむね高い自己評価をしている。これは、大学院指導学生数が反映したものと推測される。教授について見ると、20年～22年と経年で自己評価はかなり上昇している。学科間の平均点の違いに有意性があるかは不明。

【教育活動についての分析結果】

いずれも、学部全体として、中間値より高い平均点を示している。職階別では、(1)(2)では、教授より、准教授+講師のほうが高い自己評価をしているのに対して、(3)では、教授のほうが高い自己評価をしている。これは、教授の職にある者のほうが大学院指導学生が多いという当然の状況を反映していると思われる。つまり、属人的な努力の多寡の問題というより、職階が上がれば指導の機会が増えることを示していると見るべきだろう。

2. 研究活動

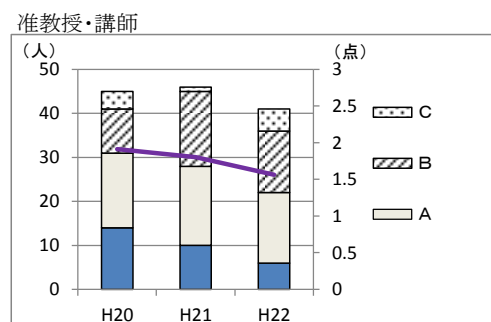
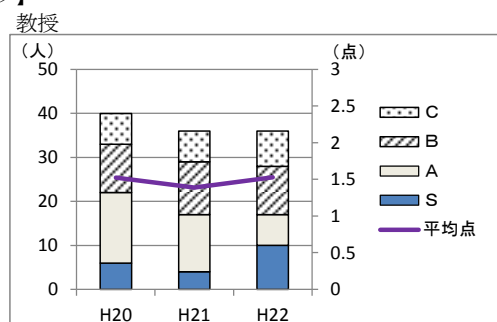
(1) 学術論文等による研究発表活動

【評価の観点4】: 学術論文等による研究発表活動を活発に行ったか。

S(3点): 非常に活発であった A(2点): 活発であった B(1点): 普通であった C(0点): 活発でなかった

		人間社会学部			言語文化学科			人間科学科			社会福祉学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	6	4	10	2	1	3	2	3	5	2	0	2
	准教授・講師	14	10	6	5	3	1	5	2	4	4	5	1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	16	13	7	5	5	3	10	6	4	1	2	0
	准教授・講師	17	18	16	6	6	5	8	10	8	3	2	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	11	12	11	3	2	3	4	7	5	4	3	3
	准教授・講師	10	17	14	3	6	5	5	7	5	2	4	4
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	7	7	8	1	3	2	6	4	6	0	0	0
	准教授・講師	4	1	5	2	1	2	1	0	1	1	0	2
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	1.5	1.4	1.5	1.7	1.4	1.6	1.4	1.4	1.4	1.7	1.4	1.8
	准教授・講師	1.9	1.8	1.6	1.9	1.7	1.4	1.9	1.7	1.8	2.0	2.1	1.3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

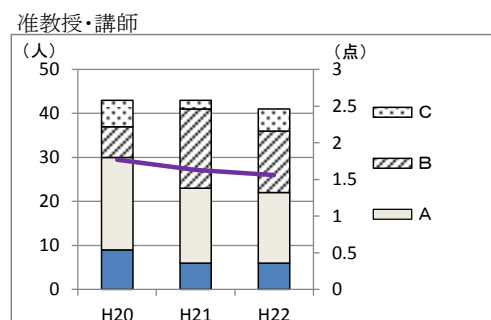
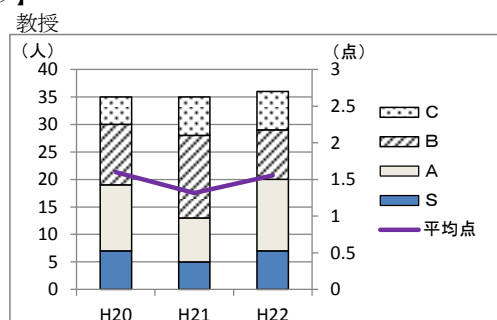
学部全体として、中間値を上回る平均点を示している。職階別に見ると、教授よりも、准教授＋講師のほうが、おおむね高い自己評価をしている。20年－22年の経年変化を見ると、教授、准教授＋講師ともに、少々低下の傾向にある。3学科とも、年度別、職階別に見て、近い数値を示している。

【評価の観点5】: 学術論文等により、質の高い研究発表活動がなされたか。

S(3点): 特段に高い質が確保された A(2点): 高い質が確保された B(1点): 普通であった C(0点): 不十分であった

		人間社会学部			言語文化学科			人間科学科			社会福祉学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	7	5	7	2	1	1	3	4	5	2	0	1
	准教授・講師	9	6	6	2	1	2	5	3	4	2	2	0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	12	8	13	5	3	6	6	4	5	1	1	2
	准教授・講師	21	17	16	7	6	7	11	8	6	3	3	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	11	15	9	4	4	3	4	7	4	3	4	2
	准教授・講師	7	18	14	3	8	3	2	7	6	2	3	5
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	5	7	7	0	3	1	5	4	6	0	0	0
	准教授・講師	6	2	5	3	0	1	1	0	2	2	2	2
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	1.6	1.3	1.6	1.8	1.2	1.6	1.4	1.4	1.5	1.8	1.2	1.8
	准教授・講師	1.8	1.6	1.6	1.5	1.5	1.8	2.1	1.8	1.7	1.6	1.5	1.1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

学部全体として、中間値に近い平均点を示している。職階別に見ると、教授より、准教授＋講師のほうが高い年度、学科、その逆の年度、学科が入り混じり、有意の違いは認められない。20－22年の経年変化を見ると、職階、学科で上昇も低下もあり、その意味は不明。

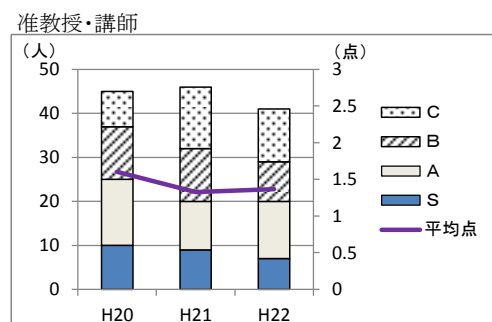
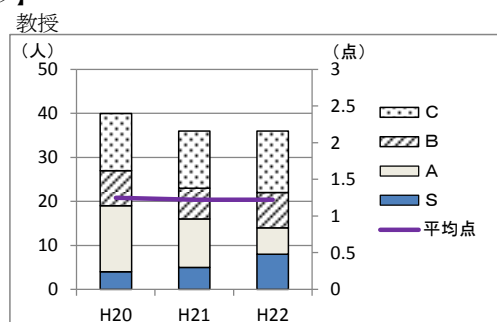
(2) 学会等における研究発表活動

【評価の観点6】: 学術講演、学会発表による研究発表活動を活発に行ったか。

S(3点): 非常に活発であった A(2点): 活発であった B(1点): 普通であった C(0点): 活発でなかった

		人間社会学部			言語文化学科			人間科学科			社会福祉学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	4	5	8	0	2	1	3	3	6	1	0	1
	准教授・講師	10	9	7	0	1	1	5	5	3	5	3	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	15	11	6	4	3	2	10	6	2	1	2	2
	准教授・講師	15	11	13	6	4	5	7	4	6	2	3	2
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	8	7	8	1	2	2	4	3	5	3	2	1
	准教授・講師	12	12	9	4	4	1	5	7	5	3	1	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	13	13	14	6	4	6	5	8	7	2	1	1
	准教授・講師	8	14	12	6	7	6	2	3	4	0	4	2
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	1.3	1.2	1.2	0.8	1.3	0.8	1.5	1.2	1.4	1.1	1.2	1.6
	准教授・講師	1.6	1.3	1.4	1.0	0.9	1.1	1.8	1.6	1.4	2.2	1.5	1.6
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

学部全体として、中間値を下回る平均点を示している。職階別では、教授より、准教授＋講師のほうが高い自己評価をしている。20－22年の経年変化を見ると、3年目で教授にあつては少々上昇、准教授＋講師にあつては低下している。学科間で有意の違いは認められない。

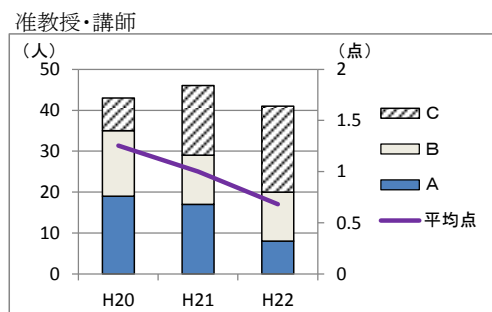
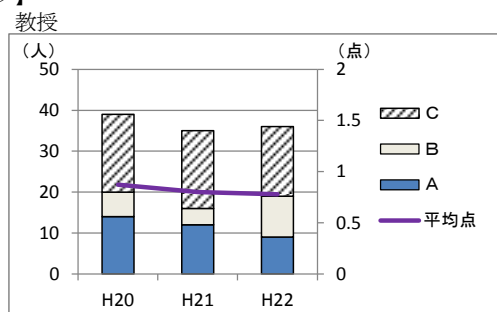
(3) 競争的資金の申請・獲得状況

【評価の観点7】: 競争的資金獲得のため、代表者として積極的に申請したか。

A(2点): 積極的に申請した B(1点): 申請した C(0点): 申請しなかった

		人間社会学部			言語文化学科			人間科学科			社会福祉学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授	14	12	9	4	4	3	8	5	5	2	3	1
	准教授・講師	19	17	8	6	4	2	9	9	4	4	4	2
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	6	4	10	1	0	1	3	3	6	2	1	3
	准教授・講師	16	12	12	8	8	3	4	3	5	4	1	4
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	19	19	17	6	6	7	10	12	9	3	1	1
	准教授・講師	8	17	21	2	4	8	5	7	9	1	6	4
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	0.9	0.8	0.8	0.8	0.8	0.6	0.9	0.7	0.8	0.9	1.4	1.0
	准教授・講師	1.3	1.0	0.7	1.3	1.0	0.5	1.2	1.1	0.7	1.3	0.8	0.8
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

学部全体として、中間値より低めの平均点を示している。職階別では、教授より、准教授＋講師のほうがおおむね高い自己評価をしていたのが、3年目には逆転していると見える。わずか3年の経年変化の有意性は不明とすべきだろう。むしろ、20－22年の経年変化で、いずれの職階でも自己評価が低下していることが目をひく。しかし、同時期における競争的資金(科研費とGP)獲得額を見ると、20年度9001.2万、21年度8057.3万、22年度8226.9万となっており、自己評価は、獲得額増減の現実を反映するものでないことがわかる。

【評価の観点8】:競争的資金の申請を行った結果、採択されたか。

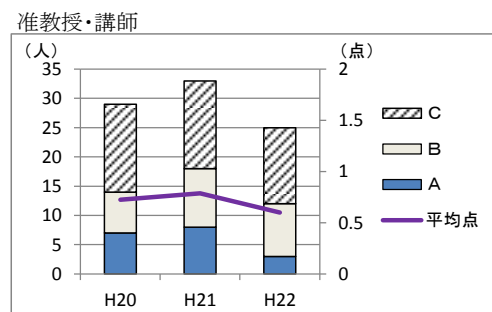
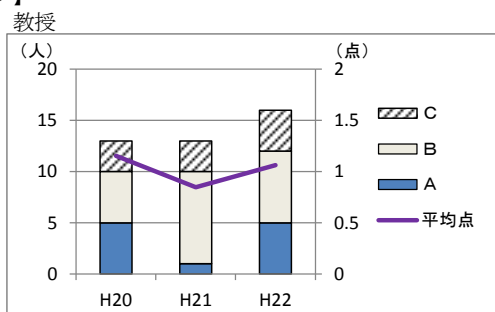
注1. 競争的資金とは、科研費、国プロジェクト、NEDO、JSTなど、公募によるものをいう。

注2. 申請とは、新規申請のことをいう。

A(2点):複数採択された B(1点):採択された C(0点):採択されなかった

		人間社会学部			言語文化学科			人間科学科			社会福祉学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授	5	1	5	1	1	1	2	1	2	2	0	2
	准教授・講師	7	8	3	1	2	1	1	4	1	3	3	1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	5	9	7	1	1	1	4	5	4	2	4	3
	准教授・講師	7	10	9	3	6	3	5	5	9	2	2	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	3	3	4	1	3	4	5	6	6	1	0	0
	准教授・講師	15	15	13	11	7	7	8	6	5	2	4	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	1.2	0.8	1.1	1.0	0.6	0.5	0.7	0.6	0.7	1.2	1.0	1.4
	准教授・講師	0.7	0.8	0.6	0.3	0.7	0.5	0.5	0.9	0.7	1.1	0.9	0.7
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

学部全体として、中間値を下回る平均点を示している。職種別では、社会福祉学科においては、教授のほうが、准教授＋講師より高い数値となっている。言語文化学科、人間科学科においては、教授より、准教授＋講師のほうが高い数値を示している。20－22年の経年変化の有意性は不明。採択の有無という動かしがたい事実について、自己評価させることに意味があるかどうかは疑問である。

研究費用についての自己評価項目が競争的資金に限られているが、補助金、受託研究、寄付金といった外部資金の獲得も、本学部教員のそれまでの研究成果が評価されてこそ実現したものである。これらを科研費、GPに加えると、本学部教員が得た外部資金は、20年度9893.0万、21年度8057.3万、22年度1億219.4万であった。

【研究活動についての分析結果】

教育活動の自己評価に比べると、研究活動の自己評価は低い。たいていの教員は、研究活動の時間が十分にとれない、研究活動の展開が十分にできていないと言いたいと考えている。その結果として、研究活動についての自己評価が低くなる。それは、教員が自分の研究活動に不満を抱えていることを示しているのであって、研究活動が不活発であることを示しているわけではない。現在、研究活動についての自己評価が低いのは、教育活動のほか、委員会などの大学運営活動の職務などをこなすなかで、研究活動の時間が著しく削られている現状があるために、得心のいく研究が出来ていないと考えるからである。

3. 社会貢献活動

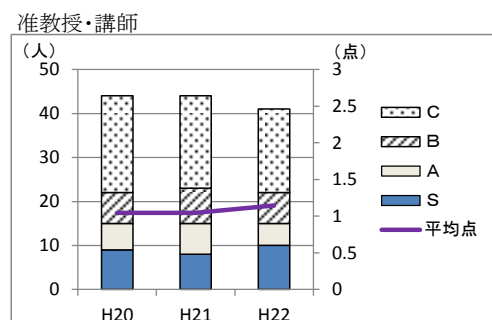
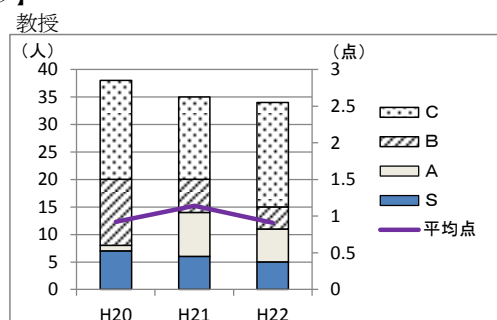
(1) 府等の委員会への参画活動

【評価の観点9】: 国・府・市町村等の委員会への参画により、行政課題に対応した研究・提言を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

		人間社会学部			言語文化学科			人間科学科			社会福祉学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	7	6	5	0	0	0	4	4	2	3	2	3
	准教授・講師	9	8	10	0	1	0	4	2	4	5	5	6
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	1	8	6	0	0	0	1	5	5	0	3	1
	准教授・講師	6	7	5	1	1	0	2	2	2	3	4	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	12	6	4	3	3	2	5	3	1	4	0	1
	准教授・講師	7	8	7	2	1	2	3	6	4	2	1	1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	18	15	19	6	7	7	12	8	12	0	0	0
	准教授・講師	22	21	19	12	11	11	10	9	8	0	1	0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	0.9	1.1	0.9	0.3	0.3	0.2	0.9	1.3	0.9	1.9	2.4	2.4
	准教授・講師	1.0	1.0	1.1	0.3	0.4	0.2	1.0	0.8	1.1	2.3	2.2	2.5
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

学部全体として、中間値より低い平均点を示している。社会福祉学科の数値が高いのは、その研究領域の特性上、当然のことと思われる。20-22年の経年変化を見ると、3年目でわずかに上昇しているが、その有意性は不明。

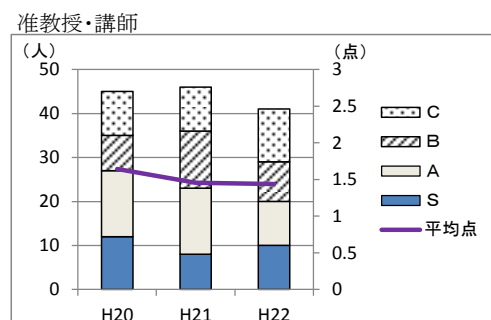
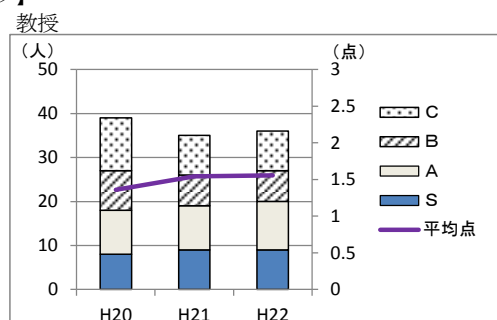
(2) 地域に密着した学習支援活動

【評価の観点10】: 社会人向けの公開講座、高大連携講座等を通じて、地域に密着した学習支援活動を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

		人間社会学部			言語文化学科			人間科学科			社会福祉学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	8	9	9	0	0	0	5	8	7	3	1	2
	准教授・講師	12	8	10	2	1	1	5	3	2	5	4	7
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	10	10	11	2	4	4	6	5	6	2	1	1
	准教授・講師	15	15	10	5	5	3	6	5	6	4	5	1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	9	7	7	4	2	1	4	2	4	1	3	2
	准教授・講師	8	13	9	2	3	3	5	8	5	1	2	1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	12	9	9	4	4	6	7	5	3	1	0	0
	准教授・講師	10	10	12	7	7	6	3	3	5	0	0	1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	1.4	1.5	1.6	0.8	1.0	0.8	1.4	1.8	1.9	2.0	1.6	2.0
	准教授・講師	1.6	1.5	1.4	1.1	1.0	0.9	1.7	1.4	1.3	2.4	2.2	2.4
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

学部全体として、中間値より平均点が高い年度も低い年度もある。職階別では、教授より、准教授＋講師のほうがおおむね高い自己評価をしている。20－22年の経年変化を見ると、教授は少々上昇、准教授＋講師は少々低下している。学科別に見ると、社会福祉学科の評価値の高さが目をひくが、たとえば授業公開数では言語文化学科、人間科学科のほうが多く、自己評価と現実との相関性は曖昧である。

【社会貢献活動についての分析結果】

府等への委員会への参画は、行政課題との直接的関連性が薄い研究領域の場合、当然ながらそもそも依頼が少ない。本学部にあつては、行政課題との強い関連性を有するのが社会福祉学科であり、同学科の教員は、依頼によく応じて、数多くの学外委員会に参画、協力している。地域に密着した学習支援活動については、本学部では、授業公開、府民教養講座をはじめとして、女性学研究センターの連続講演会、連続セミナー、上方文化研究センター講演会など、企画、実施に積極的にとりくんできた。

4. 大学運営活動

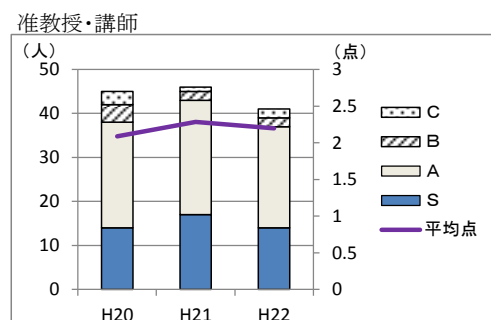
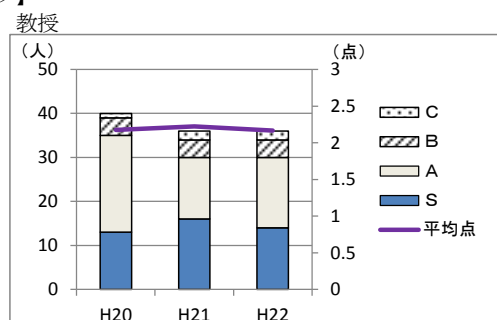
(1) 各種委員会活動

【評価の観点11】: 大学、学部等の各種委員会等に参画し、その運営に寄与したか。

S(3点): 十分に寄与した A(2点): 寄与した B(1点): あまり寄与しなかった C(0点): 寄与しなかった

		人間社会学部			言語文化学科			人間科学科			社会福祉学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	13	16	14	4	2	3	6	10	10	3	4	1
	准教授・講師	14	17	14	3	4	4	7	10	7	4	3	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	22	14	16	7	6	6	12	7	7	3	1	3
	准教授・講師	24	26	23	11	11	8	8	7	9	5	8	6
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	4	4	4	0	2	1	3	2	2	1	0	1
	准教授・講師	4	2	2	1	1	1	2	1	0	1	0	1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	1	2	2	0	1	1	1	1	1	0	0	0
	准教授・講師	3	1	2	1	0	0	2	1	2	0	0	0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	2.2	2.2	2.2	2.4	1.8	2.0	2.0	2.3	2.3	2.3	2.8	2.0
	准教授・講師	2.1	2.3	2.2	2.0	2.2	2.2	2.1	2.4	2.2	2.3	2.3	2.2
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

学部全体として、中間値を大きく上回る平均点を示している。職階別では、教授のほうが評価点が高い年度、学科もあれば、准教授+講師のほうが高い年度、学科もある。両者の評価点は近いというのがこの項目の特徴だろう。20-22年の経年変化に有意性は認められない。学科間の違いも、特に認められない。

【大学運営活動についての分析結果】

調査項目中で最も高い平均点を示している。この高評価は、教育・研究に関する自己評価の相対的低さを考えると、意味するところは複雑だろう。大学運営への寄与に関する自己評価の高さは、誇らしく高評価をしているというよりは、ここに時間をとられている以上、せめてここは高い評価をしておこうという、自己憐憫的ないしは冷笑的な姿勢の表われであり、研究についての自己評価の低さと反比例で連動していると考えられるかもしれないからだ。

■学部・研究科等固有の項目

○人間社会学部

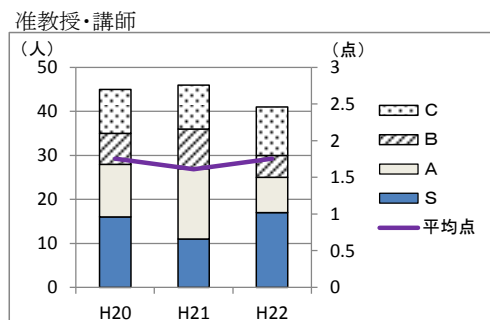
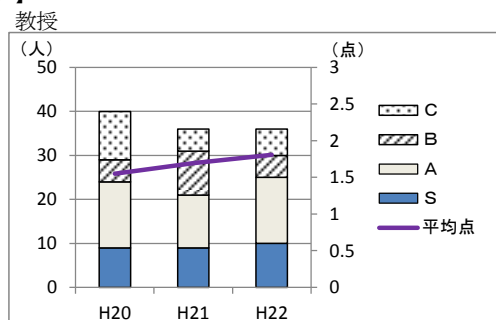
2-(3)学会等における貢献状況

【評価の観点】:役員・理事・委員や学会誌・学術的ジャーナルの編集委員・査読者などとして、学会等に貢献したか。

S(3点):十分に寄与した A(2点):寄与した B(1点):あまり寄与しなかった C(0点):寄与しなかった

		人間社会学部			言語文化学科			人間科学科			社会福祉学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	9	9	10	2	1	3	4	6	6	3	2	1
	准教授・講師	16	11	17	4	2	4	7	6	9	5	3	4
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	15	12	15	6	6	6	7	6	6	2	0	3
	准教授・講師	12	16	8	6	7	4	4	4	1	2	5	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	5	10	5	0	2	0	4	6	5	1	2	0
	准教授・講師	7	9	5	1	3	1	5	5	4	1	1	0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	11	5	6	3	2	2	7	2	3	1	1	1
	准教授・講師	10	10	11	5	4	4	3	4	4	2	2	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	1.6	1.7	1.8	1.6	1.5	1.9	1.4	1.8	1.8	2.0	1.6	1.8
	准教授・講師	1.8	1.6	1.8	1.6	1.4	1.6	1.8	1.6	1.8	2.0	1.8	1.8
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

文系学問においては、論文の被引用度数で研究業績を測定するといった方法は、現実的な評価方法ではない。むしろ学会活動、学術誌での編集・査読というかたちで専門知の提供を求められているかということが、研究業績への評価についての指標となる。それが、本学部でこれを評価項目とした理由である。

学部全体として、中間値よりは高い平均点を示している。職階別に、教授と、准教授・講師を比較すると、言語文化学科においては、3年を通じて教授のほうが高い自己評価をしているのに対して、人間科学科と社会福祉学科では、はっきりした傾向はない。学科間の違いに有意性があるかどうかは不明である。むしろ、学部全体の職階別自己評価で、教授と、准教授・講師の評価点が近い数値で3年間推移している点の特徴と見るべきかもしれない。

第7節 看護学部

■教員活動自己点検・評価報告書の提出率

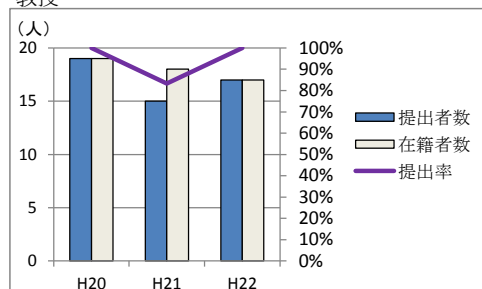
(人)

	看護学部					
	H20		H21		H22	
	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数
教授	19	19	15	18	17	17
	提出率	100.0%	提出率	83.3%	提出率	100.0%
准教授・講師	23	23	20	24	22	22
	提出率	100.0%	提出率	83.3%	提出率	100.0%
助教・助手	24	24	14	22	21	22
	提出率	100.0%	提出率	63.6%	提出率	95.5%
合計	66	66	49	64	60	61
	提出率	100.0%	提出率	76.6%	提出率	98.4%

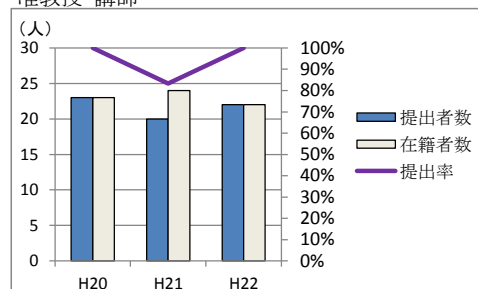
※提出がなかった主な理由 H21年 退職(10人)産休(3人)その他(病欠2人)
H22年 退職(0人)産休(0人)その他(病欠1人)

【グラフ】

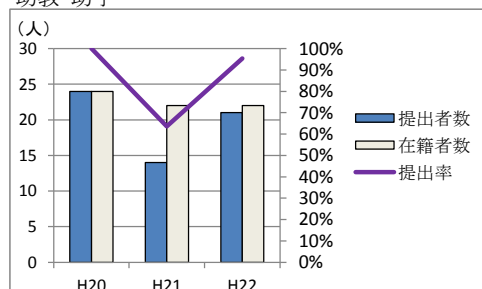
教授



准教授・講師



助教・助手



【教員活動自己点検・評価報告書の提出率についての分析結果】

平成20年度から22年度の在籍の教員のうち、平成20年度と22年度は病欠である教員を除き、全教員が提出した。平成21年度は退職教員、育児休業中等を除いた教員が教員活動自己点検評価を提出した。これは提出時期を平成21年度のみ次年度の5月としたため、退職教員の提出の確認が遅れたためである。教員の退職を考慮し、提出の時期や提出の確認が必要である。

■教員活動自己点検・評価実施基準(全学実施基準)

1. 教育活動

(1) 授業活動

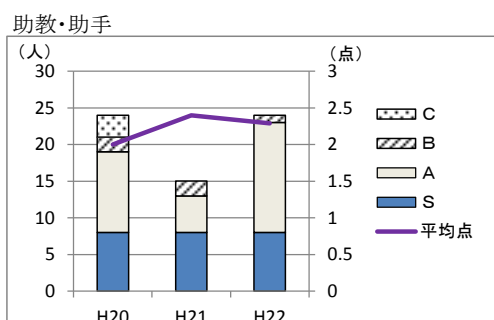
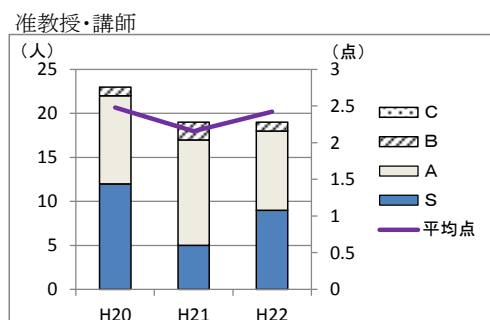
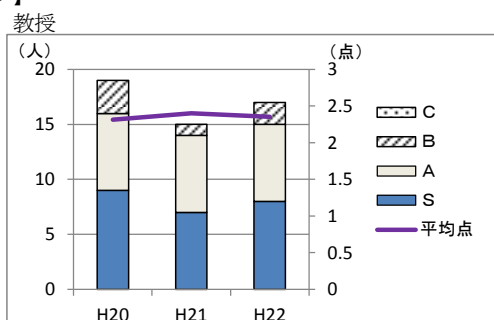
【評価の観点1】: 学部等が掲げる教育目的のもと、個々の授業目標に従って、授業展開を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		看護学部		
		H20	H21	H22
S	教授	9	7	8
	准教授・講師	12	5	9
	助教・助手	8	8	8
A	教授	7	7	7
	准教授・講師	10	12	9
	助教・助手	11	5	15
B	教授	3	1	2
	准教授・講師	1	2	1
	助教・助手	2	2	1
C	教授	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0
	助教・助手	3	0	0
平均点	教授	2.3	2.4	2.4
	准教授・講師	2.5	2.2	2.4
	助教・助手	2.0	2.4	2.3

【グラフ】



【特記事項】

教員活動の授業活動については、学部が掲げる教育目的のもと個々の授業目標に従った授業展開を、ほとんどの教員が非常に積極的または積極的に行っていた。職階別や年度による差もあまり認められない。

(2) 教育改善活動

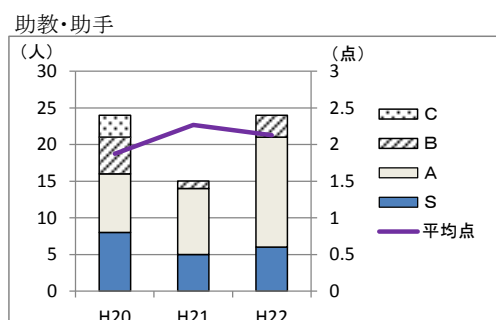
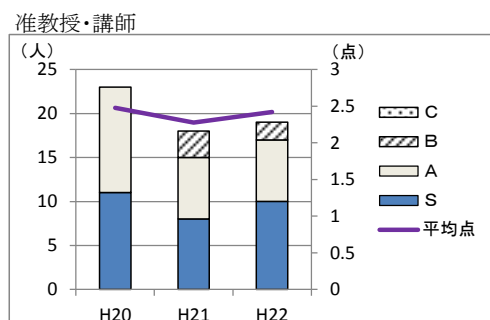
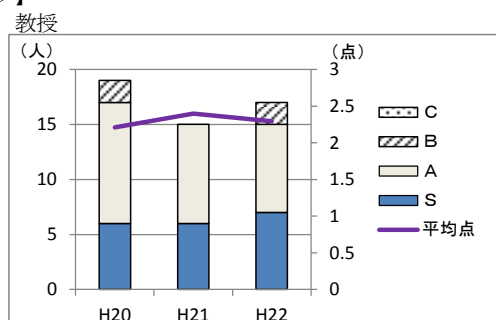
【評価の観点2】: 学部等が掲げる教育目的に応じた授業内容、教材、教授技術等の改善を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		看護学部		
		H20	H21	H22
S	教授	6	6	7
	准教授・講師	11	8	10
	助教・助手	8	5	6
A	教授	11	9	8
	准教授・講師	12	7	7
	助教・助手	8	9	15
B	教授	2	0	2
	准教授・講師	0	3	2
	助教・助手	5	1	3
C	教授	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0
	助教・助手	3	0	0
平均点	教授	2.2	2.4	2.3
	准教授・講師	2.5	2.3	2.4
	助教・助手	1.9	2.3	2.1

【グラフ】



【特記事項】

教育改善活動については、学部が掲げる教育目的に応じた授業内容、教材、教授技術等の改善をほとんどの教員が非常に積極的または積極的に行っていた。教育改善への取り組みの点数が低い年度または職階は、新任教員の採用が多い年度であった。特に平成20年度の助教の評価は低い次年度から回復し積極的に改善に取り組んでいるといえる。

(3) 研究指導活動

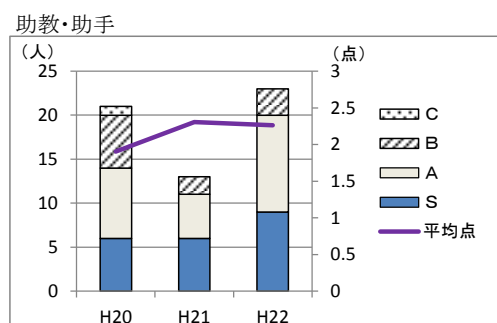
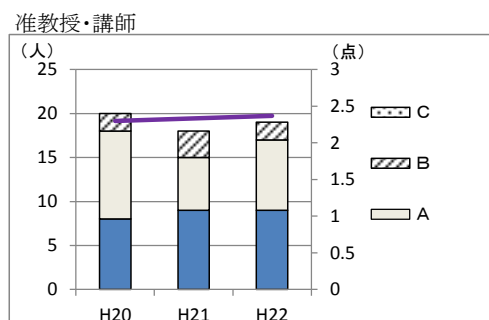
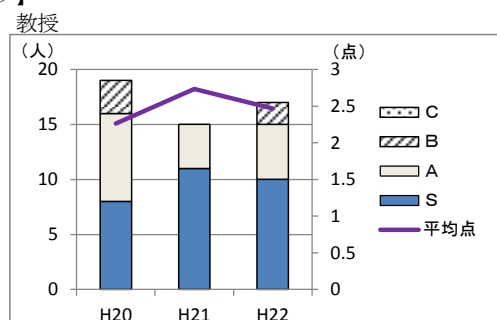
【評価の観点3】: 学位取得に向けた指導を積極的に行ったか。(研究指導活動を行わない教員は除く)

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		看護学部		
		H20	H21	H22
S	教授	8	11	10
	准教授・講師	8	9	9
	助教・助手	6	6	9
A	教授	8	4	5
	准教授・講師	10	6	8
	助教・助手	8	5	11
B	教授	3	0	2
	准教授・講師	2	3	2
	助教・助手	6	2	3
C	教授	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0
	助教・助手	1	0	0
平均点	教授	2.3	2.7	2.5
	准教授・講師	2.3	2.3	2.4
	助教・助手	1.9	2.3	2.3

【グラフ】



【特記事項】

研究指導活動についても、学位取得に向けた指導を教員が非常に積極的または積極的に行っていた。職階別では、助教の点数がやや低い、大学院教育に直接携わる教員が少ないためである。

【教育活動についての分析結果】

平成20年度から22年度を通して、看護学部の教員は教育活動全般にわたり大半の教員が積極的に教育活動を行っていた。

2. 研究活動

(1) 学術論文等による研究発表活動

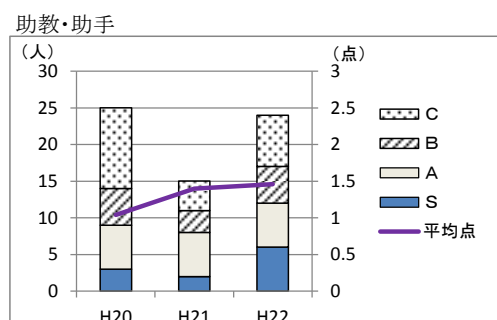
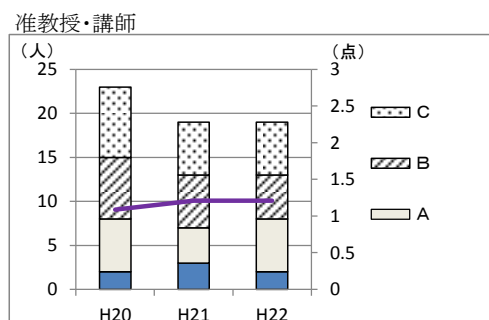
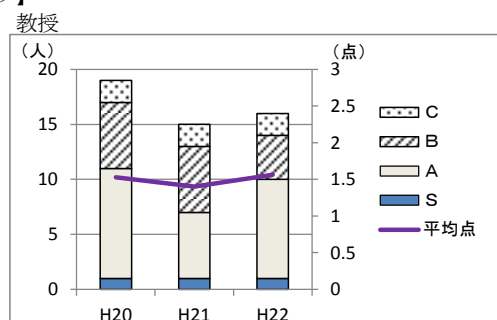
【評価の観点4】: 学術論文等による研究発表活動を活発に行ったか。

S(3点): 非常に活発であった A(2点): 活発であった B(1点): 普通であった C(0点): 活発でなかった

(人)

		看護学部		
		H20	H21	H22
S	教授	1	1	1
	准教授・講師	2	3	2
	助教・助手	3	2	6
A	教授	10	6	9
	准教授・講師	6	4	6
	助教・助手	6	6	6
B	教授	6	6	4
	准教授・講師	7	6	5
	助教・助手	5	3	5
C	教授	2	2	2
	准教授・講師	8	6	6
	助教・助手	11	4	7
平均点	教授	1.5	1.4	1.6
	准教授・講師	1.1	1.2	1.2
	助教・助手	1.0	1.4	1.5

【グラフ】



【特記事項】

研究活動に関して、学術論文等による研究発表活動は、42～50%の教員が非常に積極的または積極的に行い、23～30%の教員が普通に行っていた。

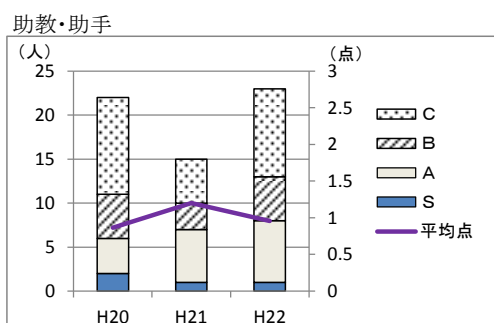
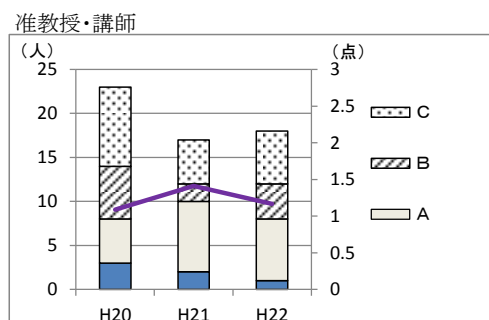
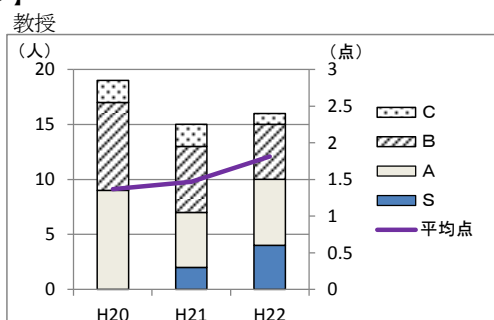
【評価の観点5】: 学術論文等により、質の高い研究発表活動がなされたか。

S(3点): 特段に高い質が確保された A(2点): 高い質が確保された B(1点): 普通であった C(0点): 不十分であった

(人)

		看護学部		
		H20	H21	H22
S	教授	0	2	4
	准教授・講師	3	2	1
	助教・助手	2	1	1
A	教授	9	5	6
	准教授・講師	5	8	7
	助教・助手	4	6	7
B	教授	8	6	5
	准教授・講師	6	2	4
	助教・助手	5	3	5
C	教授	2	2	1
	准教授・講師	9	5	6
	助教・助手	11	5	10
平均点	教授	1.4	1.5	1.8
	准教授・講師	1.1	1.4	1.2
	助教・助手	0.9	1.2	1.0

【グラフ】



【特記事項】

学術論文等による質の高い研究活動は、35～49%の教員が非常に積極的または積極的に行っていた。職階別にみると助教の点数が低いという結果であった。

(2) 学会等における研究発表活動

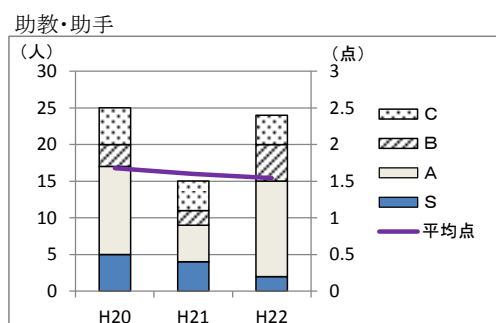
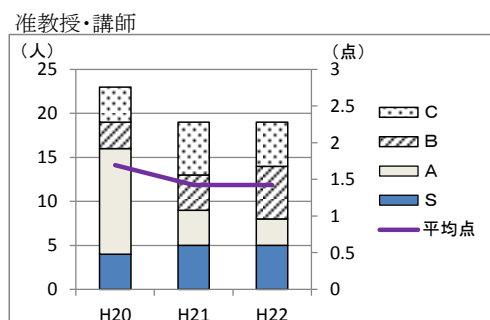
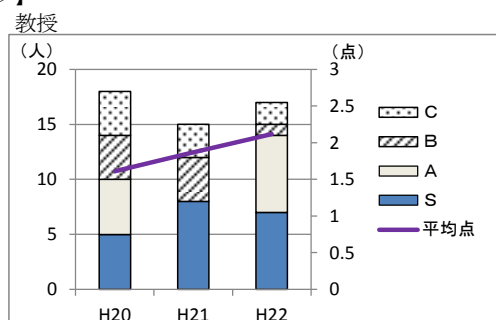
【評価の観点6】: 学術講演、学会発表による研究発表活動を活発に行ったか。

S(3点): 非常に活発であった A(2点): 活発であった B(1点): 普通であった C(0点): 活発でなかった

(人)

		看護学部		
		H20	H21	H22
S	教授	5	8	7
	准教授・講師	4	5	5
	助教・助手	5	4	2
A	教授	5	0	7
	准教授・講師	12	4	3
	助教・助手	12	5	13
B	教授	4	4	1
	准教授・講師	3	4	6
	助教・助手	3	2	5
C	教授	4	3	2
	准教授・講師	4	6	5
	助教・助手	5	4	4
平均点	教授	1.6	1.9	2.1
	准教授・講師	1.7	1.4	1.4
	助教・助手	1.7	1.6	1.5

【グラフ】



【特記事項】

学会等における発表活動は、53～65%の教員が非常に積極的または積極的に行い、15～20%の教員が普通に行っていた。

(3) 競争的資金の申請・獲得状況

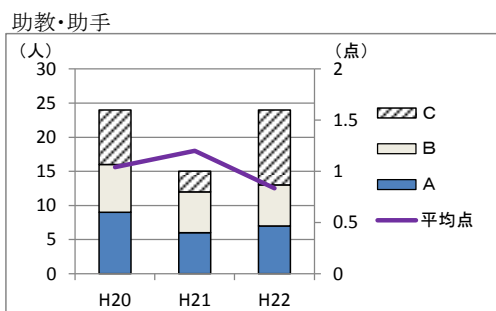
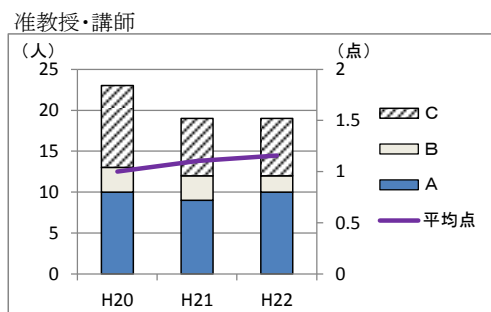
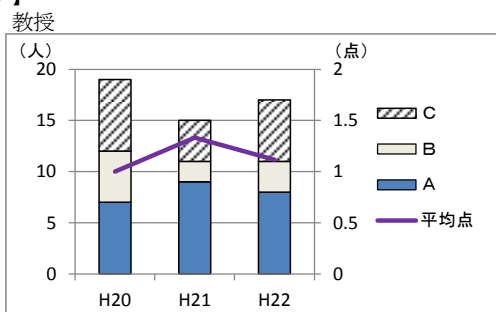
【評価の観点7】: 競争的資金獲得のため、代表者として積極的に申請したか。

A (2点): 積極的に申請した B (1点): 申請した C (0点): 申請しなかった

(人)

		看護学部		
		H20	H21	H22
A	教授	7	9	8
	准教授・講師	10	9	10
	助教・助手	9	6	7
B	教授	5	2	3
	准教授・講師	3	3	2
	助教・助手	7	6	6
C	教授	7	4	6
	准教授・講師	10	7	7
	助教・助手	8	3	11
平均点	教授	1.0	1.3	1.1
	准教授・講師	1.0	1.1	1.2
	助教・助手	1.0	1.2	0.8

【グラフ】



【特記事項】

競争的資金獲得のため代表者として積極的に申請または申請した教員は60～71%であった。新規申請しなかったものは、科研費が採択されているため、継続申請となっているものが多かったためである。

【評価の観点8】:競争的資金の申請を行った結果、採択されたか。

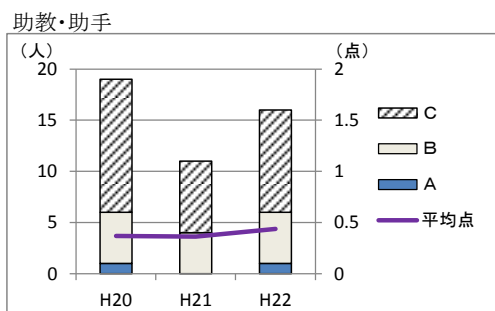
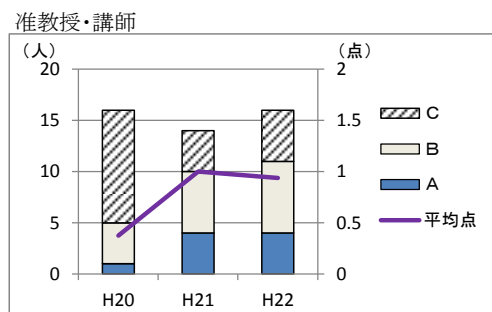
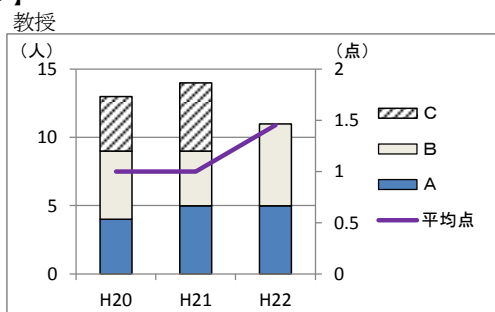
注1. 競争的資金とは、科研費、国プロジェクト、NEDO、JSTなど、公募によるものをいう。

注2. 申請とは、新規申請のことをいう。

A(2点):複数採択された B(1点):採択された C(0点):採択されなかった

		(人)		
		看護学部		
		H20	H21	H22
A	教授	4	5	5
	准教授・講師	1	4	4
	助教・助手	1	0	1
B	教授	5	4	6
	准教授・講師	4	6	7
	助教・助手	5	4	5
C	教授	4	5	0
	准教授・講師	11	4	5
	助教・助手	13	7	10
平均点	教授	1.0	1.0	1.5
	准教授・講師	0.4	1.0	0.9
	助教・助手	0.4	0.4	0.4

【グラフ】



【特記事項】

競争的資金を新規に獲得した教員は30～47%であった。科研費の継続申請のものが多いため、やや得点は低いですが、平成22年度では、職階別にみると教授は新規に申請し採択されている。

【研究活動についての分析結果】

研究活動において、約半数の教員は積極的に活動していた。競争的資金に関して、申請数は平成22年度に減少しているが、獲得率が高い。科研費の新規、継続の採択率は72%であり、今後は質の高い研究活動が実施されることが期待される。

3. 社会貢献活動

(1) 府等の委員会への参画活動

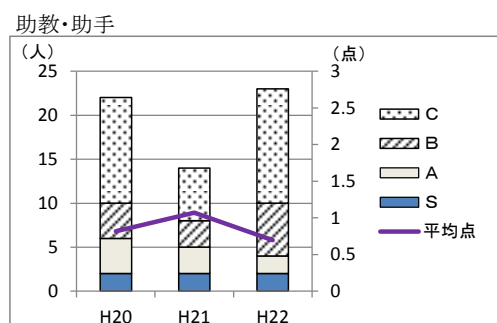
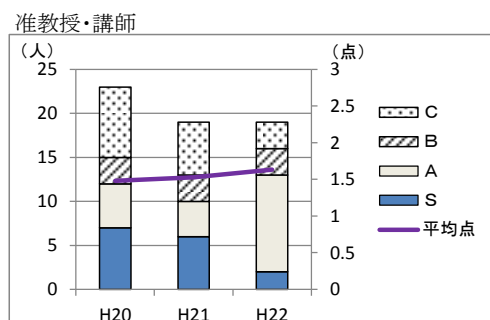
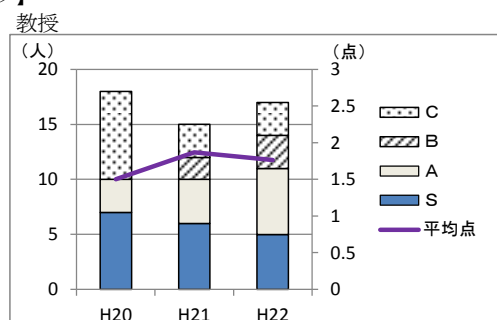
【評価の観点9】: 国・府・市町村等の委員会への参画により、行政課題に対応した研究・提言を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		看護学部		
		H20	H21	H22
S	教授	7	6	5
	准教授・講師	7	6	2
	助教・助手	2	2	2
A	教授	3	4	6
	准教授・講師	5	4	11
	助教・助手	4	3	2
B	教授	0	2	3
	准教授・講師	3	3	3
	助教・助手	4	3	6
C	教授	8	3	3
	准教授・講師	8	6	3
	助教・助手	12	6	13
平均点	教授	1.5	1.9	1.8
	准教授・講師	1.5	1.5	1.6
	助教・助手	0.8	1.1	0.7

【グラフ】



【特記事項】

社会貢献活動に関して、府等の委員会・看護協会等の職能団体への参画は、42～51%の教員が非常に積極的または積極的に行っていた。看護学部に関係する府や職能団体の委員会への参画は、講師以上が依頼され活動しているため、参画していない教員の割合が高くなったと推測された。

(2) 地域に密着した学習支援活動

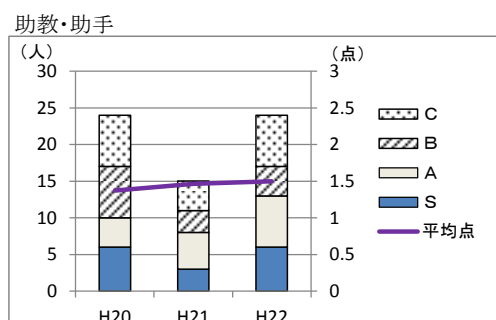
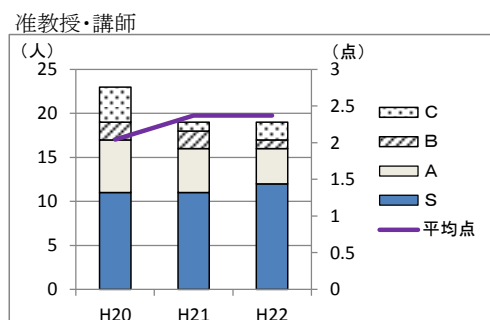
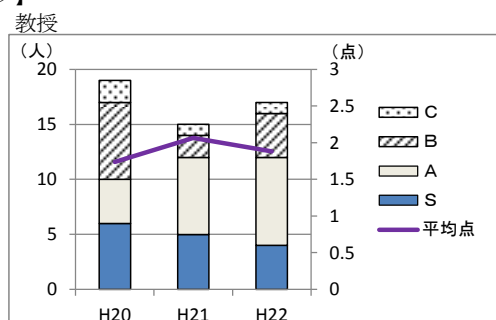
【評価の観点10】: 社会人向けの公開講座、高大連携講座等を通じて、地域に密着した学習支援活動を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		看護学部		
		H20	H21	H22
S	教授	6	5	4
	准教授・講師	11	11	12
	助教・助手	6	3	6
A	教授	4	7	8
	准教授・講師	6	5	4
	助教・助手	4	5	7
B	教授	7	2	4
	准教授・講師	2	2	1
	助教・助手	7	3	4
C	教授	2	1	1
	准教授・講師	4	1	2
	助教・助手	7	4	7
平均点	教授	1.7	2.1	1.9
	准教授・講師	2.0	2.4	2.4
	助教・助手	1.4	1.5	1.5

【グラフ】



【特記事項】

地域に密着した学習支援活動は、56～73%の教員が非常に積極的または積極的に行っていた。

【社会貢献活動についての分析結果】

社会貢献活動に関して、特に講師・准教授が積極的に行っていた。助教も平均点が伸びていることから、さらに積極的行うことが期待される。

4. 大学運営活動

(1) 各種委員会活動

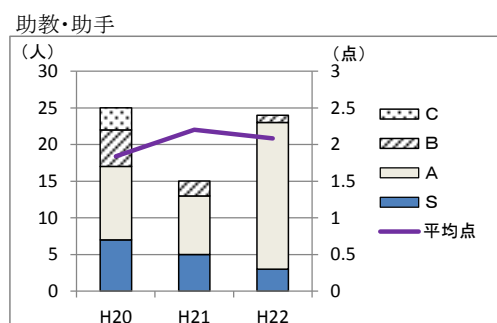
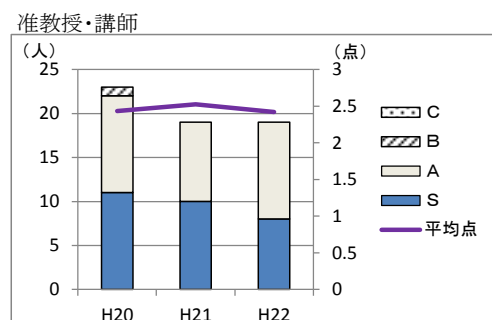
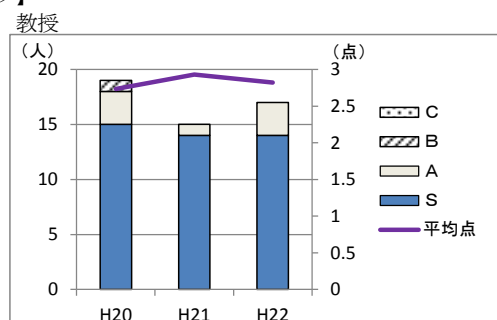
【評価の観点11】：大学、学部等の各種委員会等に参画し、その運営に寄与したか。

S(3点)：十分に寄与した A(2点)：寄与した B(1点)：あまり寄与しなかった C(0点)：寄与しなかった

(人)

		看護学部		
		H20	H21	H22
S	教授	15	14	14
	准教授・講師	11	10	8
	助教・助手	7	5	3
A	教授	3	1	3
	准教授・講師	11	9	11
	助教・助手	10	8	20
B	教授	1	0	0
	准教授・講師	1	0	0
	助教・助手	5	2	1
C	教授	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0
	助教・助手	3	0	0
平均点	教授	2.7	2.9	2.8
	准教授・講師	2.4	2.5	2.4
	助教・助手	1.8	2.2	2.1

【グラフ】



【特記事項】

大学運営活動に関して、各委員会活動は 86～98%とほとんどの教員が非常に積極的または積極的に行っていた。特に教授は、非常に積極的に活動していた。

【大学運営活動についての分析結果】

大半の看護学部教員が委員会活動に携わり、責務を果たし大学運営に尽力している結果が示された。

第8節 総合リハビリテーション学部

■教員活動自己点検・評価報告書の提出率

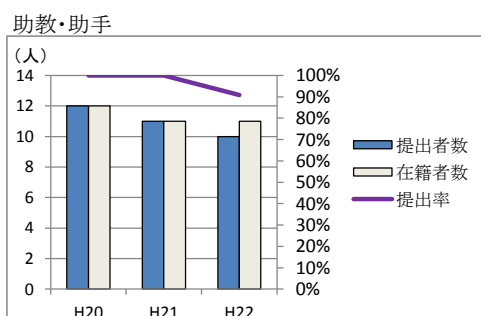
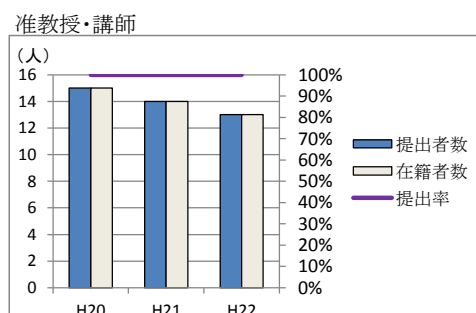
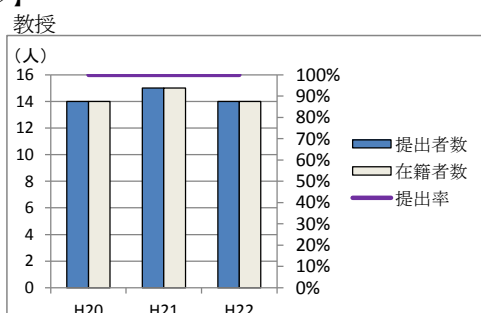
(人)

	総合リハビリテーション学部						理学療法学科						作業療法学科					
	H20		H21		H22		H20		H21		H22		H20		H21		H22	
	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数
教授	14	14	15	15	14	14	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
准教授・講師	15	15	14	14	13	13	3	3	3	3	2	2	4	4	4	4	4	4
	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
助教・助手	12	12	11	11	10	11	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3
	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	90.9%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%
合計	41	41	40	40	37	38	11	11	11	11	9	9	11	11	11	11	11	11
	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	97.4%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%	提出率	100.0%

	栄養療法学科			
	H20		H21	
	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数
教授	6	6	7	7
	提出率	100.0%	提出率	100.0%
准教授・講師	8	8	7	7
	提出率	100.0%	提出率	100.0%
助教・助手	5	5	4	4
	提出率	100.0%	提出率	80.0%
合計	19	19	18	17
	提出率	100.0%	提出率	94.4%

※提出がなかった主な理由 H22年 退職(1人)産休(0人)その他(0人)

【グラフ】



【教員活動自己点検・評価報告書の提出率についての分析結果】

平成20年度は該当者41名中41名で100%、平成21年度は40名中40名で100%、そして平成22年度は38名中37名が提出し97.4%であった。ただし平成22年度に1名の退職者のため、教員活動自己点検・評価報告書の提出がなかった。この状況を除けば提出率は100%であった。このことにより教員活動自己点検・評価報告書提出への姿勢は非常に積極的であった。

■教員活動自己点検・評価実施基準(全学実施基準)

1. 教育活動

(1) 授業活動

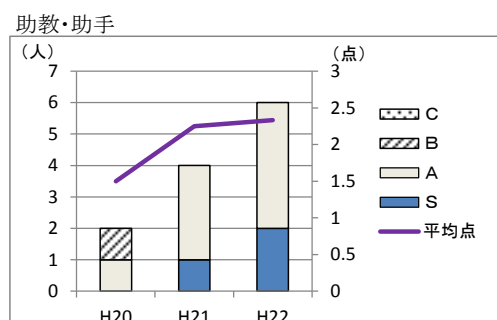
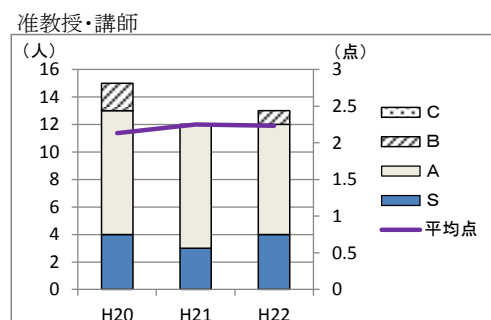
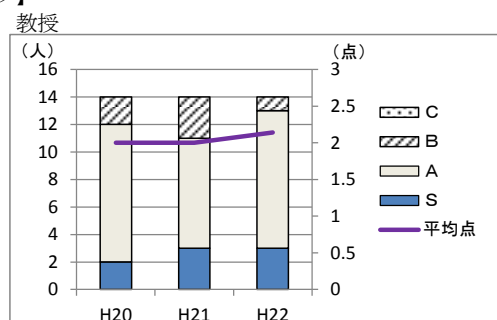
【評価の観点1】: 学部等が掲げる教育目的のもと、個々の授業目標に従って、授業展開を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		総合リハビリテーション学部			理学療法学科			作業療法学科			栄養療法学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	2	3	3	1	1	1	0	1	1	1	1	1
	准教授・講師	4	3	4	2	1	1	0	0	1	2	2	2
	助教・助手	0	1	2	0	0	0	0	1	2	0	0	0
A	教授	10	8	10	2	1	2	4	3	3	4	4	5
	准教授・講師	9	9	8	1	1	1	3	4	2	5	4	5
	助教・助手	1	3	4	1	1	3	0	2	1	0	0	0
B	教授	2	3	1	1	2	1	0	0	0	1	1	0
	准教授・講師	2	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0
	助教・助手	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	2.0	2.0	2.1	2.0	1.8	2.0	2.0	2.3	2.3	2.0	2.0	2.2
	准教授・講師	2.1	2.3	2.2	2.7	2.5	2.5	1.8	2.0	2.0	2.1	2.3	2.3
	助教・助手	1.5	2.3	2.3	2.0	2.0	2.0	1.0	2.3	2.7	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

S評価、およびA評価にポイント値が高く、C評価は全くなかった。教授層、および准教授・講師層についても、ある年度で若干低い学科も認めるが、概してS評価、およびA評価に平均点が高い。この結果から、本学部の大半の教員が積極的に授業活動を行っていることが認められた。また、学科間に大きな差異は認められず、各学科とも積極的な授業活動が認められた。

(2) 教育改善活動

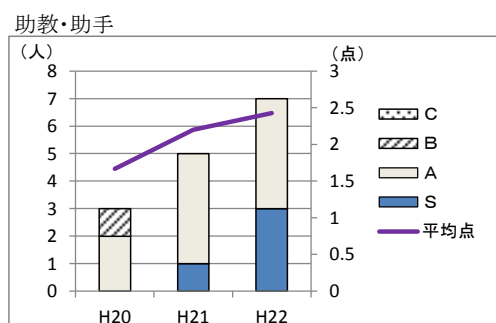
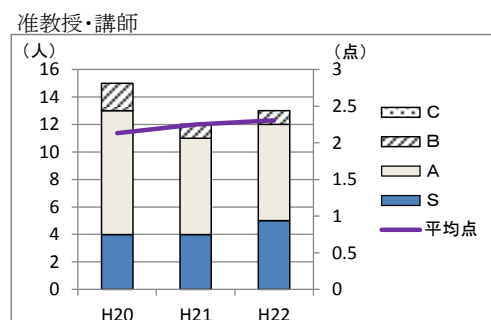
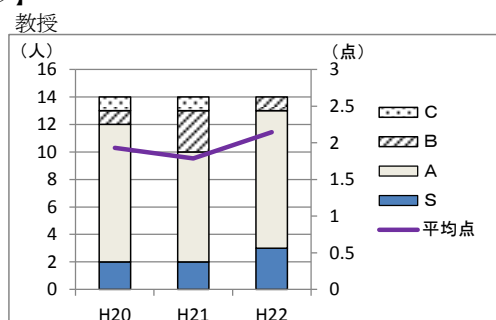
【評価の観点2】: 学部等が掲げる教育目的に応じた授業内容、教材、教授技術等の改善を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		総合リハビリテーション学部			理学療法学科			作業療法学科			栄養療法学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	2	2	3	1	1	1	0	0	1	1	1	1
	准教授・講師	4	4	5	2	1	1	0	0	1	2	3	3
	助教・助手	0	1	3	0	0	1	0	1	2	0	0	0
A	教授	10	8	10	3	1	3	4	3	3	3	4	4
	准教授・講師	9	7	7	1	1	1	4	3	2	4	3	4
	助教・助手	2	4	4	1	1	2	1	2	1	0	1	1
B	教授	1	3	1	0	2	0	0	1	0	1	0	1
	准教授・講師	2	1	1	0	0	0	0	1	1	2	0	0
	助教・助手	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
C	教授	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	1.9	1.8	2.1	2.3	1.8	2.3	2.0	1.8	2.3	1.7	1.8	2.0
	准教授・講師	2.1	2.3	2.3	2.7	2.5	2.5	2.0	1.8	2.0	2.0	2.5	2.4
	助教・助手	1.7	2.2	2.4	2.0	2.0	2.3	2.0	2.3	2.7	1.0	2.0	2.0

【グラフ】



【特記事項】

3年間の推移から、徐々にではあるが全体としては教育目的に応じた授業内容、教材、教授技術、実習指導等の授業改善を積極的に行っていることが推測される。その中で、B評価・C評価もあり、ばらつきが認められたが、平成22年度は各学科とも教育授業改善がみられ、結果からも平均点が上昇していると考えられる。

(3) 研究指導活動

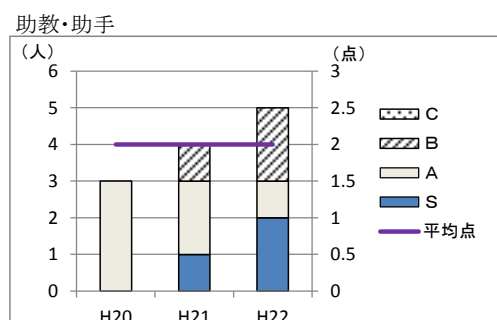
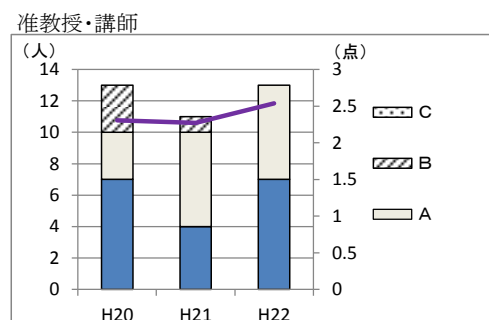
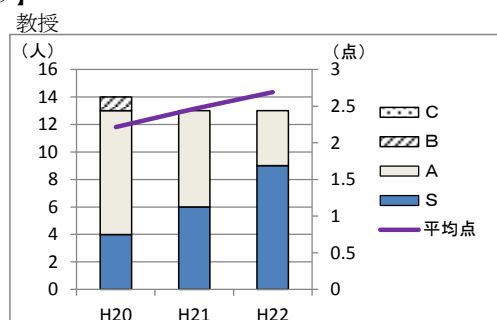
【評価の観点3】: 学位取得に向けた指導を積極的に行ったか。(研究指導活動を行わない教員は除く)

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		総合リハビリテーション学部			理学療法学科			作業療法学科			栄養療法学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	4	6	9	1	2	2	1	1	2	2	3	5
	准教授・講師	7	4	7	3	2	2	1	1	1	3	1	4
	助教・助手	0	1	2	0	0	0	0	1	2	0	0	0
A	教授	9	7	4	3	1	1	3	3	2	3	3	1
	准教授・講師	3	6	6	0	0	0	0	2	3	3	4	3
	助教・助手	3	2	1	2	0	0	0	1	1	1	1	0
B	教授	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	准教授・講師	3	1	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0
	助教・助手	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	2.2	2.5	2.7	2.3	2.7	2.7	2.3	2.3	2.5	2.2	2.5	2.8
	准教授・講師	2.3	2.3	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	2.3	2.5	2.2	2.6
	助教・助手	2.0	2.0	2.0	2.0	-	-	-	2.5	2.7	2.0	1.5	1.0

【グラフ】



【特記事項】

この評価は、学部の卒業研究指導活動を示す。3年間の推移をみると、教授層、准教授・講師層において、年々SおよびA評価のポイント値が上昇していることは、積極的に研究指導活動を行っていることが認められる。C評価は全くなかった。

【教育活動についての分析結果】

各教員の教育活動の3年間の推移について、授業活動、教員改善活動、そして研究指導活動のそれぞれの項目内容の数値をみても、各教員の自己評価はSおよびA評価にポイント値が多く占めている。このことは各教員が積極的に教育活動が行われていると認められる。さらに、授業活動評価および研究指導活動において上昇していることは、大学院研究科においても順調に教育展開が行われているものと判断される。

今後も、この状態の維持に努められることが期待できる。

2. 研究活動

(1) 学術論文等による研究発表活動

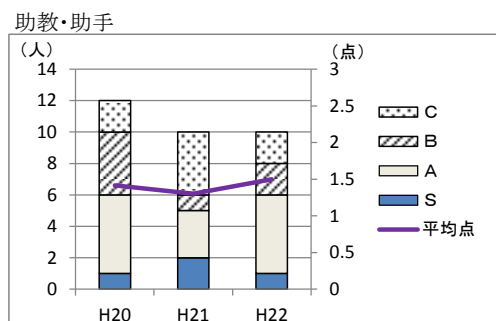
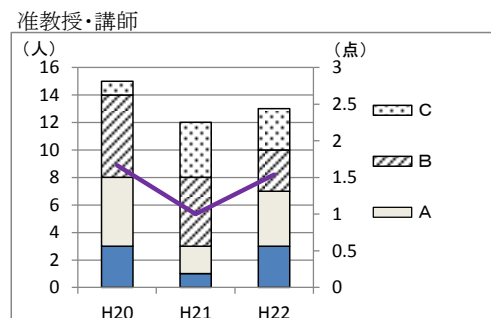
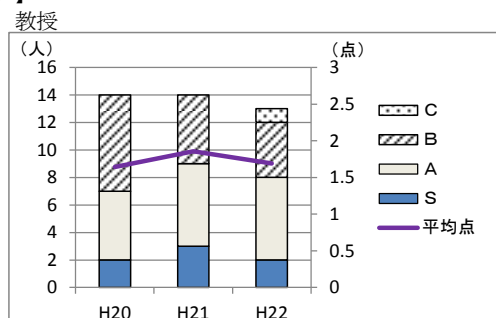
【評価の観点4】: 学術論文等による研究発表活動を活発に行ったか。

S(3点): 非常に活発であった A(2点): 活発であった B(1点): 普通であった C(0点): 活発でなかった

(人)

		総合リハビリテーション学部			理学療法学科			作業療法学科			栄養療法学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	2	3	2	0	1	1	0	0	0	2	2	1
	准教授・講師	3	1	3	0	0	0	0	0	0	3	1	3
	助教・助手	1	2	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1
A	教授	5	6	6	1	2	1	1	2	2	3	2	3
	准教授・講師	5	2	4	1	0	1	1	0	1	3	2	2
	助教・助手	5	3	5	1	1	3	1	1	1	3	1	1
B	教授	7	5	4	3	1	1	3	2	2	1	2	1
	准教授・講師	6	5	3	2	2	1	2	2	2	2	1	0
	助教・助手	4	1	2	2	0	0	1	1	1	1	0	1
C	教授	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	准教授・講師	1	4	3	0	0	0	0	1	2	1	0	2
	助教・助手	2	4	2	0	1	0	1	1	1	1	2	1
平均点	教授	1.6	1.9	1.7	1.3	2.0	2.0	1.3	1.5	1.5	2.2	2.0	1.7
	准教授・講師	1.7	1.0	1.5	1.3	1.0	1.5	1.0	0.5	1.0	2.1	1.3	1.9
	助教・助手	1.4	1.3	1.5	1.8	1.7	2.0	1.0	1.0	1.0	1.4	1.3	1.5

【グラフ】



【特記事項】

3年間の各教員の研究発表活動の表の平均点からみても、学術論文等の発表がやや低調であることが示された。今後は、教育活動と同様に、研究発表活動においても積極的に取り組んでいくことが期待される。

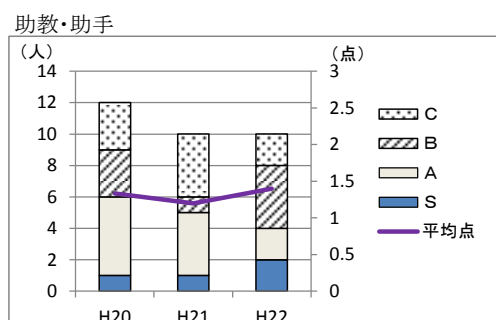
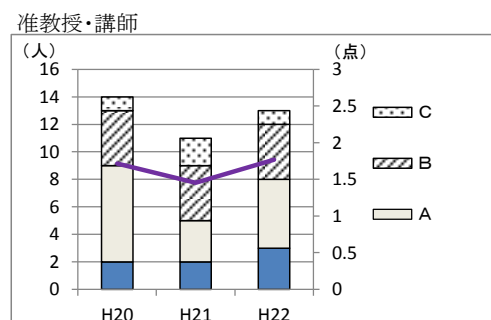
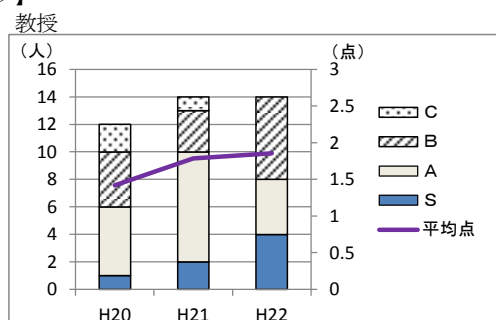
【評価の観点5】: 学術論文等により、質の高い研究発表活動がなされたか。

S(3点): 特段に高い質が確保された A(2点): 高い質が確保された B(1点): 普通であった C(0点): 不十分であった

(人)

		総合リハビリテーション学部			理学療法学科			作業療法学科			栄養療法学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	1	2	4	0	1	1	0	0	0	1	1	3
	准教授・講師	2	2	3	0	0	0	0	0	0	2	2	3
	助教・助手	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	2
A	教授	5	8	4	0	2	2	2	3	1	3	3	1
	准教授・講師	7	3	5	2	1	2	1	1	1	4	1	2
	助教・助手	5	4	2	2	1	1	1	1	1	2	2	0
B	教授	4	3	6	2	1	1	1	1	3	1	1	2
	准教授・講師	4	4	4	0	0	0	2	2	2	2	2	2
	助教・助手	3	1	4	0	0	1	1	1	1	2	0	2
C	教授	2	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0
	准教授・講師	1	2	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0
	助教・助手	3	4	2	1	1	1	1	1	1	1	2	0
平均点	教授	1.4	1.8	1.9	1.0	2.0	2.0	1.3	1.8	1.3	1.7	1.7	2.2
	准教授・講師	1.7	1.5	1.8	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	2.0	1.7	2.1
	助教・助手	1.3	1.2	1.4	1.8	1.7	1.0	1.0	1.0	1.0	1.2	1.0	2.0

【グラフ】



【特記事項】

前項の内容に合致するものではない。つまり研究発表活動の質の高い内容に努めていることが推測される。すなわち、比較的質の高い研究が発表されていることが認められる。ただし、准教授・講師層、および助教層における若手の研究者の研究の質を如何に向上させるかが今後の課題である。

(2) 学会等における研究発表活動

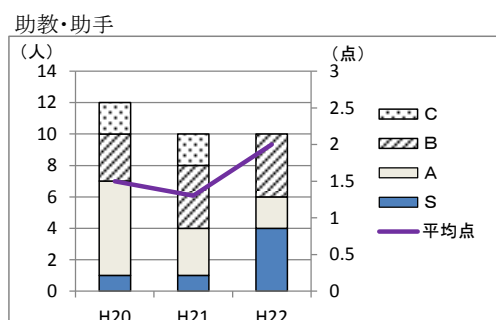
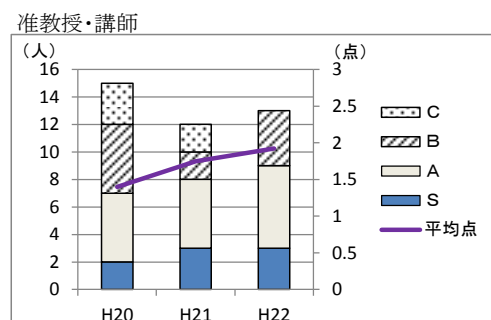
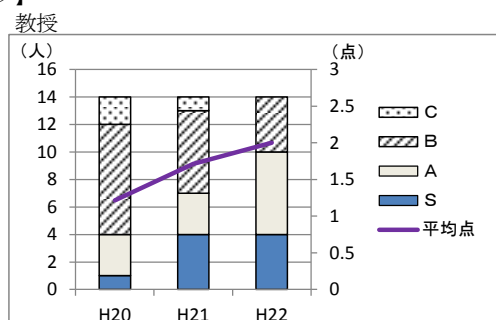
【評価の観点6】: 学術講演、学会発表による研究発表活動を活発に行ったか。

S(3点): 非常に活発であった A(2点): 活発であった B(1点): 普通であった C(0点): 活発でなかった

(人)

		総合リハビリテーション学部			理学療法学科			作業療法学科			栄養療法学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	1	4	4	0	1	1	0	0	0	1	3	3
	准教授・講師	2	3	3	1	0	0	0	0	0	1	3	3
	助教・助手	1	1	4	1	0	1	0	0	1	0	1	2
A	教授	3	3	6	1	1	2	1	2	3	1	0	1
	准教授・講師	5	5	6	0	2	2	1	2	2	4	1	2
	助教・助手	6	3	2	2	0	0	1	2	2	3	1	0
B	教授	8	6	4	3	2	1	2	2	1	3	2	2
	准教授・講師	5	2	4	2	0	0	1	1	2	2	1	2
	助教・助手	3	4	4	1	1	2	1	1	0	1	2	2
C	教授	2	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0
	准教授・講師	3	2	0	0	0	0	2	1	0	1	1	0
	助教・助手	2	2	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0
平均点	教授	1.2	1.7	2.0	1.3	1.8	2.0	1.0	1.5	1.8	1.3	1.8	2.2
	准教授・講師	1.4	1.8	1.9	1.7	2.0	2.0	0.8	1.3	1.5	1.6	2.0	2.1
	助教・助手	1.5	1.3	2.0	2.0	0.3	1.7	1.0	1.7	2.3	1.4	1.8	2.0

【グラフ】



【特記事項】

3年間の推移から、SおよびA評価について学会研究発表活動を行った教員は全体の1/2から2/3に上昇している。ただし、平成22年度において、C評価のポイント値がなくなったが、今後いかに活発な研究発表活動へ導く方策が求められるか課題である。

(3) 競争的資金の申請・獲得状況

【評価の観点7】: 競争的資金獲得のため、代表者として積極的に申請したか。

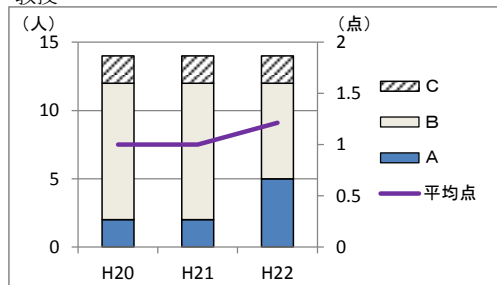
A(2点): 積極的に申請した B(1点): 申請した C(0点): 申請しなかった

(人)

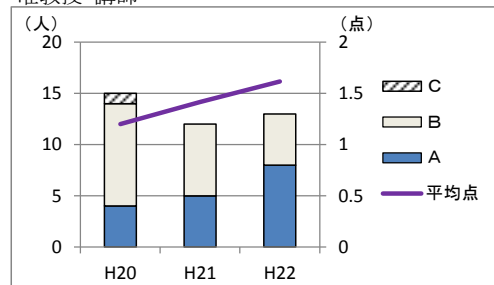
		総合リハビリテーション学部			理学療法学科			作業療法学科			栄養療法学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授	2	2	5	0	0	1	0	0	0	2	2	4
	准教授・講師	4	5	8	1	1	2	1	1	2	2	3	4
	助教・助手	5	3	5	2	0	2	2	2	2	1	1	1
B	教授	10	10	7	3	3	2	3	3	3	4	4	2
	准教授・講師	10	7	5	2	1	0	2	3	2	6	3	3
	助教・助手	7	7	5	2	3	1	1	1	1	4	3	3
C	教授	2	2	2	1	1	1	1	1	1	0	0	0
	准教授・講師	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	1.0	1.0	1.2	0.8	0.8	1.0	0.8	0.8	0.8	1.3	1.3	1.7
	准教授・講師	1.2	1.4	1.6	1.3	1.5	2.0	1.0	1.3	1.5	1.3	1.5	1.6
	助教・助手	1.4	1.3	1.5	1.5	1.0	1.7	1.7	1.7	1.7	1.2	1.3	1.3

【グラフ】

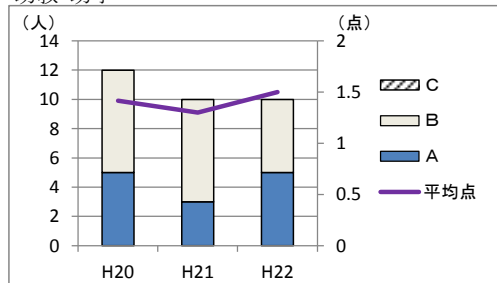
教授



准教授・講師



助教・助手



【特記事項】

A評価およびB評価にポイント値が多く、競争的資金の獲得のために積極的に申請していることが認められる。
 今後も積極的に競争的資金の獲得のために申請することが求められる。

【評価の観点8】:競争的資金の申請を行った結果、採択されたか。

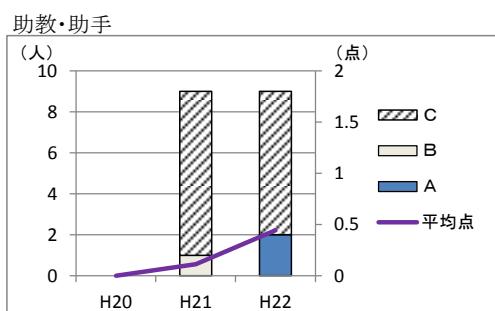
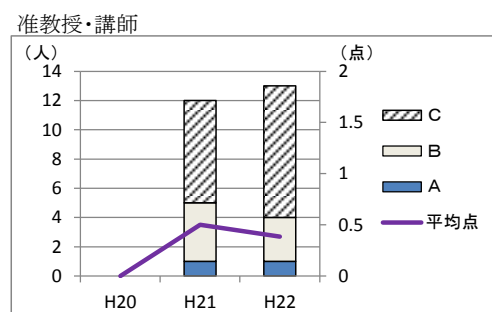
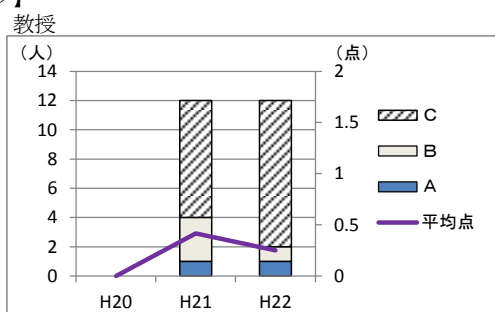
注1. 競争的資金とは、科研費、国プロジェクト、NEDO、JSTなど、公募によるものをいう。

注2. 申請とは、新規申請のことをいう。

A(2点):複数採択された B(1点):採択された C(0点):採択されなかった

		総合リハビリテーション学部			理学療法学科			作業療法学科			栄養療法学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授		1	1		0	0		0	1		1	0
	准教授・講師		1	1		0	0		0	0		1	1
	助教・助手		0	2		0	2		0	0		0	0
B	教授		3	1		1	0		2	0		0	1
	准教授・講師		4	3		0	1		2	1		2	1
	助教・助手		1	0		1	0		0	0		0	0
C	教授		8	10		2	3		1	2		5	5
	准教授・講師		7	9		2	1		2	3		3	5
	助教・助手		8	7		2	1		2	2		4	4
平均点	教授	-	0.4	0.3	-	0.3	0.0	-	0.7	0.7	-	0.3	0.2
	准教授・講師	-	0.5	0.4	-	0.0	0.5	-	0.5	0.3	-	0.7	0.4
	助教・助手	-	0.1	0.4	-	0.3	1.3	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0

【グラフ】



【特記事項】

競争的資金の獲得のために積極的に申請しているが、C評価に示すようにポイント値が高い。今後、さらに採択のためにどのように取り組むべきかを検討する必要がある。

【研究活動についての分析結果】

3年間の研究活動の推移を分析すると、まず学術論文等による研究発表活動については、学術論文等の研究発表数は低調だが、研究活動において質の高い内容に積極的に努め、取り組んでいることが認められる。結果から質の高い研究が発表されている。ただし、若手の研究者の育成が今後の課題である。

学会研究発表活動について、この活動への教員のモチベーションは年々上昇しているが、さらに活発な学会研究発表活動へ導く方策が求められる。

また、競争的資金の獲得のための活動について、積極的に申請していることが認められるが、採択のためにはどのように取り組むべきかの方略を検討する必要がある。

3. 社会貢献活動

(1) 府等の委員会への参画活動

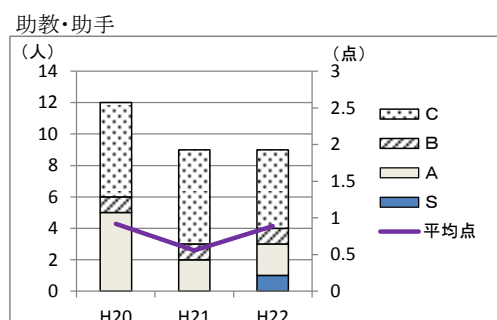
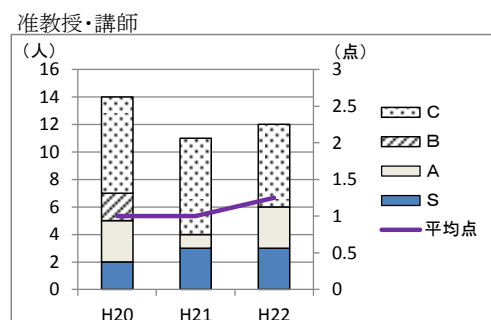
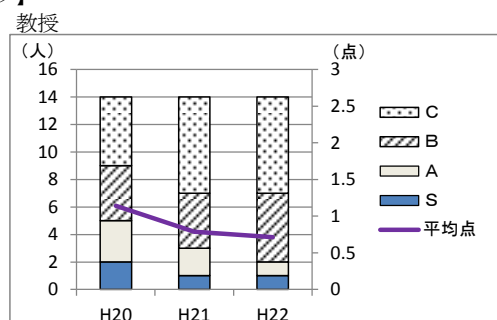
【評価の観点9】: 国・府・市町村等の委員会への参画により、行政課題に対応した研究・提言を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		総合リハビリテーション学部			理学療法学科			作業療法学科			栄養療法学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	2	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0
	准教授・講師	2	3	3	1	1	1	0	1	1	1	1	1
	助教・助手	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
A	教授	3	2	1	0	0	0	0	1	0	3	1	1
	准教授・講師	3	1	3	0	0	0	2	1	1	1	0	2
	助教・助手	5	2	2	1	0	0	3	2	2	1	0	0
B	教授	4	4	5	1	3	2	2	1	3	1	0	0
	准教授・講師	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
	助教・助手	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1
C	教授	5	7	7	2	1	2	1	1	0	2	5	5
	准教授・講師	7	7	6	2	1	1	1	2	2	4	4	3
	助教・助手	6	6	5	2	3	3	0	0	0	4	3	2
平均点	教授	1.1	0.8	0.7	1.0	0.8	0.5	1.3	1.5	1.5	1.2	0.3	0.3
	准教授・講師	1.0	1.0	1.3	1.0	1.5	1.5	1.3	1.3	1.3	0.9	0.6	1.2
	助教・助手	0.9	0.6	0.9	0.8	0.0	0.0	2.0	1.7	2.3	0.4	0.0	0.3

【グラフ】



【特記事項】

3年間の推移から、どの評価の観点からみてもばらつきが認められる。行政課題に対して提言など積極的に行った教員は全体の1/3程度である。府等の委員会への参画状況と提言についての評価の基準をどこに置くかは意見の分かれるところであるが、概ね積極的に活動していることが認められる。

(2) 地域に密着した学習支援活動

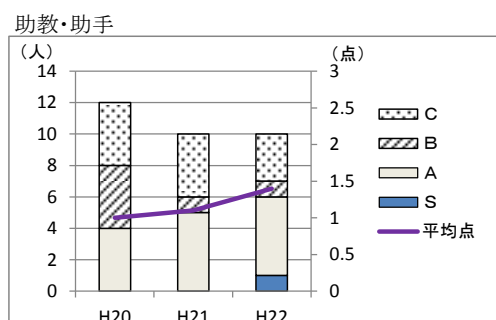
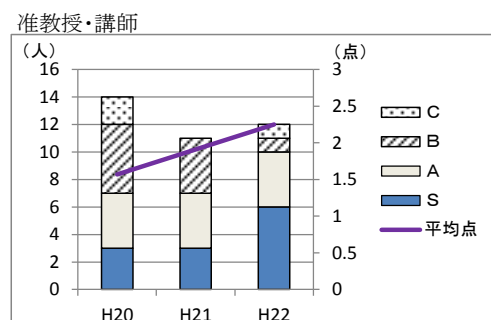
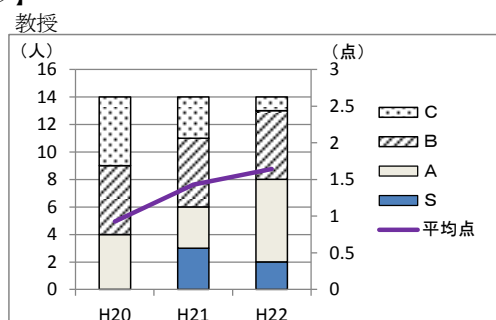
【評価の観点10】: 社会人向けの公開講座、高大連携講座等を通じて、地域に密着した学習支援活動を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		総合リハビリテーション学部			理学療法学科			作業療法学科			栄養療法学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	0	3	2	0	1	1	0	2	1	0	0	0
	准教授・講師	3	3	6	2	1	1	0	0	2	1	2	3
	助教・助手	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
A	教授	4	3	6	1	1	1	1	0	2	2	2	3
	准教授・講師	4	4	4	0	0	0	2	3	1	2	1	3
	助教・助手	4	5	5	1	1	0	1	3	3	2	1	2
B	教授	5	5	5	2	2	2	2	2	1	1	1	2
	准教授・講師	5	4	1	0	1	1	2	1	0	3	2	0
	助教・助手	4	1	1	2	0	1	1	0	0	1	1	0
C	教授	5	3	1	1	0	0	1	0	0	3	3	1
	准教授・講師	2	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0
	助教・助手	4	4	3	1	2	1	1	0	0	2	2	2
平均点	教授	0.9	1.4	1.6	1.0	1.8	1.8	1.0	2.0	2.0	0.8	0.8	1.3
	准教授・講師	1.6	1.9	2.3	2.0	2.0	2.0	1.5	1.8	2.0	1.4	2.0	2.5
	助教・助手	1.0	1.1	1.4	1.0	0.7	1.3	1.0	2.0	2.0	1.0	0.8	1.0

【グラフ】



【特記事項】

S評価、A評価にポイント値が高く、各学科の教員が積極的に地域への学習支援活動を行っていることが認められる。

【社会貢献活動についての分析結果】

府等の委員会の参画活動については、各教員の意識にばらつきが認められるが概ね積極的な活動をしているとみなされる。また、社会人向けの公開講座、夏期講座、高大連携講座等を通じて、地域に密着した学習支援活動については、各教員の意識は高く積極的に活動していることが認められる。今後は、さらに本学部の特性を活かした積極的な展開が期待できる。

4. 大学運営活動

(1) 各種委員会活動

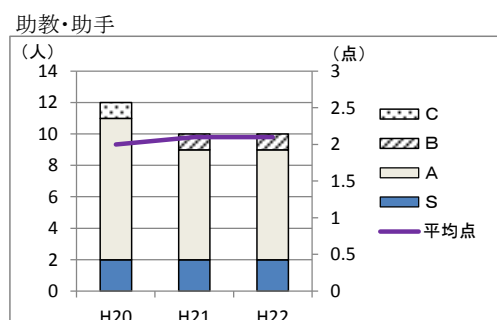
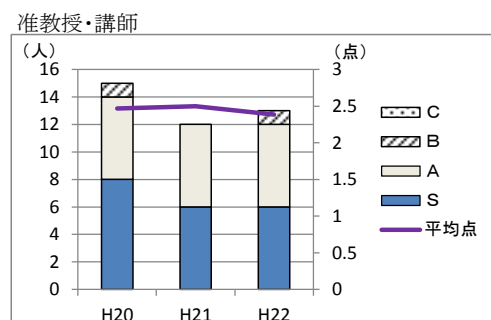
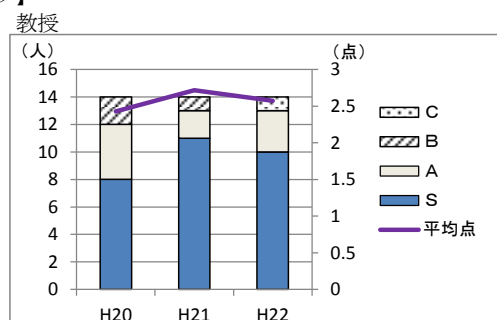
【評価の観点11】: 大学、学部等の各種委員会等に参画し、その運営に寄与したか。

S(3点): 十分に寄与した A(2点): 寄与した B(1点): あまり寄与しなかった C(0点): 寄与しなかった

(人)

		総合リハビリテーション学部			理学療法学科			作業療法学科			栄養療法学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	8	11	10	2	3	3	1	2	2	5	6	5
	准教授・講師	8	6	6	3	2	2	0	1	1	5	3	3
	助教・助手	2	2	2	1	0	0	1	1	2	0	1	0
A	教授	4	2	3	1	0	0	3	2	2	0	0	1
	准教授・講師	6	6	6	0	0	0	4	3	2	2	3	4
	助教・助手	9	7	7	3	3	3	2	2	1	4	2	3
B	教授	2	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0
	准教授・講師	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0
	助教・助手	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
C	教授	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
平均点	教授	2.4	2.7	2.6	2.3	2.5	2.3	2.3	2.5	2.5	2.7	3.0	2.8
	准教授・講師	2.5	2.5	2.4	3.0	3.0	3.0	2.0	2.3	2.0	2.5	2.5	2.4
	助教・助手	2.0	2.1	2.1	2.3	2.0	2.0	2.3	2.3	2.7	1.6	2.0	1.8

【グラフ】



【特記事項】

各学科の平均点をみても、極めて大学、学部運営に寄与していることが認められた。今後も十分に寄与することが期待できる。

【大学運営活動についての分析結果】

3年間の推移から、各学科の教員は、大学、学部等の各種委員会等に参画し、その運営に十分に寄与していることが示された。このことは、各教員の大学、学部運営への意識が充分高いものと認められる。

■学部・研究科固有の項目

○総合リハビリテーション学部

1-(2) 実習活動

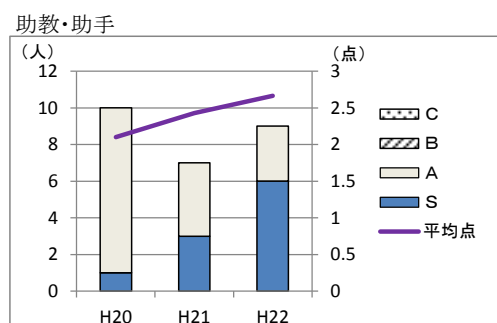
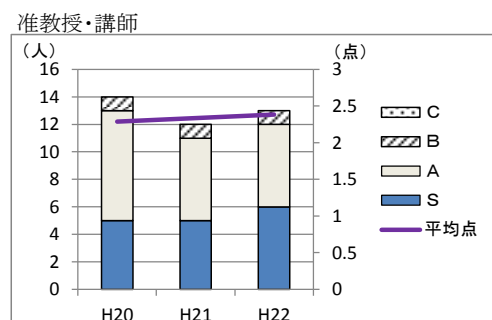
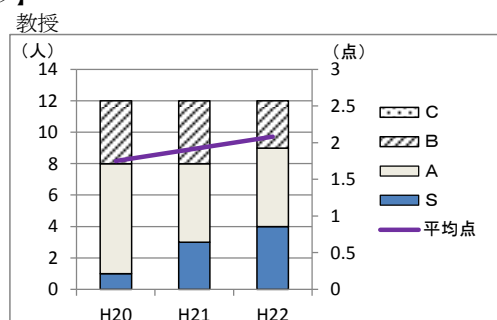
【評価の観点】:教育目的に応じた実習の展開を積極的に行ったか。

S(3点):非常に積極的に行った A(2点):積極的に行った B(1点):普通であった C(0点):積極的でなかった

(人)

		総合リハビリテーション学部			理学療法学科			作業療法学科			栄養療法学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	1	3	4	0	1	1	0	1	1	1	1	2
	准教授・講師	5	5	6	2	1	1	1	1	1	2	3	4
	助教・助手	1	3	6	1	2	3	0	1	2	0	0	1
A	教授	7	5	5	2	1	1	3	2	2	2	2	2
	准教授・講師	8	6	6	1	1	1	2	2	2	5	3	3
	助教・助手	9	4	3	3	0	0	3	2	1	3	2	2
B	教授	4	4	3	1	1	1	1	1	1	2	2	1
	准教授・講師	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均点	教授	1.8	1.9	2.1	1.7	2.0	2.0	1.8	2.0	2.0	1.8	1.8	2.2
	准教授・講師	2.3	2.3	2.4	2.7	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.3	2.5	2.6
	助教・助手	2.1	2.4	2.7	2.3	3.0	3.0	2.0	2.3	2.7	2.0	2.0	2.3

【グラフ】



【特記事項】

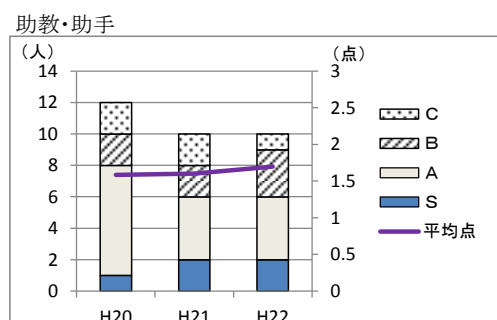
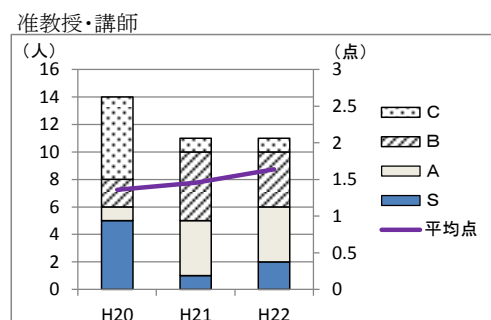
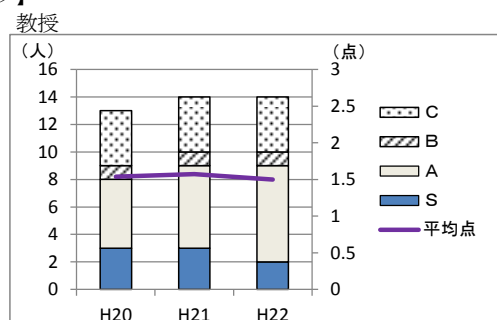
3年間の当学部の実習活動の推移について、年々ポイントが上昇し、積極性が認められる。C評価は全くなく、SおよびA評価に平均点が高い。このことは教授層よりも准教授・講師層が実習活動の展開を積極的に行っていることが認められる。

3-(3) 職能団体参画等の活動

【評価の観点】: 理学療法士協会、作業療法士協会、栄養士会などに積極的に参加し、これらの団体を通じて社会貢献を積極的に行ったか
 S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

		総合リハビリテーション学部			理学療法学科			作業療法学科			栄養療法学科		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	3	3	2	1	1	0	2	2	2	0	0	0
	准教授・講師	5	1	2	3	0	0	2	1	1	0	0	1
	助教・助手	1	2	2	0	0	0	1	1	2	0	1	0
A	教授	5	6	7	2	3	4	2	2	2	1	1	1
	准教授・講師	1	4	4	0	2	1	1	2	1	0	0	2
	助教・助手	7	4	4	3	1	1	2	2	1	2	1	2
B	教授	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
	准教授・講師	2	5	4	0	0	1	0	1	1	2	4	2
	助教・助手	2	2	3	1	2	2	0	0	0	1	0	1
C	教授	4	4	4	0	0	0	0	0	0	4	4	4
	准教授・講師	6	1	1	0	0	0	1	0	0	5	1	1
	助教・助手	2	2	1	0	0	0	0	0	0	2	2	1
平均点	教授	1.5	1.6	1.5	2.0	2.3	2.0	2.5	2.5	2.5	0.4	0.5	0.5
	准教授・講師	1.4	1.5	1.6	3.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	0.3	0.8	1.5
	助教・助手	1.6	1.6	1.7	1.8	1.3	1.3	2.3	2.3	2.7	1.0	1.3	1.3

【グラフ】



【特記事項】

各学科の職能団体参画等の活動について、参画意識と取り組みには差異が認められる。今後も引き続き、これらの職能団体を通じて社会貢献への参画に積極的に取り組むことを期待する。

【まとめ】

「教育活動」および「大学運営活動」については、大半の教員が積極的に参画を行ったと自己評価している。「社会貢献活動」についても、職能団体への参画、地域事業への貢献を通じて積極的に関わったと自己評価している教員が多かった。また、「研究活動」については、大学院前期・後期課程における教育・研究活動の展開が順調に進行されている影響により、わずかに平均ポイント値が上昇している。特に、学術論文内容の質の向上、および学会研究発表活動の積極的な参画をしたと評価している教員が増加している。当学部教員は、教育・研究・社会貢献・そして大学運営、全てにおいて積極的に活動しているためか、研究活動の学術論文研究活動でやや低い傾向にある。しかし、学術論文の質の向上や積極的に研究発表活動をしていると評価している教員が増加していることから、平均ポイント値がやや上昇したと認められる。このことは、次年度以降の競争的資金の申請を獲得への積極的な取り組みの礎となり、より研究・教育活動の行動化に導くものと期待できる。

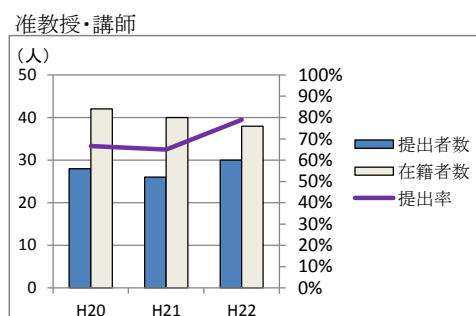
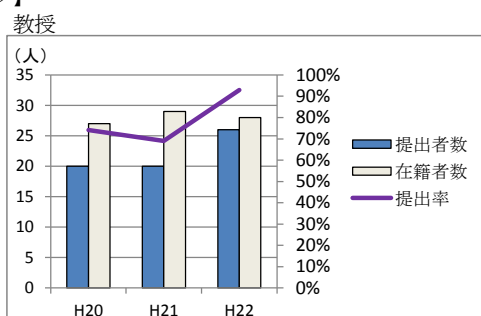
第9節 総合教育研究機構

■教員活動自己点検・評価報告書の提出率

(人)

	総合教育研究機構						文系						理系					
	H20		H21		H22		H20		H21		H22		H20		H21		H22	
	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数	提出者数	在籍者数
教授	20	27	20	29	26	28	12	14	11	15	14	14	8	13	9	14	12	14
	提出率	74.1%	提出率	69.0%	提出率	92.9%	提出率	85.7%	提出率	73.3%	提出率	100.0%	提出率	61.5%	提出率	64.3%	提出率	85.7%
准教授・講師	28	42	26	40	30	38	15	21	12	20	16	18	13	21	14	20	14	20
	提出率	66.7%	提出率	65.0%	提出率	78.9%	提出率	71.4%	提出率	60.0%	提出率	88.9%	提出率	61.9%	提出率	70.0%	提出率	70.0%
助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	提出率	-	提出率	-	提出率	-	提出率	-	提出率	-	提出率	-	提出率	-	提出率	-	提出率	-
合計	48	69	46	69	56	66	27	35	23	35	30	32	21	34	23	34	26	34
	提出率	69.6%	提出率	66.7%	提出率	84.8%	提出率	77.1%	提出率	65.7%	提出率	93.8%	提出率	61.8%	提出率	67.6%	提出率	76.5%

【グラフ】



【教員活動自己点検・評価報告書の提出率についての分析結果】

提出率は低調である。H22年度分で改善の傾向が見られるが、自己点検の意義について認識を深める必要がある。

■教員活動自己点検・評価実施基準(全学実施基準)

1. 教育活動

(1) 授業活動

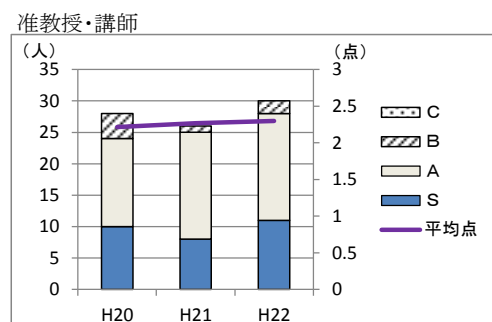
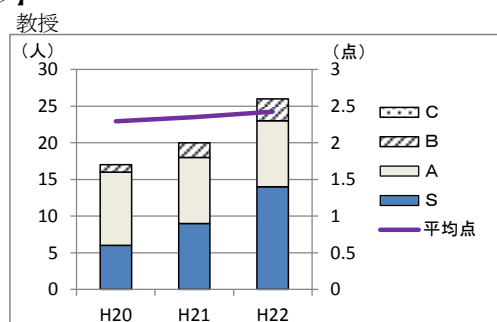
【評価の観点1】: 学部等が掲げる教育目的のもと、個々の授業目標に従って、授業展開を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		総合教育研究機構			文系			理系		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	6	9	14	2	5	7	4	4	7
	准教授・講師	10	8	11	4	3	4	6	5	7
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	10	9	9	7	5	5	3	4	4
	准教授・講師	14	17	17	8	9	10	6	8	7
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	1	2	3	0	1	2	1	1	1
	准教授・講師	4	1	2	3	0	2	1	1	0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	2.3	2.4	2.4	2.2	2.4	2.4	2.4	2.3	2.5
	准教授・講師	2.2	2.3	2.3	2.1	2.3	2.1	2.4	2.3	2.5
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

機構全体として、かなり高い評価点となっている。教授層、准教授・講師層ともに微増ではあるが右肩上がりの傾向も見られる。教育重視の意識が反映されていると考えられる。

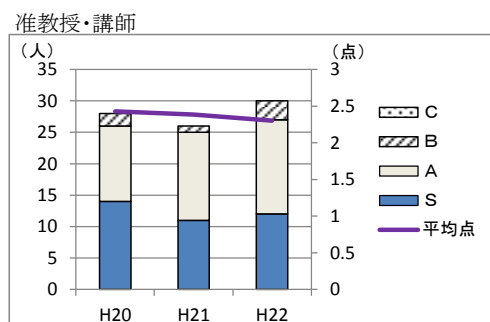
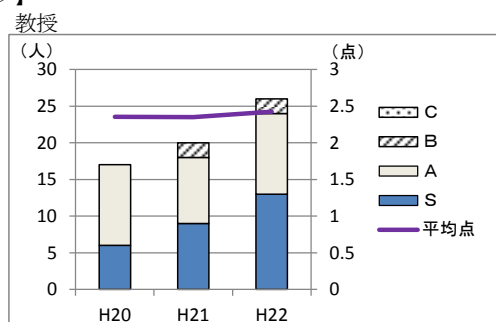
(2) 教育改善活動

【評価の観点2】: 学部等が掲げる教育目的に応じた授業内容、教材、教授技術等の改善を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

		総合教育研究機構			文系			理系		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	6	9	13	2	5	6	4	4	7
	准教授・講師	14	11	12	7	5	5	7	6	7
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	11	9	11	7	5	7	4	4	4
	准教授・講師	12	14	15	7	7	10	5	7	5
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	0	2	2	0	1	1	0	1	1
	准教授・講師	2	1	3	1	0	1	1	1	2
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	准教授・講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	2.4	2.4	2.4	2.2	2.4	2.4	2.5	2.3	2.5
	准教授・講師	2.4	2.4	2.3	2.4	2.4	2.3	2.5	2.4	2.4
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

機構全体として、きわめて高い評価点があたえられている。教育重視の意識が、教育改善への意識と連動していることを示していると思われる。

(3) 研究指導活動

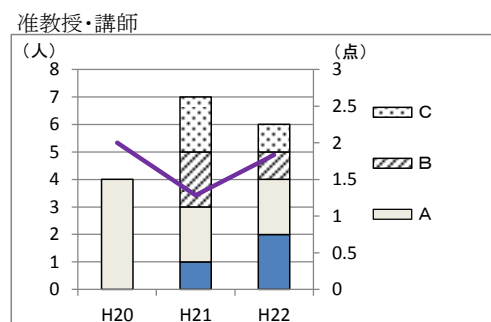
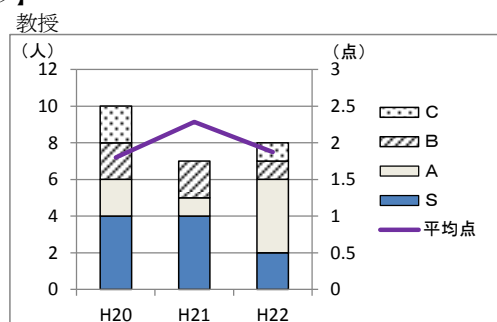
【評価の観点3】: 学位取得に向けた指導を積極的に行ったか。(研究指導活動を行わない教員は除く)

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

(人)

		総合教育研究機構			文系			理系		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	4	4	2	2	1	1	2	3	1
	准教授・講師	0	1	2	0	0	1	0	1	1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	2	1	4	1	0	1	1	1	3
	准教授・講師	4	2	2	2	1	0	2	1	2
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	2	2	1	1	1	1	1	1	0
	准教授・講師	0	2	1	0	0	0	0	2	1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	2	0	1	1	0	1	1	0	0
	准教授・講師	0	2	1	0	0	1	0	2	0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	1.8	2.3	1.9	1.8	2.0	1.5	1.8	2.4	2.3
	准教授・講師	2.0	1.3	1.8	2.0	2.0	1.5	2.0	1.2	2.0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

平均点としては良い数値になっているが、機構の教員は卒業研究の指導や、院生指導に当たっていない教員が多いため、母数が少ない。そのため年度による平均値のばらつきも大きくなっていて、統計的には意味を読みとることが難しい。

【教育活動についての分析結果】

(1) (2) はいずれも機構全体として、中間値よりかなり高い平均点を示している。職階別で見ると、教授層も、准教授・講師層も同様に高い自己評価をしている。教育重視の意識の現われと見ることができる。(3) については、機構の特殊事情の反映と見ることができる。

2. 研究活動

(1) 学術論文等による研究発表活動

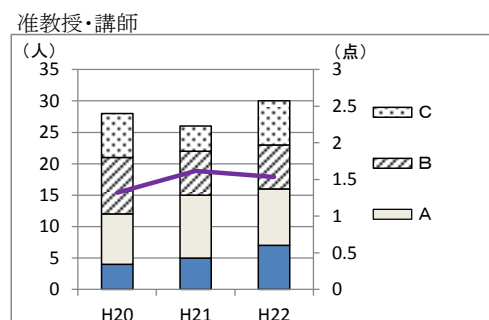
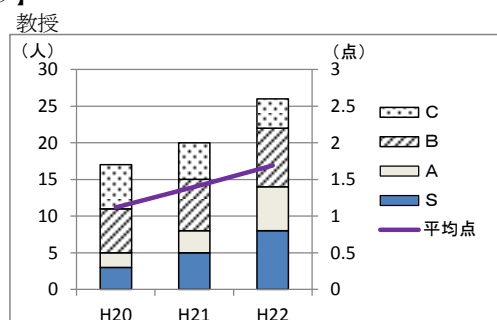
【評価の観点4】: 学術論文等による研究発表活動を活発に行ったか。

S(3点): 非常に活発であった A(2点): 活発であった B(1点): 普通であった C(0点): 活発でなかった

(人)

		総合教育研究機構			文系			理系		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	3	5	8	1	4	5	2	1	3
	准教授・講師	4	5	7	3	3	3	1	2	4
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	2	3	6	2	1	2	0	2	4
	准教授・講師	8	10	9	2	4	3	6	6	6
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	6	7	8	4	4	6	2	3	2
	准教授・講師	9	7	7	6	3	4	3	4	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	6	5	4	2	2	1	4	3	3
	准教授・講師	7	4	7	4	2	6	3	2	1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	1.1	1.4	1.7	1.2	1.6	1.8	1.0	1.1	1.6
	准教授・講師	1.3	1.6	1.5	1.3	1.7	1.2	1.4	1.6	1.9
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

機構部全体として見た場合、H20年度の教授層以外は中間値を上回る平均点を示している。職階別に見ると、教授層は年度を追う毎に高い自己評価値になっているのに対し、准教授・講師はH21年度の自己評価が高かったのに対し、H22年度は数値を下げている。その原因がどこにあるのかは検討を要する。それ以上に、教授層、准教授・講師層ともに、一定の割合のC評価が存在していることに対する対策が必要と思われる。

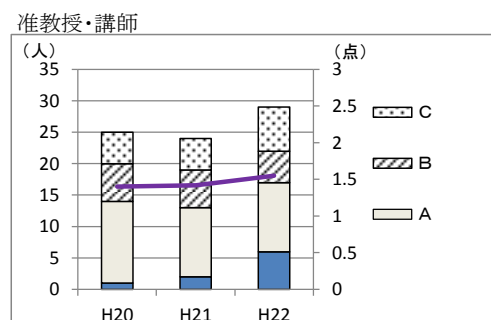
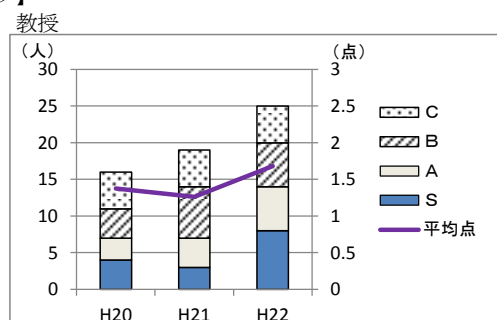
【評価の観点5】: 学術論文等により、質の高い研究発表活動がなされたか。

S(3点): 特段に高い質が確保された A(2点): 高い質が確保された B(1点): 普通であった C(0点): 不十分であった

(人)

		総合教育研究機構			文系			理系		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	4	3	8	2	3	5	2	0	3
	准教授・講師	1	2	6	1	2	3	0	0	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	3	4	6	2	1	2	1	3	4
	准教授・講師	13	11	11	6	5	4	7	6	7
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	4	7	6	2	4	5	2	3	1
	准教授・講師	6	6	5	5	2	3	1	4	2
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	5	5	5	2	2	1	3	3	4
	准教授・講師	5	5	7	1	2	6	4	3	1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	1.4	1.3	1.7	1.5	1.5	1.8	1.3	1.0	1.5
	准教授・講師	1.4	1.4	1.6	1.5	1.6	1.3	1.3	1.2	1.9
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

教授層、准教授・講師層のいずれにおいても、H20年度とH21年度は平均値が中間値を下回り、H22年度において上回っている。自己評価値が上昇したという点では、研究活動の質を向上させようとする意識が高まったと考えられるが、過年度の低評価の原因を探る必要があると思われる。

(2) 学会等における研究発表活動

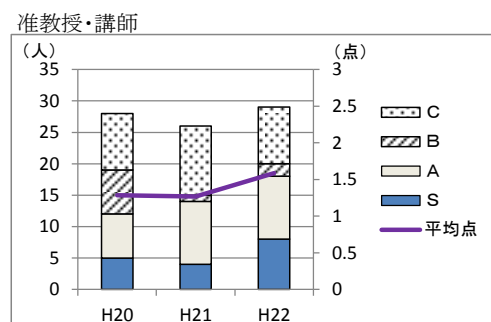
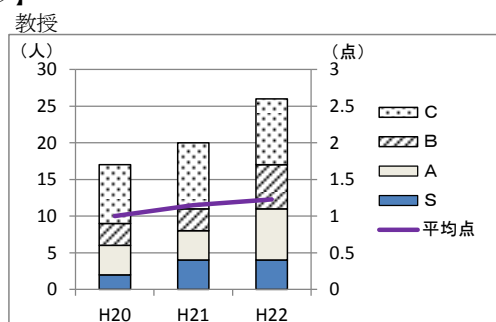
【評価の観点6】: 学術講演、学会発表による研究発表活動を活発に行ったか。

S(3点): 非常に活発であった A(2点): 活発であった B(1点): 普通であった C(0点): 活発でなかった

(人)

		総合教育研究機構			文系			理系		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	2	4	4	0	2	1	2	2	3
	准教授・講師	5	4	8	3	3	4	2	1	4
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	4	4	7	1	1	2	3	3	5
	准教授・講師	7	10	10	1	2	2	6	8	8
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	3	3	6	2	1	4	1	2	2
	准教授・講師	7	1	2	6	0	2	1	1	0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	8	9	9	6	7	7	2	2	2
	准教授・講師	9	11	9	5	7	8	4	4	1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	1.0	1.2	1.2	0.4	0.8	0.8	1.6	1.6	1.8
	准教授・講師	1.3	1.3	1.6	1.1	1.1	1.1	1.5	1.4	2.2
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

機構全体として、H22年度の准教授・講師層を除き、中間値を下回る平均点を示している。職階別では、教授より、准教授・講師のほうが高い自己評価をしている。H20～22年の経年変化を見ると、教授層は右肩上がり、准教授・講師層は横ばいのあと上昇している。文系の数値の低さが目立っている。

(3) 競争的資金の申請・獲得状況

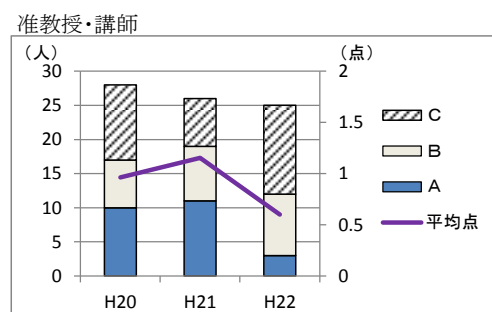
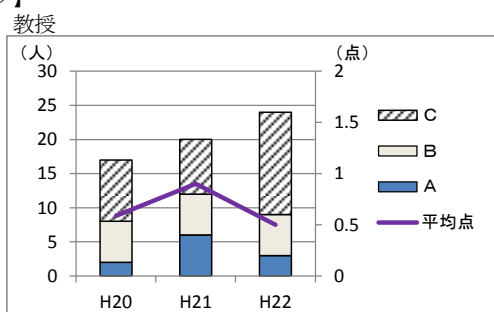
【評価の観点7】: 競争的資金獲得のため、代表者として積極的に申請したか。

A(2点): 積極的に申請した B(1点): 申請した C(0点): 申請しなかった

(人)

		総合教育研究機構			文系			理系		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授	2	6	3	0	2	2	2	4	1
	准教授・講師	10	11	3	5	5	3	5	6	0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	6	6	6	1	3	2	5	3	4
	准教授・講師	7	8	9	3	2	3	4	6	6
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	9	8	15	8	6	11	1	2	4
	准教授・講師	11	7	13	7	5	9	4	2	4
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	0.6	0.9	0.5	0.1	0.6	0.4	1.1	1.2	0.7
	准教授・講師	1.0	1.2	0.6	0.9	1.0	0.6	1.1	1.3	0.6
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

機構全体として、H21年度の准教授・講師層を除き、中間値より低い平均点を示している。職階別では、教授より、准教授+講師のほうがおおむね高い自己評価をしている。とくに文系の評点が低いことが目をひく。しかし、理系においても決して高い数値ではなく、全体としてH22年度の落ち込みが目立っている。

【評価の観点8】:競争的資金の申請を行った結果、採択されたか。

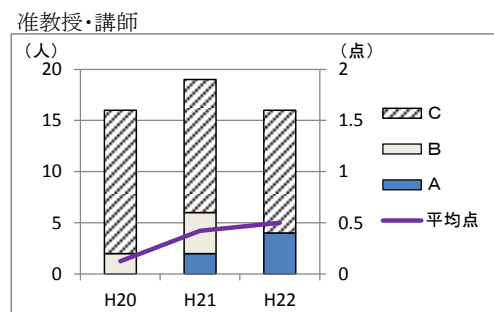
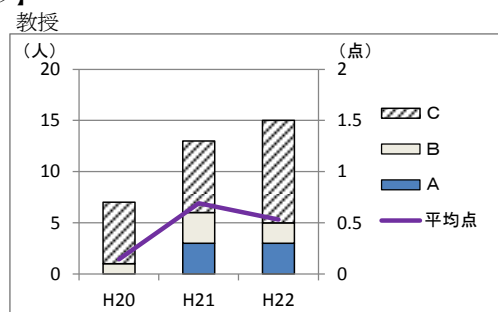
注1. 競争的資金とは、科研費、国プロジェクト、NEDO、JSTなど、公募によるものをいう。

注2. 申請とは、新規申請のことをいう。

A(2点):複数採択された B(1点):採択された C(0点):採択されなかった

		総合教育研究機構			文系			理系		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
A	教授	0	3	3	0	0	0	0	3	3
	准教授・講師	0	2	4	0	0	1	0	2	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	1	3	2	0	2	1	1	1	1
	准教授・講師	2	4	0	1	3	0	1	1	0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	6	7	10	3	3	4	3	4	6
	准教授・講師	14	13	12	8	5	5	6	8	7
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	0.1	0.7	0.5	0.0	0.4	0.2	0.3	0.9	0.7
	准教授・講師	0.1	0.4	0.5	0.1	0.4	0.3	0.1	0.5	0.6
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

機構全体として、中間値を下回る平均点を示している。職階別では、教授のほうが、准教授・講師を上回っている。申請率の低さから見ると、この数値の有意性は不明である。申請数の増加が課題であると思われるが、研究分野、研究テーマによっては、外部資金獲得にそぐわないものが少ないことが、理由欄の記述から読みとられる。採択の可能性のないものを申請することの是非は難問である。

【研究活動についての分析結果】

機構全体として、教育活動の自己評価に比べて、研究活動の自己評価は低い。それは、研究をないがしろにしているということではなく、教育活動その他に割かれる時間が多くなる分だけ研究活動の時間が削られる傾向の現れである。その結果、研究活動についての自己評価が低くなっているのだと考えられる。

3. 社会貢献活動

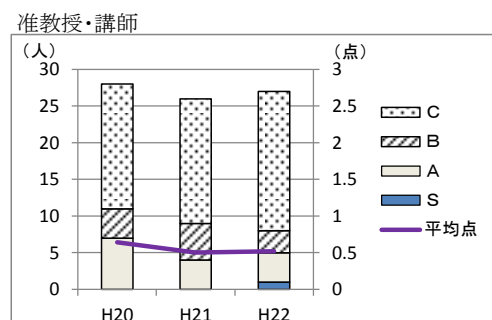
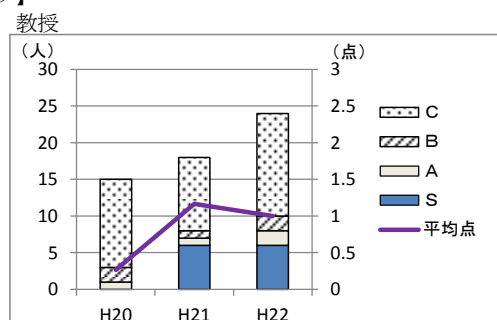
(1) 府等の委員会への参画活動

【評価の観点9】:国・府・市町村等の委員会への参画により、行政課題に対応した研究・提言を積極的に行ったか。

S(3点):非常に積極的に行った A(2点):積極的に行った B(1点):普通であった C(0点):積極的でなかった

		総合教育研究機構			文系			理系		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	0	6	6	0	4	3	0	2	3
	准教授・講師	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	1	1	2	0	0	0	1	1	2
	准教授・講師	7	4	4	4	3	3	3	1	1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	2	1	2	1	1	2	1	0	0
	准教授・講師	4	5	3	1	0	0	3	5	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	12	10	14	7	5	8	5	5	6
	准教授・講師	17	17	19	10	9	13	7	8	6
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	0.3	1.2	1.0	0.1	1.3	0.8	0.4	1.0	1.2
	准教授・講師	0.6	0.5	0.5	0.6	0.5	0.4	0.7	0.5	0.7
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

機構全体として、中間値より低い平均点を示している。教授層のほうが准教授・講師層より高めの数値になっているのは、キャリアの長さや参画可能性の間にある程度相関関係があるからと考えられる。

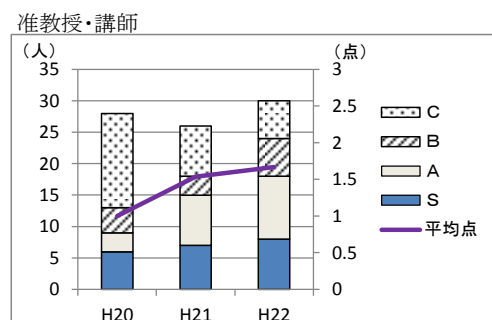
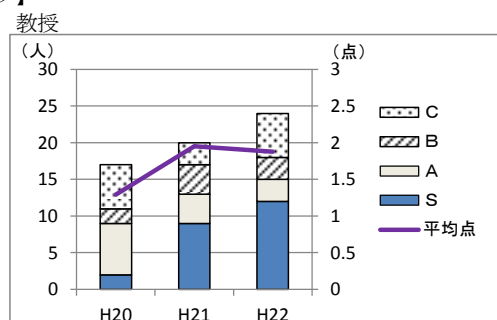
(2) 地域に密着した学習支援活動

【評価の観点10】: 社会人向けの公開講座、高大連携講座等を通じて、地域に密着した学習支援活動を積極的に行ったか。

S(3点): 非常に積極的に行った A(2点): 積極的に行った B(1点): 普通であった C(0点): 積極的でなかった

		総合教育研究機構			文系			理系		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	2	9	12	1	5	7	1	4	5
	准教授・講師	6	7	8	3	2	2	3	5	6
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	7	4	3	4	3	1	3	1	2
	准教授・講師	3	8	10	0	3	4	3	5	6
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	2	4	3	1	1	1	1	3	2
	准教授・講師	4	3	6	3	0	4	1	3	2
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	6	3	6	3	2	4	3	1	2
	准教授・講師	15	8	6	9	7	6	6	1	0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	1.3	2.0	1.9	1.3	2.0	1.8	1.3	1.9	1.9
	准教授・講師	1.0	1.5	1.7	0.8	1.0	1.1	1.2	2.0	2.3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

機構全体として、H20年度だけは中間値より平均点が低かったが、その後中間値を越えている。職階別では、教授のほうが、准教授・講師よりもおおむね高い自己評価をしている。H20～22年の経年変化は、全体としては高下しているが、理系の准教授・講師層において自己評価が上がっているのが目につく。

【社会貢献活動についての分析結果】

府等への委員会への参画は、行政課題との直接的関連性が薄い研究領域の場合には、当然ながら依頼が少ない。機構においても特定の教員に依頼が集中する傾向がある。地域に密着した学習支援活動については、機構では、市民フォーラムや体験参加型講座などに積極的にとりくんできた。

4. 大学運営活動

(1) 各種委員会活動

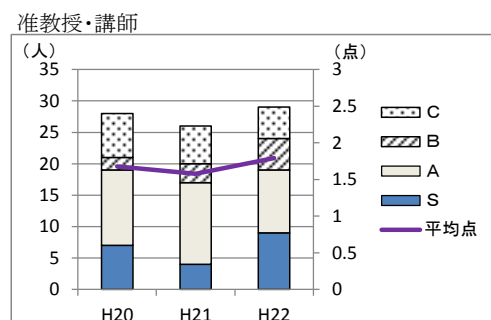
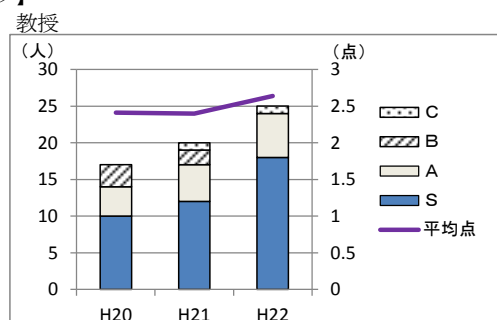
【評価の観点11】: 大学、学部等の各種委員会等に参画し、その運営に寄与したか。

S(3点): 十分に寄与した A(2点): 寄与した B(1点): あまり寄与しなかった C(0点): 寄与しなかった

(人)

		総合教育研究機構			文系			理系		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	10	12	18	4	5	9	6	7	9
	准教授・講師	7	4	9	5	3	4	2	1	5
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	4	5	6	2	3	3	2	2	3
	准教授・講師	12	13	10	6	5	6	6	8	4
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	3	2	0	3	2	0	0	0	0
	准教授・講師	2	3	5	1	2	4	1	1	1
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	0	1	1	0	1	1	0	0	0
	准教授・講師	7	6	5	3	2	2	4	4	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	2.4	2.4	2.6	2.1	2.1	2.5	2.8	2.8	2.8
	准教授・講師	1.7	1.6	1.8	1.9	1.8	1.8	1.5	1.4	1.8
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

機構全体として、中間値を上回る平均点を示している。とりわけ教授の自己評価の高さは目を引く。それは教授の責任意識の反映である可能性が大きい。文系と理系の間で、その傾向に違いはないが、理系のほうが教授層の評価がさらに高くなっている

【大学運営活動についての分析結果】

教授層については、調査項目中で最も高い平均点を示している。しかし准教授・講師層においては、教育関連項目よりはかなり低い、研究関連項目より高い数値になっている。教授層と准教授・講師層の差については、責任分担に関する一定の了解の結果だと解される。しかし、それだけで准教授・講師の研究時間の確保にはなっていないように見える。

■学部・研究科等固有の項目

○総合教育研究機構

5－(1) 機構固有の業務を通じた活動

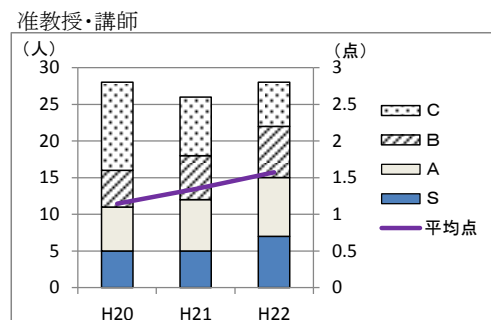
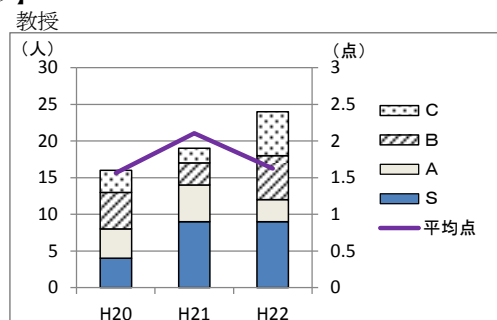
【評価の観点】：機構固有の業務(例えば、高等教育開発センター、エクステンション・センター等)を行ったか。

S(3点)：非常に積極的に行った A(2点)：積極的に行った B(1点)：普通であった C(0点)：積極的でなかった

(人)

		総合教育研究機構			文系			理系		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	4	9	9	2	4	4	2	5	5
	准教授・講師	5	5	7	3	2	2	2	3	5
	助教・助手	—	—	—	—	—	—	—	—	—
A	教授	4	5	3	0	3	2	4	2	1
	准教授・講師	6	7	8	3	4	6	3	3	2
	助教・助手	—	—	—	—	—	—	—	—	—
B	教授	5	3	6	3	1	2	2	2	4
	准教授・講師	5	6	7	2	2	4	3	4	3
	助教・助手	—	—	—	—	—	—	—	—	—
C	教授	3	2	6	3	2	4	0	0	2
	准教授・講師	12	8	6	7	4	4	5	4	2
	助教・助手	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平均点	教授	1.6	2.1	1.6	1.1	1.9	1.5	2.0	2.3	1.8
	准教授・講師	1.1	1.3	1.6	1.1	1.3	1.4	1.2	1.4	1.8
	助教・助手	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【グラフ】



【特記事項】

機構固有の業務については、教授層のほうが准教授・講師層よりも自己評価が高く、平均値は中間値を上回っている。准教授・講師層においては、H20年度には低かったが上昇傾向にあり、H22年度においては中間値を上回った。とくに2センターの活動に、機構教員が力を注いでいるという意識の現れであろう。

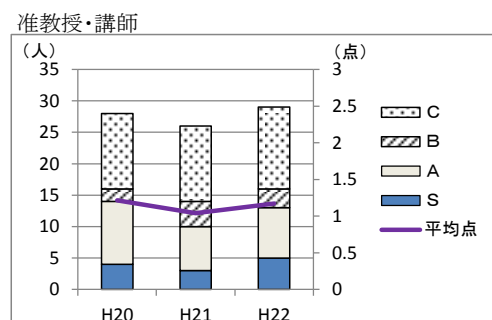
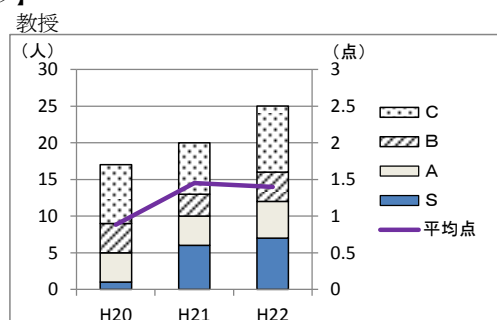
5-(2) 機構固有のプロジェクト活動

【評価の観点】：機構固有のプロジェクト(例えば、特色GP,調査委託、機構プロジェクト等)の教育研究活動を積極的に行ったか。

S(3点):非常に積極的に行った A(2点):積極的に行った B(1点):普通であった C(0点):積極的でなかった

		総合教育研究機構			文系			理系		
		H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
S	教授	1	6	7	0	4	3	1	2	4
	准教授・講師	4	3	5	3	1	0	1	2	5
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A	教授	4	4	5	0	1	1	4	3	4
	准教授・講師	10	7	8	4	1	3	6	6	5
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	教授	4	3	4	3	1	2	1	2	2
	准教授・講師	2	4	3	2	3	3	0	1	0
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	教授	8	7	9	6	5	7	2	2	2
	准教授・講師	12	12	13	6	7	10	6	5	3
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均点	教授	0.9	1.5	1.4	0.3	1.4	1.0	1.5	1.6	1.8
	准教授・講師	1.2	1.0	1.2	1.3	0.7	0.6	1.2	1.4	1.9
	助教・助手	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【グラフ】



【特記事項】

機構全体として、平均値は中間値を下回っているが、それは機構固有のプロジェクト活動が、すべての人が毎年たずさわれるものではないことの反映で、活動そのものが低調であることを示すものではない。